

科目名		【人間の尊厳と自立】					
担当者		岸本 恭子					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	前期	講義	2単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	介護福祉士として求められる専門職としての倫理観を身につけるために、多角的な視点を養い、現場で活かせる実践的な力を培っていく、特に、人間の「自立」や「自律」について深く学び、一人ひとりの「その人らしさ」を尊重したケアのあり方を、具体的な事例を通して理解し、実践力を高めていく。						
到達目標	介護福祉士に求められるのは、単に技術を身につけることだけではなく、専門職としての倫理観や人間理解を基盤にした実践力を育てること。専門職としての倫理観の基礎となるような様々な視点を養い、介護実践に役立つ力を身につける。歴史の変遷を理解する過程で、尊厳や人権尊重や権利擁護（アドボカシー）についても理解を深める。						
実務経験と 授業内容への 活用	実務経験と授業内容を結びつけて学ぶことで、社会に出ると、倫理観や尊厳、自立の捉え方が人によって大きく異なることを実感する。その違いを理解したうえで、介護福祉士という専門職として、どのように考え、どのように行動するべきかという基礎を身につけたい。現場での経験と学びを重ねながら、自分自身の価値判断基準や支援の軸を確立していくことが、専門職としての成長につながると考える。ここでは学びの部分の基礎力を養成する。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	岸本	講義	<p>内 容 オリエンテーション、尊厳・自立・権利擁護の全体像 授業のねらい、評価方法の説明。尊厳・自立・権利擁護の全体像</p> <p>到達目標 尊厳・自立・権利擁護の全体像を理解する</p>			
	2.	岸本	講義	<p>内 容 人間の自立とは 自立と自律とは、意思決定と意思決定支援とは</p> <p>到達目標 自立と自律や意思決定の用語の理解と内容の理解をする</p>			
	3.	岸本	講義	<p>内 容 人間の尊厳とは 人間の尊厳と利用者主体について、憲法やその他法律、ICIDHやICFから学ぶ</p> <p>到達目標 「人間の尊厳」および憲法上の「個人の尊厳」・「個人の尊重」の意味及びその関係性についてや自立から利用者主体について理解する</p>			
	4.	岸本	講義	<p>内 容 人間の尊厳の歴史① 人権思想の潮流と福祉の変遷について学ぶ</p> <p>到達目標 歴史から学ぶ尊厳の重要性を理解する</p>			
	5.	岸本	講義	<p>内 容 人間の尊厳の歴史② 人権思想の潮流と福祉の変遷について学ぶ</p> <p>到達目標 歴史から学ぶ尊厳の重要性理解する</p>			
	6.	岸本	講義	<p>内 容 優生思想とノーマライゼーションについて 優生思想の広まりとノーマライゼーションの発展について</p> <p>到達目標 優生思想のとノーマライゼーションの人権思想の歴史的变化を理解する</p>			
	7.	岸本	講義	<p>内 容 権利擁護（アドボカシー）について 権利擁護と権利侵害について</p> <p>到達目標 アドボカシーの意味の理解、利用者の代弁者としての役割について、自己決定を支える支援を学ぶ</p>			
	8.	岸本	講義	<p>内 容 生命・医療倫理について 生命・医療倫理について理解し、医療従事者、福祉従事者について学ぶ</p> <p>到達目標 生命・医療倫理について理解し、医療従事者、福祉従事者について理解する</p>			

9.	岸本	講義	<p>内 容 介護保険法と障害者基本法と認知症基本法の自立とは 各法制度の自立と、尊厳について学ぶ</p> <p>到達目標 各法制度に定められている自立と尊厳について理解する</p>				
10.	岸本	講義	<p>内 容 事例検討① 尊厳を守る支援とは</p> <p>到達目標 事例を通して尊厳について学ぶ - 実際のケースを用いたグループワーク - 尊厳が脅かされる場面の分析 - 望ましい支援の検討</p>				
11.	岸本	講義	<p>内 容 事例検討② 意思決定と自立</p> <p>到達目標 事例を通して意思決定と自立について - 自立の多様な捉え方（身体・心理・社会的自立） - 「できることを奪わない支援」とは - 自立支援の実践例</p>				
12.	岸本	講義	<p>内 容 事例検討③ 意思決定と自立</p> <p>到達目標 事例を通して意思決定と自立について - 自立の多様な捉え方（身体・心理・社会的自立） - 「できることを奪わない支援」とは - 自立支援の実践例</p>				
13.	岸本	講義	<p>内 容 人間の尊厳と自立のまとめ① 人間の尊厳と自律のまとめ（変遷について）</p> <p>到達目標 変遷について理解度の確認 - 学んだ内容の整理</p>				
14.	岸本	講義	<p>内 容 人間の尊厳と自立のまとめ② 人間の尊厳と自立の総まとめ</p> <p>到達目標 今までの尊厳や自立についての再確認 - 自分の倫理観・支援観の言語化</p>				
15.	岸本	試験	<p>内 容 人間の尊厳と自立 前期試験実施（記述式）</p> <p>到達目標 理解の確認</p>				
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	60%		20%			20%	100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座① 「人間の理解」（第2版） 編集：介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献	「ヘルパーと高齢者のちょっと素敵な時間」 向山久美著 ドメス出版						
その他 （留意点等）							

科目名	【人間関係とコミュニケーションⅠ】						
担当者	関根 一春						
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	前期	講義	2単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	①介挿実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。 ②介護実践における介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎知識を理解し、チームケアについて理解する。						
到達目標	①人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解できる。 ②介護実践場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を身につけられる。 ③介護実践のために必要な人間関係を理解し、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を身につけられる。						
実務経験と 授業内容への 活用	高齢者・障害者分野にて、在宅・施設で20年勤務してきた実務経験にもとづき、対象者本人・家族、ケア提供をおこなうチーム・メンバーとの かかわり方やコミュニケーションのあり方などを含めて講義する。						
	担当	授業方法	内容・到達目標				
授業計画	1.	関根	講義	<p>内 容 人間と人間関係①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・人間らしさの象徴として介護を行うように進化した過程について学ぶ。 ・人間関係における自己理解（自己覚知・自己開示）と他者理解を学ぶ。 <p>到達目標 人間関係のなかで自分と他者を理解すること必要性を理解できる。</p>			
	2.	関根	講義	<p>内 容 人間と人間関係②</p> <p>発達心理学からみた人間関係を学ぶ</p> <p>到達目標 人の発達にともなう、人間関係の広がりを理解する。</p>			
	3.	関根	講義	<p>内 容 人間と人間関係③</p> <p>社会心理学からみた人間関係を学ぶ。</p> <p>到達目標 集団がもつ心理学的な力が、人間関係にどのような影響をおよぼすかを理解する。</p>			
	4.	関根	講義	<p>内 容 人間と人間関係④</p> <p>人間関係とストレスを学ぶ。</p> <p>到達目標 ストレスについて学び、適切に対処するための方法を理解する。</p>			
	5.	関根	講義	<p>内 容 対人関係におけるコミュニケーション①</p> <p>コミュニケーションの特性や構造について学ぶ。</p> <p>到達目標 コミュニケーションの特性や構造について理解できる。</p>			
	6.	関根	講義	<p>内 容 対人関係におけるコミュニケーション②</p> <p>コミュニケーションの手段について学ぶ。</p> <p>到達目標 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションについて理解でき、説明ができる。</p>			
	7.	関根	講義	<p>内 容 対人関係におけるコミュニケーション③</p> <p>対人関係におけるコミュニケーションにおけるふり返り。</p> <p>到達目標 座学で学んだことが、実際に活用できる。</p>			
	8.	関根	講義	<p>内 容 対人援助関係とコミュニケーション①</p> <p>対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーションを学ぶ。</p> <p>到達目標 円滑なコミュニケーションをはかろうえでの配慮について理解できる。</p>			

9.	関根	講義	<p>内 容 対人援助関係とコミュニケーション② 対人援助における基本的態度とバISTEKKの7原則を学ぶ。①</p> <p>到達目標 援助者としてのコミュニケーションの基礎について理解でき、説明ができる。</p>				
10.	関根	講義	<p>内 容 対人援助関係とコミュニケーション③ 対人援助における基本的態度とバISTEKKの7原則を学ぶ。②</p> <p>到達目標 援助者としてのコミュニケーションの基礎について理解でき、説明ができる。</p>				
11.	関根	講義	<p>内 容 組織におけるコミュニケーション① 組織の条件とコミュニケーションの特徴を学ぶ。</p> <p>到達目標 組織の条件とコミュニケーションの特徴を理解でき、説明ができる。</p>				
12.	関根	講義	<p>内 容 組織におけるコミュニケーション② 組織における情報の流れを学ぶ。</p> <p>到達目標 組織における情報の流れを理解する。</p>				
13.	関根	講義	<p>内 容 組織におけるコミュニケーション③ 組織において求められるコミュニケーションを学ぶ。</p> <p>到達目標 組織において求められるコミュニケーションを理解し、説明ができる。</p>				
14.	関根	講義	<p>内 容 全体のふり返り これまでの講義全体をふり返る。</p> <p>到達目標 自己覚知と他者理解、言語的・非言語的コミュニケーション、援助者としての基本的態度と援助関係の原則、組織内で求められるコミュニケーションなどを、再確認する。</p>				
15.	関根	講義	<p>内 容 総括</p> <p>到達目標</p>				
成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	80%	10%				10%	100%
教科書	『最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解【第2版】』 (中央法規出版 2022年2月刊行)						
参考文献							
その他 (留意点等)	講義の進捗状況により、講義内容が変更になる場合がある。						

科目名		【人間関係とコミュニケーションⅡ】					
担当者		関根 一春					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	後期	講義	2単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	①介挿実践のために必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。 ②介護実践における介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎知識を理解し、チームケアについて理解する。						
到達目標	①人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解できる。 ②介護実践場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を身につけられる。 ③介護実践のために必要な人間関係を理解し、他者への情報の伝達に必要な基礎的なコミュニケーション能力を身につけられる。						
実務経験と 授業内容への 活用	高齢者・障害者分野にて、在宅・施設で20年勤務してきた実務経験にもとづき、対象者本人・家族、ケア提供をおこなうチーム・メンバーとの かかわり方やコミュニケーションのあり方などを含めて講義する。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	関根	講義	<p>内 容 介護実践におけるチームマネジメントの意義① ヒューマンサービスである介護サービスと他のサービスとの相違点を学ぶ。</p> <p>到達目標 介護サービスと他のサービスの相違点を理解でき、関連性を説明できる。</p>			
	2.	関根	講義	<p>内 容 介護実践におけるチームマネジメントの意義② 介護実践にチームマネジメントが必要とされる意義を学ぶ。</p> <p>到達目標 チームマネジメントの必要性を理解でき、説明できる。</p>			
	3.	関根	講義	<p>内 容 介護実践におけるチームマネジメントの意義③ 介護実践におけるチームマネジメントの基本となる考え方を学ぶ。</p> <p>到達目標 チームマネジメントの取り組みを理解でき、説明できる。</p>			
	4.	関根	講義	<p>内 容 ケアを展開するためのチームマネジメント① ケアを展開するために必要なチームとその取り組みを学ぶ。</p> <p>到達目標 ケアを展開するためのチームのあり方や機能について理解でき、説明できる。</p>			
	5.	関根	講義	<p>内 容 ケアを展開するためのチームマネジメント② チームでケアを展開するためのマネジメントを学ぶ。</p> <p>到達目標 チームでケアを展開するために必要な取り組みについて理解でき、説明できる。</p>			
	6.	関根	講義	<p>内 容 ケアを展開するためのチームマネジメント③ チームの力を最大化するためのマネジメントを学ぶ。</p> <p>到達目標 チームの力を最大化するためのリーダーシップ、フォロワーシップについて理解でき、説明できる。</p>			
	7.	関根	講義	<p>内 容 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント① 介護福祉職のキャリアと求められる実践力を学ぶ。</p> <p>到達目標 キャリアに応じて求められる実践力、チームケアのために必要な実践力について理解でき、説明できる。</p>			
	8.	関根	講義	<p>内 容 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント② 介護福祉職としてのキャリアデザインを学ぶ。</p> <p>到達目標 キャリアデザインについて理解でき、介護福祉士としてのキャリアデザインがイメージできる。</p>			

9.	関根	講義	<p>内 容 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント③ 介護福祉職のキャリア支援・開発を学ぶ。</p> <p>到達目標 キャリア支援・開発について、どのようなことがあるかを理解でき、説明できる。</p>				
10.	関根	講義	<p>内 容 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント④ 自己研鑽に必要な姿勢を学ぶ。</p> <p>到達目標 自身のキャリアを想定した自己研鑽のあり方・姿勢についてイメージできる。</p>				
11.	関根	講義	<p>内 容 組織の目標達成のためのチームマネジメント① 介護サービスを支える組織の構造を学ぶ。</p> <p>到達目標 質の高い介護サービスは組織的に支えられていることを理解でき、説明できる。</p>				
12.	関根	講義	<p>内 容 組織の目標達成のためのチームマネジメント② 介護サービスを支える組織の機能と役割を学ぶ。</p> <p>到達目標 組織がどのような役割・機能を果たしているかを理解でき、説明できる。</p>				
13.	関根	講義	<p>内 容 組織の目標達成のためのチームマネジメント③ 介護サービスを支える組織の管理を学ぶ。</p> <p>到達目標 組織がどのような構造になっているか、どのように管理されているかを理解でき、説明できる。</p>				
14.	関根	講義	<p>内 容 全体のふり返り これまでの講義内容の振り返りと確認。</p> <p>到達目標 人間関係とコミュニケーションを理解し、実践できるようになる。</p>				
15.	関根	講義	<p>内 容 総括</p> <p>到達目標</p>				
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	80%	10%				10%	100%
教科書	『最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解【第2版】』（中央法規出版 2022年2月刊行）						
参考文献							
その他 （留意点等）	講義の進捗状況により、講義内容が変更になる場合がある。						

科目名	【高齢者福祉と障害者福祉（障害者福祉）】						
担当者	片桐 正春						
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	後期	講義	2単位	8/15回	
授業の目的 (ねらい)	介護福祉士国家試験の出題基準を網羅し、合格に必要な知識を定着させると同時に、将来の介護現場において、利用者の権利を守り、制度を適切に活用して自立を支援できる実践的な専門性を養う。						
到達目標	1. 障害者福祉の歴史の変遷と「措置から契約へ」の流れを説明できる。 2. 障害者総合支援法のサービス体系を理解し、国家試験の類似問題を解くことができる。 3. 虐待防止や差別解消の視点を持ち、現場で「合理的配慮」を具体的にイメージできる。						
実務経験と 授業内容への 活用	相談支援や直接介助の現場経験（あるいはこれまでの指導経験）に基づき、単なる法律の暗記ではなく、「なぜこの制度が必要なのか」「サービス利用時に現場で起こりやすい課題は何か」といった、実習や就職後に直結する生きた事例を講義に組み込む。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	片桐	講義	内容 福祉の歴史と理念：権利としての福祉 戦後の福祉三法からIL運動、ノーマライゼーションへの流れ。 到達目標 障害者福祉のスローガンや歴史的背景を理解し、国試の歴史問題を解けるようになる。			
	2.	片桐	講義	内容 障害の定義と制度の対象：憲法25条の具現化 三障害と各種手帳の仕組み、難病の対象拡大について。 到達目標 各種障害者手帳の役割と、制度上の「障害者」の定義を正確に識別できる。			
	3.	片桐	講義	内容 権利擁護の最前線：虐待防止と差別解消 2つの新しい法律と、現場での適切な関わり（合理的配慮）。 到達目標 虐待の定義を理解し、専門職として不適切な関わりを是正する視点を身につける。			
	4.	片桐	講義	内容 制度の構造改革：措置から契約へ 社会福祉基礎構造改革と、総合支援法が市町村主体である理由。 到達目標 制度の構造的変化を理解し、市町村が果たす役割と協議会の意義を説明できる。			
	5.	片桐	講義	内容 実践！障害福祉サービス：生活を支える技法 居宅介護から就労支援まで、具体的なサービス内容の理解。 到達目標 利用者のニーズに応じた具体的なサービス（介護給付・訓練等給付）を選択できる。			
	6.	片桐	講義	内容 ケアマネジメント：計画作成と多職種連携 相談支援専門員の役割と、サービス利用開始までのプロセス。 到達目標 申請から支給決定までの流れを把握し、多職種との情報共有の重要性を理解する。			
	7.	片桐	講義	内容 地域生活の実現とまとめ 昨今出題が増えている障害者雇用促進法をまとめ、自立支援医療や補装具、移動支援の補足。全7回の総復習。 到達目標 これまで学んだ知識を統合し、国家試験レベルの総合問題に対応できる力をつける。			
	8.	片桐	講義	内容 振り返り 障害者福祉制度と障害福祉の関連法についての振り返りを行う。 到達目標 障害者福祉制度と障害福祉の関連法について説明できる。			
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	合計	
	80%	20%				100%	
教科書	最新 介護福祉士養成講座②「社会の理解」（第3版）編集：介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献							
その他 (留意点等)							

科目名		【高齢者福祉と障害者福祉（高齢者福祉）】					
担当者		半田 仁					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	後期	講義	2単位	8/15回	
授業の目的 (ねらい)	①社会保障の制度・施策としての高齢者福祉と介護保険制度の基礎的な知識を身につけることを目的とする。 ②高齢者保健福祉制度の基本的なしくみ、介護保険制度の内容を理解し現状と課題をとらえる能力を養う。						
到達目標	①高齢者福祉と介護保険制度の基礎を理解することができる。 ②高齢者保健福祉制度、介護保険制度について多角的な視点で現状の課題をとらえることができる。						
実務経験と 授業内容への 活用	通所介護および特別養護老人ホームにて介護職員として携わった際の社会の理解における高齢者の現状と今日的課題をとらえることの重要性を具体例として講義や演習の中にとり活用していく。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	半田	講義	<p>内 容 高齢者保健福祉の動向 高齢者保健福祉における施策の視点の変化と動向に変化をもたらした歴史を含め社会背景について学ぶ。</p> <p>到達目標 歴史および社会背景から高齢者保健福祉における施策の視点の変化と動向を理解することができる。</p>			
	2.	半田	講義	<p>内 容 高齢者保健福祉における今日的課題と展望 高齢者保健福祉における現在の社会の課題について多角的な視点からの思考過程を学ぶ。</p> <p>到達目標 歴史および社会背景から高齢者保健福祉における現状を理解し展望に向けて複数の情報を区別して整理することができる。</p>			
	3.	半田	講義	<p>内 容 高齢者保健福祉に関連する法体系と老人福祉法と高齢者の医療に関する法律 高齢者保健福祉に関連する法体系の概要および高齢者保健福祉に関連する各法律の役割について学ぶ。</p> <p>到達目標 高齢者保健福祉に関連する法体系の概要および関連する各法律の役割について理解することができる。</p>			
	4.	半田	講義	<p>内 容 介護保険制度創設の背景と目的 歴史および社会背景から介護保険制度創設の背景と目的について学ぶ。</p> <p>到達目標 介護保険制度創設の背景と目的について理解することができる。</p>			
	5.	半田	講義	<p>内 容 介護保険制度のしくみの基本的理解 介護に関する保険の制度としてしくみについて学ぶ。</p> <p>到達目標 介護に関する保険の制度としてしくみについて学ぶ。</p>			
	6.	半田	講義	<p>内 容 介護保険サービス 介護保険サービスの利用手続きについて学ぶ。</p> <p>到達目標 介護保険サービスの利用手続きの流れとサービスの利用について理解することができる。</p>			
	7.	半田	講義	<p>内 容 振り返り 高齢者保健福祉と関連法体系および介護保険制度を振り返る。</p> <p>到達目標 高齢者保健福祉と関連法体系および介護保険制度について理解することができる。</p>			
	8.	半田	講義	<p>内 容 振り返り 高齢者保健福祉と関連法体系および介護保険制度を振り返る。</p> <p>到達目標 高齢者保健福祉と関連法体系および介護保険制度について理解することができる。</p>			
成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	60%	30%				10%	100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座② 「社会の理解」 (第3版) 編集:介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献	いとう総研資格取得支援センター 編集『見て覚える! 介護福祉士国試ナビ 2027』 (中央法規、2026年)						
その他 (留意点等)	前後の講義との関係性から科目全体と他の科目との相互理解を深めていくように学習を進めてほしい。						

科目名		【介護のための心理と音楽（音楽）】					
担当者		平野 夏子					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	前期	講義	2単位	7/15回	
授業の目的 (ねらい)	①高齢者が児童期・青年期に慣れ親しんだ音楽について学び、介護実践に役立てる。 ②音楽療法理論に基づき、音楽を心身の活性化やリラクゼーション、コミュニケーションの促進に活用する方法を学ぶ。						
到達目標	①音楽療法的な視点を持って音楽レクリエーションを計画することができる。 ②音楽を活用してコミュニケーションを促進することができる。						
実務経験と 授業内容への 活用	音楽療法士として30年以上にわたり介護施設および認知症病棟で音楽療法を実践し、豊島区認証の認知症カフェにおいても音楽を活用した実践を行ってきた。この経験をもとに、介護の現場で音楽を有効に活用する方法を、体験的・実践的な授業の中で学んでもらう。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	平野	講義	<p>内 容 音楽療法的音楽活動とは 音楽療法について概要を解説し、実際に行われている活動の中から「回想法」と「パタカラ体操」を紹介する。</p> <p>到達目標 音楽が高齢者の心身に良い影響を与え、介護の役に立つことを知る。</p>			
	2.	平野	講義	<p>内 容 音楽を用いた身体活動の目的と方法 音楽を用いた簡単な身体活動を紹介する。活動の目的について解説し、教科書に付属しているCDを使用して、音楽を用いた身体活動を練習する。</p> <p>到達目標 付属のCDを用いた身体活動の方法を知る。</p>			
	3.	平野	講義	<p>内 容 楽器を用いた音楽活動の目的と方法 音楽療法で使用される楽器について紹介し、介護現場で使用する際の注意事項を学ぶ。簡単な楽器活動を紹介し、実際に体験する。</p> <p>到達目標 介護現場で活用できる楽器について学び、使用上の注意事項を理解する。</p>			
	4.	平野	講義	<p>内 容 童謡唱歌を用いた音楽活動の目的と方法 高齢者が幼少時に慣れ親しんだ童謡唱歌を紹介し、回想法や、高次脳機能訓練に活用する方法を紹介する。童謡唱歌について検索する練習をする。教科書に付属しているCDを使用して、童謡唱歌を用いた音楽活動を練習する。</p> <p>到達目標 童謡唱歌について検索できるようになる。付属のCDを用いた活動の方法を知る。</p>			
	5.	平野	講義	<p>内 容 流行歌を用いた音楽活動の目的と方法 昭和初期、中期、後期に分けて高齢者にとって馴染みの深い流行歌について概説し、流行歌を活用した音楽活動を紹介する。認知症グループでの実践事例と、流行歌を活動で使用するためのポイントを解説する。</p> <p>到達目標 流行歌について検索できるようになる。流行歌を活動で使用するためのポイントを理解する。</p>			
	6.	平野	講義	<p>内 容 音楽レクリエーションの進め方 これまでに学んだ音楽活動を用いて、1時間前後の音楽レクリエーション・プログラムを作成する方法を学ぶ。実際に活動を進行するにあたってのポイントを学ぶ。</p> <p>到達目標 教科書に紹介されている音楽活動と付属のCDを活用して音楽レクリエーションの計画ができる。</p>			
	7.	平野	講義	<p>内 容 音楽活動の実践 教科書に紹介されている音楽活動を1つ選び、実践方法を練習する。活動の目的を相手に伝え、わかりやすく参加しやすい活動を提供する方法を、学生同士で話し合っ工夫する。</p> <p>到達目標 活動の目的を対象者に伝え、教科書付属のCDを用いて活動を実践する。</p>			
	8.	平野	講義	<p>内 容 実技振り返り 提出された実技動画に対して個別にフィードバックを行う。</p> <p>到達目標 活動の目的を対象者に伝えられているか、わかりやすく興味関心を引く活動の提供ができているかを確認する。</p>			
成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	合計	
				100%		100%	
教科書	武知治樹・加藤俊徳：監修『CD／QR音源付ですぐに使える！高齢者のための音楽レクリエーション 音楽療法のプロが教える』（メイツユニバーサルコンテンツ、2022年）						
参考文献	甲谷至：著『歌うことが口腔ケアになる』（あおぞら音楽社、2008年）						
その他 (留意点等)							

科目名		【介護のための心理と音楽（心理）】					
担当者		堀江 栄利子					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	前期	講義	2単位	8/15回	
授業の目的 (ねらい)	本授業では、利用者の行動の裏にある「こころの叫び」を理解できる、プロの介護職としての心の持ち方を身につけます。実際の介護の事例や、様々な国の文化をクラスで共有し、確認し合います。そうすることで、実習に行く前の準備の状態の個人差をなくし、全員が同じレベルで安心して現場へ臨めるように整えます。さらに、介護者自身がストレスに負けないための心の守り方を学び、実習や就職後も長く元気に働き続けられる基礎を作ります。						
到達目標	1. 老化に伴う心理的变化を理解し、母国との文化差を踏まえ利用者に寄り添う姿勢を具体的に説明できる。 2. BPSDを未充足のニーズと捉え、多文化背景を持つクラスメートとの対話を通じて、具体的な現場対応策を提案できる。 3. ストレスの仕組みを図解で学び、自身の変化に早期に気づき、現場で即座に実践可能なセルフケア法を具体的に挙げるができる。						
実務経験と授業内容への活用	高齢者福祉では介護福祉士としてBPSD支援等に、ケアマネジャーとしてアセスメントや多職種連携に従事しました。心理分野では、児童心理治療施設での支援や公認心理師として心療内科でのカウンセリングに携わってきました。現場経験と心理職の多角的な視点から、留学生にも理解しやすい表現で学習支援を行い、即戦力となる福祉人材を育成します。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	堀江	講義	<p>内 容 介護現場の「こころの理解」 講義：マズローの欲求階層説を基盤に、介護現場での「尊厳」を心理学的に解釈します。 演習：利用者の自尊心を傷つけないマナー。多文化背景による高齢者観の違いを共有します。</p> <p>到達目標 介護場面において利用者の「尊厳」を守るための具体的な態度を説明できる。</p>			
	2.	堀江	講義	<p>内 容 老化と発達の心理：喪失への共感 講義：老年期の身体変化と、それに伴う「喪失体験」（役割、健康、家族の喪失）の心理を学びます。 演習：できないことが増えた利用者の「もどかしさ」を体験し、共感的な言葉掛けを練習します。</p> <p>到達目標 高齢者が経験する心理的な変化を理解し、共感的な言葉掛けを選択できる。</p>			
	3.	堀江	講義	<p>内 容 BPSD（行動・心理症状）の理解 講義：BPSDを「障害」ではなく、本人の「未充足のニーズ（心の叫び）」として捉えます。 演習：バイステックの原則（非審判的態度）に基づき、利用者の不安を増大させる「言ってはいけないNGワード」を学びます。</p> <p>到達目標 利用者の不穏な行動を「自分を守るための心の動き」として解釈できる。</p>			
	4.	堀江	講義	<p>内 容 自信と意欲を促す技法：回想法 講義：最近の記憶は失われても「遠隔記憶」は保たれる特性を活かします。五感（匂いや音）を刺激し、過去の成功体験を語る心理的効果を学びます。 演習：写真や道具を使い、本人が誇りを取り戻す質問法を練習します。</p> <p>到達目標 回想法が自尊心の回復と生きる意欲に繋がる機序を理解し、実践できる。</p>			
	5.	堀江	講義	<p>内 容 意欲を引き出す：ユマニチュード 講義：「見る・話す・触れる・立つ」の4つの柱と、ケアを一連の物語にする「5つのステップ」を学びます。 演習：ケア終了時にポジティブな記憶を残す「感情の固定（ステップ4）」と、安心感を与える「再会の約束（ステップ5）」の声掛けを練習します。</p> <p>到達目標 技法一つで利用者の安心と意欲がどう変化するかを説明・実践できる。</p>			
	6.	堀江	講義	<p>内 容 介護者のメンタルヘルスとSOC 講義：バーンアウト予防のため、ストレス対処力であるSOC（首尾一貫感覚）を学びます。 演習：実習での困りごとを想定し、「わかる・できる・やるぞ」の3感覚を用いて自分を守るセルフケア案を作ります。</p> <p>到達目標 自身のストレス状態を自己覚知し、SOCを用いた対処法を挙げられる。</p>			
	7.	堀江	講義	<p>内 容 振り返り 学習した心理学的アプローチ（ユマニチュード、回想法等）を通じ、現場で求められる適切な対応能力を評価します。</p> <p>到達目標 学習内容の定着度を確認し、実習に向けた自信を得る。</p>			
	8.	堀江	講義	<p>内 容 総括 学習成果の再確認と全体講評。 これまでの学びを自信に変え、実習先で体現したい『こころの支援』の具体的な目標を確立・共有します。</p> <p>到達目標 学習内容を統合し、実習で「こころの理解」をどう具体的に活かすか宣言できる。</p>			
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	60%		20%			20%	100%
教科書	「認知症予防のための回想法 看護・介護に活かすアプローチ」 鈴木正典著（2013年） 日本看護協会出版会 「ユマニチュード入門」 本田 美和子著（2014年） 医学書院						
参考文献	「BPSDの定義、その症状と発症要因」 国立医療研究開発機構 「認知症高齢者における回想法の効果に関する文献研究」 姫路大学看護学部紀要						
その他 (留意点等)							

科目名		【介護の基本Ⅰ】					
担当者		野澤 美和					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	前期	講義	2単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	介護福祉の基本となる概念や理念を理解することができる。この授業では、介護福祉の基本となる尊厳を支える介護福祉の視点（考え方）を、介護を必要とする人の生活を地域で支えるしくみから理解をしていくことを目指す。尊厳を支える介護福祉の観点を理解するために、「介護福祉の概念」「介護を必要とする人の理解」「自立と自律に向けた介護福祉」について理解を深める						
到達目標	介護福祉理論の体系を修得するとともに、介護福祉士に求められる役割、価値を理解し、専門職としての姿勢を養うことができる。 ①介護の概念や定義、時代背景から考える介護問題を理解することができる ②介護を必要とする人の生活や生活歴、時代背景をイメージでき、その人らしい暮らしや生活の背景を考えることができる。尊厳を支える介護福祉の観点を理解できる ③介護を必要とする人が望む生活を送るための自己決定を促す介護福祉について考えることができる。介護現場や地域で実践されている自立と自律へ向けた介護福祉を理解できる						
実務経験と 授業内容への 活用	介護福祉士として現在に至るまで長く介護現場で勤めてきた為、現場において尊厳を大切にケアを考え実践してきた。尊厳と自立とは何かという部分を具体的に示しイメージを持たせることができる。また、介護保険制度が始まる前から介護職として勤務してきたため、介護保険前と施行後、そして現在までの変遷について伝えることができる。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	野澤	講義	内 容 オリエンテーション 介護とは何か プリント提示 現在の日本の人口、超高齢社会の現状、世帯構造など 到達目標 介護という言葉の意味と日本の高齢社会の現状をイメージできる			
	2.	野澤	講義	内 容 介護福祉を取り巻く環境 プリント提示 認知症高齢者の増加、介護職員の推移、外国人介護人材の受け入れの仕組み 到達目標 介護職員の必要性を理解できる			
	3.	野澤	講義	内 容 介護福祉の歴史① プリント提示 戦前から戦後の社会福祉施策まで 到達目標 戦前や戦後の施策対象者の違い、施設創設の流れを時代背景と共に理解できる			
	4.	野澤	講義	内 容 介護福祉の歴史② プリント提示 老人福祉法から介護福祉士創設まで 介護福祉の概念 到達目標 介護福祉士の創設の経緯、介護福祉の概念を理解できる			
	5.	野澤	講義	内 容 介護福祉の歴史③ プリント提示 ゴールドプラン・新ゴールドプラン・ゴールドプラン21の違い 介護保険法の導入 到達目標 ゴールドプランからゴールドプラン21の違いを学ぶ。 介護保険が導入した背景を理解できる			
	6.	野澤	講義	内 容 介護福祉の歴史④ プリント提示 介護保険制度の内容、介護福祉士の定義規定、 到達目標 措置制度から介護保険制度の違い、介護福祉士の定義規定の改正について理解できる			
	7.	野澤	講義	内 容 介護福祉の基本理念① プリント提示 ノーマライゼーションの思想、QOL、尊厳を支える介護、自立を支える介護 到達目標 利用者本位、尊厳のある介護、自立を支える介護とはどういうことなのかについて理解できる			
	8.	野澤	講義	内 容 社会福祉士及び介護福祉士法① プリント提示 法の制定及び改正法成立、法の概要、介護福祉士の資格取得方法、 到達目標 介護福祉士法の定義について学び、介護福祉士の資格取得について理解できる			

9.	野澤	講義	<p>内 容 介護福祉士の活動の場と役割① プリント提示 地域包括ケアシステムとは何かを学び、自分たちの市や区での取り組みを調べる（グループワーク）</p> <p>到達目標 地域包括ケアシステムを学び、介護福祉士が活動する場とその役割を理解できる</p>				
10.	野澤	講義	<p>内 容 介護福祉士の活動の場と役割② 発表 プリント提示 介護予防と医療的ケア</p> <p>到達目標 介護福祉士に必要な介護予防と医療的ケアを学び、介護福祉士が活動する場とその役割を理解できる（様々な福祉サービスについて調べる）</p>				
11.	野澤	講義	<p>内 容 介護福祉士の活動の場と役割③ プリント提示 人生の最終段階、災害時支援</p> <p>到達目標 介護福祉士に必要な人生の最終段階と災害支援を学び、介護福祉士が活動する場とその役割を理解できる（自分自身の死生観があるように、各利用者にもあるということを理解する）</p>				
12.	野澤	講義	<p>内 容 介護福祉士に求められる役割とその養成① プリント提示 介護福祉士養成のカリキュラム変遷、介護福祉現場での中心的役割としての介護福祉士への期待</p> <p>到達目標 期待される介護福祉士像を理解し、卒業後の専門職としてのイメージを作ることができる</p>				
13.	野澤	講義	<p>内 容 介護福祉士に求められる役割とその養成② 学生自身が描いていた介護福祉士像と求められている介護福祉士像との比較。</p> <p>到達目標 期待される介護福祉士像を理解し、卒業後の専門職としてのイメージを作ることができる</p>				
14.	野澤	講義	<p>内 容 振り返り 前期に学習した内容の復習</p> <p>到達目標 学んだ内容を振り返り、再度復習する</p>				
15.	野澤	講義	<p>内 容 振り返り 前期の授業振り返り</p> <p>到達目標 授業全体を通しての振り返り</p>				
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	50%	20%	10%		10%	10%	100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座③ 「介護の基本Ⅰ」（第3版）編集：介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献	授業内容に応じた参考資料を配布する						
その他 （留意点等）							

科目名		【介護の基本Ⅱ】					
担当者		野澤 美和					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	後期	講義	2単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	介護福祉士の役割を学び、資格取得後の求められる介護人材を理解する 自立支援の考え方、ICFの視点に基づくアセスメントを学ぶ。エンパワメントの視点から個々の状態や自立支援に応じた環境整備や介護予防の方法を習得する						
到達目標	介護福祉士の役割と機能を理解し、自立支援の考え方を展開できる ICFに基づきエンパワメントの視点を実践できる 介護福祉士取得時の到達目標を理解でき、卒業後が意識できる 自立支援の環境整備ができ介護予防を実践できる						
実務経験と 授業内容への 活用	介護福祉士として現在に至るまで長く介護現場で勤めてきた為、現場において尊厳を大切にケアを考え実践してきた。尊厳と自立とは何かという部分を具体的に示しイメージを持たせることができる。また、介護保険制度が始まる前から介護職として勤務してきたため、介護保険前と施行後、そして現在までの変遷について伝えることができる。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	野澤	講義	内 容 前期の復習 前期の復習 介護福祉士を支える団体 到達目標 日本介護福祉士会の活動内容を理解し、卒業後ステップアップをイメージできる			
	2.	野澤	講義	内 容 介護福祉士の倫理① 倫理とは何か 普遍的清明倫理原則4つ 事例を通して倫理を学ぶ 到達目標 倫理を学び、介護の場面でどのように活かせるかを考えることができる			
	3.	野澤	講義	内 容 介護福祉士の倫理② 事例を通して倫理を学び、介護福祉士としての解決方法をグループワークにて考える 到達目標 倫理を学び、介護の場面でどのように活かせるかを考えることができる			
	4.	野澤	講義	内 容 日本介護福祉士会の倫理綱領① 利用者本位からプライバシーの保護まで 到達目標 義務規定、法令遵守、行動規範など自分たちの専門性を正しく理解できる			
	5.	野澤	講義	内 容 日本介護福祉士会の倫理綱領① 利用者本位からプライバシーの保護までの介護福祉士倫理綱領の中から1つ選び、GWにて具体的な内容について考えをまとめる 到達目標 自分たちで調べた内容、他のグループが調べた内容を含め、介護福祉士倫理綱領を理解できる			
	6.	野澤	講義	内 容 日本介護福祉士会の倫理綱領② 総合的サービスの提供と積極的な連携・協力まで 到達目標 義務規定、法令遵守、行動規範など自分たちの専門性を正しく理解できる			
	7.	野澤	講義	内 容 日本介護福祉士会の倫理綱領② 介護福祉士倫理綱領の中から1つ選びGWにて具体的な内容について考えをまとめる 到達目標 自分たちで調べた内容、他のグループが調べた内容を含め、介護福祉士倫理綱領を理解できる			
	8.	野澤	講義	内 容 介護福祉における自立支援① 自立に向けた介護① 自立支援の考え方、エンパワメント、意思決定支援 到達目標 自立支援の具体的な考え方を理解する			

9.	野澤	講義	<p>内 容 介護福祉における自立支援② 自立に向けた介護② 生命・身体に関する自己決定権の支援、社会参加とアクティビティ、就労支援、生活支援</p> <p>到達目標 自立支援の具体的な考え方を理解する</p>				
10.	野澤	講義	<p>内 容 ICの考え方 ICFの考え方、ICIDHとの違い、ストレングス</p> <p>到達目標 ICFやストレングスの視点を介護の実践に応用できる力をつけることができる</p>				
11.	野澤	講義	<p>内 容 自立支援とリハビリテーション リハビリテーションの概念とは、リハビリテーションの実際について</p> <p>到達目標 リハビリテーションにおける介護福祉士の役割を理解する</p>				
12.	野澤	講義	<p>内 容 自立支援を介護予防① 介護予防の概要、取り組みについて</p> <p>到達目標 介護予防における介護福祉士の役割を理解する</p>				
13.	野澤	講義	<p>内 容 自立支援と介護予防② 介護予防サービス、高齢者の身体特性と介護予防について</p> <p>到達目標 介護予防における介護福祉士の役割を理解する</p>				
14.	野澤	講義	<p>内 容 振り返り 後期に学習した内容の復習</p> <p>到達目標 学んだ内容を振り返り、再度復習する</p>				
15.	野澤	講義	<p>内 容 振り返り 通年とおしての授業振り返り</p> <p>到達目標 授業全体を通しての振り返り</p>				
成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	50%	20%	10%		10%	10%	100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座③「介護の基本 I」(第3版) 編集:介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献	授業内容に応じた参考資料を配布する						
その他 (留意点等)							

科目名	【コミュニケーション技術Ⅰ】						
担当者	森 伸彦						
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	前期	演習	1単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	「コミュニケーション」とは、家族、友人、地域等の集団に属し、社会を形成して暮らす私たち人間にとって欠くことのできない基本的な活動である。そして介護福祉職は介護を必要とする方が安心して暮らすことができるための重要な役割を担う。本科目では介護の枠にとらわれず、「人」と円滑にコミュニケーションが図れるようになるための基本的なスキルの習得を目指す。						
到達目標	①コミュニケーションの意義・目的・理論的背景を理解し、基礎概念を説明できる。 ②介護場面に限らず、多様な人と円滑に関わるための基礎的なコミュニケーションスキルを実践できる。						
実務経験と 授業内容への 活用	介護福祉士として26年以上、介護支援専門員として18年以上にわたり施設・在宅の双方で実務を経験してきた。また、おだい介護サービスにてクオリティマネージャーとして事業全体のサービス品質管理を担当し、現場の実践と組織運営の両面からケアを捉えてきた。これらの経験を授業内容に整理し、学生が現場で実践しやすい形で伝えていく。						
	担当	授業方法			内容・到達目標		
授業計画	1.	森 伸彦	講義	<p>内 容 ロジカルなコミュニケーションと自己覚知 「コミュニケーション」を論理的に捉え、その重要性と目的を学ぶ。個人、グループワークを通して自己覚知を深める。</p> <p>到達目標 コミュニケーションを論理的に理解することができるようになる。自己覚知の概念を理解し、自身の強みや弱みなどを客観的に分析することができるようになる。</p>			
	2.	森 伸彦	講義	<p>内 容 介護におけるコミュニケーションの意義と目的 介護の実践場面におけるコミュニケーションについて、マズローの基本的欲求階層説を基にして、人間の基本的欲求とそれに対応するコミュニケーションの方法を考察する。</p> <p>到達目標 介護におけるコミュニケーションの意義と目的を論理的に理解することができる。</p>			
	3.	森 伸彦	講義	<p>内 容 介護におけるコミュニケーションの展開過程とSOLERモデル コミュニケーションの展開過程について段階別に学ぶ。会話の基本動作である「SOLER」モデルを用いたコミュニケーション技術を紹介。</p> <p>到達目標 介護におけるコミュニケーションの展開過程を理解し適切な対応方法を理解することができる。SOLERモデルを活用したコミュニケーション技術を習得できる。</p>			
	4.	森 伸彦	講義	<p>内 容 介護におけるコミュニケーションの対象 コミュニケーションの対象となる利用者、家族のおかれている状況を理解し、事例を通して実際のコミュニケーション技術を学ぶ。</p> <p>到達目標 介護福祉職の職務とコミュニケーションの対象を理解し、それぞれの特徴と対応方法を習得することができる。</p>			
	5.	森 伸彦	講義	<p>内 容 コミュニケーションの基本技術「傾聴」 傾聴の基本概念とその重要性について学ぶ。ペアワークで傾聴技術を練習。</p> <p>到達目標 傾聴の意義と目的を理解し基本技術を習得することができる。</p>			
	6.	森 伸彦	講義	<p>内 容 コミュニケーションの基本技術「受容」 介護における受容の基本概念とその重要性について学ぶ。ロールプレイなどを通して実践に則したシミュレーションを行う</p> <p>到達目標 受容の意義と目的を理解し基本技術を習得することができる。</p>			
	7.	森 伸彦	講義	<p>内 容 コミュニケーションの基本技術「共感」 介護における共感の基本概念とその重要性について学ぶ。個人、グループワークなどを通して実践に則したシミュレーションを行う。</p> <p>到達目標 「傾聴」「受容」「共感」のコミュニケーション態度に関する基本技術を総合的に習得できる。</p>			
	8.	森 伸彦	講義	<p>内 容 言語コミュニケーションの基本技術と応用 言語コミュニケーションの基本概念とその重要性について学ぶ。ワークなどを通して実践に則したシミュレーションを行う。</p> <p>到達目標 言語コミュニケーションの定義と重要性を習得することができる。ワークを通して明確な表現、適切な言葉遣い、効果的な質問の仕方などを習得できる。</p>			

9.	森 伸彦	講義	<p>内 容 非言語、準言語コミュニケーションの基本技術と応用 非言語、準言語コミュニケーションの基本概念とその重要性について学ぶ。グループワークとロールプレイを通して実践に則したシミュレーションを行う。</p> <p>到達目標 非言語、準言語の定義と重要性を習得することができる。様々な非言語、準言語コミュニケーションの種類とその特徴を習得し、実際の場面で適切に活用することができるようになる。</p>				
10.	森 伸彦	講義	<p>内 容 援助関係とコミュニケーション 援助関係の重要性と影響について学ぶ。バイステックの7原則を通して利用者との信頼関係の構築方法を実際の場面に照らし合わせながら学ぶ。</p> <p>到達目標 援助関係の基本的な概念と重要性を理解し、実際の場面で応用することができるようになる。</p>				
11.	森 伸彦	講義	<p>内 容 目的別のコミュニケーション技術 利用者の意欲を高めるための動機づけの概念とその重要性について学ぶ。具体的な事例を通して実践に則したシミュレーションを行う。</p> <p>到達目標 様々な場面に応じた適切な動機づけの方法を習得することができるようになる。</p>				
12.	森 伸彦	講義	<p>内 容 ものの見方に変化を生み出す技術 ものの方の多様性と固定観念について事例を通して理解を深めていく。リフレーミング技術の演習を通して多様な考え方を習得し視野を広げていく。</p> <p>到達目標 自分自身の価値観や固定観念の傾向を認識し実践で応用できる技術を習得することができる。</p>				
13.	森 伸彦	講義	<p>内 容 意思決定を支援するためのコミュニケーション 利用者の意思を尊重することの重要性と意思決定支援の基本概念、必要性について、実際の事例と代表的なガイドラインを照らし合わせながら学んでいく。</p> <p>到達目標 意思決定支援の基本概念と重要性を理解することができる。意思決定支援の具体的プロセスを習得することができる。</p>				
14.	森 伸彦	学習内容の総括	<p>内 容 コミュニケーション技術Ⅰに関する総まとめ コミュニケーション技術Ⅰに関する総まとめと確認を行う。</p> <p>到達目標 コミュニケーション技術に関する基本的な理論や概念を理解することができている。</p>				
15.	森 伸彦	講義	<p>内 容 振り返り コミュニケーション障害への対応の基本 コミュニケーション障害の種類と特徴を理解し、聴覚・視覚・認知・言語などの状態に応じた関わり方の基本を学ぶ。アセスメントの視点を踏まえ、実習や現場で適切に対応するためのポイントを確認する。</p> <p>到達目標 コミュニケーション障害の特徴を理解し、利用者の状態に応じて必要な情報を整理し、適切な関わり方を選択できるようになる。</p>				
成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	60%		25%			15%	100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑤ 「コミュニケーション技術」(第2版) 編集:介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献							
その他 (留意点等)	講義の進度により講義内容が変更になる場合がある。						

科目名		【生活支援技術 I】					
担当者		細野 真代 白崎 剛也					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	前期	演習	2単位	30回	
授業の目的 (ねらい)	①利用者の尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から本人主体の日常生活が継続できるように、基本的な生活行為とその意義を理解する。 ②利用者主体の根拠ある生活支援技術の実践に向けて、支援が必要な方への基礎的な生活支援技術と知識を習得する。 ③介護職として必要な身だしなみ、整理整頓をしっかりと身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ボディメカニクスの原則や人間の体の動きを説明できる。 ・自立した起居動作の一連の流れを理解し、生活支援技術が提供できる。 ・その人らしい生活環境の提供や、清潔と安全に配慮した快適な空間を整えることができる。 ・介護に必要な物品の丁寧な扱いや他者に不快とならない身だしなみを整えることができる。 						
実務経験と 授業内容への 活用	現場での実務経験を活かし、教科書通りの手順を教えるだけでなく、現場の風景が見えるリアルな指導を行い、根拠と共に学びを深められようという授業を展開する。実体験に基づいた危険な場面を反面教師として提示し、安全管理に対する意識を高め、質の高い介護に繋げる。教員の経験を活かし、学生が最も間違いやすい、理解に時間がかかる部分をポイントに焦点を当てた段階的な指導を行う。						
		担当	授業方法	内容・到達目標			
授業計画	1.	細野 白崎	講義	内 容 オリエンテーション 本科目の意義、生活支援とは何か。演習室のルール説明。※「やさしい日本語」でのガイダンス。 到達目標 こ生活とは何か。生活支援技術を実践する中で大切となる理念について説明できる。介護福祉士として、利用者の使用する物品や介護用品について正しく取り扱うことができる。			
	2.	細野 白崎	講義	内 容 介護職の身だしなみ 専門職としての清潔感、安全性、機能性。本校の実習生として守るべき身だしなみルールの確認。 到達目標 介護福祉士として望ましい身だしなみについて実践することができる。			
	3.	細野 白崎	講義	内 容 居住環境と家事支援 介護が必要な人にとって住まいの環境を整える必要性と意義。※国家試験頻出ポイント。介護職が家事支援を行う意義と目的。 到達目標 介護が必要な人にとって住まいの環境を整えることの必要性と意義、目的について説明することができる。介護職が家事支援を行う意義と目的を説明できる。			
	4.	細野 白崎	講義	内 容 ベッドメイキング(講義) 掃除・洗濯・布団の取り扱いの基礎知識。 到達目標 ベッドメイキングの意義と目的を知り、重要ポイントを説明できる			
	5.	細野 白崎	講義	内 容 ボディメカニクス(理論) 介護技術に必須な基本原則、ボディメカニクスの意義とからだの使い方の基礎理論。 到達目標 ボディメカニクスの意義と、介護場面でのからだの使い方の基礎について答えることができる。			
	6.	細野 白崎	演習	内 容 ボディメカニクス(実技) 【実技】重心の移動や支持基底面など、自身の身体を使って原理を体感する。 到達目標 実体験を通して、負担の少ないからだの使い方を体感し実践できる。			
	7.	細野 白崎	演習	内 容 ベッドメイキング(実技1) 環境整備の要となるベッドメイキングの意義・目的。教員によるデモンストレーション。 到達目標 ベッドメイキングの注意点を把握し、基本的な手順を実施できる			
	8.	細野 白崎	演習	内 容 ベッドメイキング(実技2) 【実技】ボディメカニクスを活用したベッドメイキングの基本動作の反復練習。腰痛予防の意識付け。 到達目標 ボディメカニクスの原則を意識して自身の動作をコントロールできる。			

9.	細野白崎	演習	<p>内 容 ベッドメイキング(実技3) 【実技】シーツの広げ方、四隅の三角折り、しわのない敷き方の基礎練習。</p> <p>到達目標 シーツの上下左右を正しく扱い、三角折りをきれいに仕上げるができる</p>
10.	細野白崎	演習	<p>内 容 ベッドメイキング(実技4) 【実技】反復練習。パディによる相互チェック。※チェックリストを用いた手順確認。</p> <p>到達目標 注意点を把握し、きれいで寝心地の良いベッドを作ることができる。</p>
11.	細野白崎	演習	<p>内 容 ベッドメイキング(実技5) 【実技】利用者役を体験し、寝心地の良さと安全な環境整備の重要性を確認。</p> <p>到達目標 評価基準に従って、きれいで寝心地の良いシーツを作ることができる。</p>
12.	細野白崎	講義	<p>内 容 起居動作とは(講義) サイドレールの位置等、自立支援と安全を考慮したな起き上がり動作の基本について考える。</p> <p>到達目標 起居動作のうち、特に重要な介助項目について基本的な方法と動作を行うことができる。</p>
13.	細野白崎	演習	<p>内 容 起居動作の介助法(講義) 起居動作の意味と身体を動かす支援技術の基本。身体メカニズムに基づいた注意点の解説。仰臥位から側臥位、起き上がり、端座位、立位までの介助手順とポイント解説。</p> <p>到達目標 起居動作のうち、特に重要な介助項目について、基本的な方法と動作の手順を利用者役の学生にわかりやすく伝えることができる。</p>
14.	細野白崎	演習	<p>内 容 起居動作実技(側臥位) 【実技】ベッド上の側臥位介助(左片麻痺設定)。※丁寧な声かけと尊厳への配慮。</p> <p>到達目標 ベッド上の側臥位介助(片麻痺の利用者)を安全かつ適切に実施できる。</p>
15.	細野白崎	演習	<p>内 容 起居動作実技(起き上がり) 【実技】側臥位から起き上がり、端座位(ベッドの端に座る)までの介助。</p> <p>到達目標 起き上がりの介助および端座位介助の手順を理解し実践できる。</p>
16.	細野白崎	演習	<p>内 容 起居動作実技(端座位・立位) 【実技】端座位の安定保持と、安全な立ち上がりの介助。足の位置と重心誘導。</p> <p>到達目標 端座位介助および立位の介助を、利用者の力を活かしながら実施できる。</p>
17.	細野白崎	演習	<p>内 容 起居動作実技(一連の流れ) 【実技】仰臥位から立位までの一連の流れ。動作の根拠を確認しながらの反復練習。</p> <p>到達目標 ベッドから起き上がって立ち上がるまでの一連の介助を適切に実施できる。</p>
18.	細野白崎	演習	<p>内 容 起居動作実技(装具) 【実技】短下肢装具等の基本的な付け方と、装着時の安全な援助方法。</p> <p>到達目標 装具の基本的な付け方と使い方、歩行に繋げる援助方法を理解できる。</p>

授業計画

19.	細野白崎	試験	<p>内 容 実技試験対策(練習1) 実技試験に向けた総仕上げ。(評価表)に基づいた自己・他者点検。</p> <p>到達目標 これまでに学習した起居動作の技術を、根拠に基づいた適切な支援を行うことができる。</p>
20.	細野白崎	試験	<p>内 容 実技試験対策(練習2) 利用者の尊厳保持、安全配慮、技術の根拠を重点的に評価。</p> <p>到達目標 基本技術を用いながら、利用者の安全と尊厳を守った起居動作の介助ができる。</p>
21.	細野白崎	試験	<p>内 容 実技試験 実技試験の実施および試験後の個別フィードバック。今後の課題明確化。</p> <p>到達目標 試験を通じ、自身の技術の到達度を把握し今後の研鑽に繋げることができる。</p>
22.	細野白崎	講義	<p>内 容 福祉用具の意義(講義) 福祉用具の意義と目的。代表的な用具(杖・車いす)の種類と構造の理解。</p> <p>到達目標 福祉用具の意義と目的、代表的な福祉用具の種類について説明できる。</p>
23.	細野白崎	演習	<p>内 容 福祉用具の使い方(実技1) 【実技】車椅子の基本操作(ブレーキ、広げ方等)と、段差越え等の利用者体験。</p> <p>到達目標 代表的な福祉用具(車いす等)の使い方を実体験を通して理解できる。</p>
24.	細野白崎	講義	<p>内 容 福祉用具の使い方(実技2) 【実技】介護ベッドのリモコン操作や最新の移動用具(リフト等)に触れてみる。</p> <p>到達目標 福祉用具の活用が利用者と介護者双方の負担軽減に繋がることを説明できる。</p>
25.	細野白崎	演習	<p>内 容 歩行介助の基本(講義) 杖歩行の介助における注意点や事故予防のポイント。段差・階段での原則。</p> <p>到達目標 杖歩行の介助における注意点や事故予防のためのポイントを理解できる。</p>
26.	細野白崎	演習	<p>内 容 杖歩行の実技(平地) 【実技】平地、階段、段差での杖歩行介助の実践。障害状態に合わせた援助。</p> <p>到達目標 平地や階段等での杖歩行介助のポイントを、実際に行いながら理解できる。</p>
27.	細野白崎	演習	<p>内 容 杖歩行の実技(階段・段差) 【実技】平地、階段、段差での杖歩行介助の実践。障害状態に合わせた援助。</p> <p>到達目標 杖歩行の介助における注意点や事故予防のためのポイントを説明できる 平地や階段等での杖歩行介助のポイントを、適切に行うことができる</p>
28.	細野白崎	試験	<p>内 容 試験(筆記) 本科目で学習した生活支援に関する基礎知識の定着度を確認する筆記試験。</p> <p>到達目標 生活支援に関する基礎知識の定着度合いを把握し、自身の理解度と課題を発表できる。</p>

	29.	細野白崎	実習	<p>内 容 事例展開とまとめ オールジャパンケアコンテスト（事例研究とまとめ）</p> <p>到達目標 最先端の介護実践を知ること、自身の専門性の向上に向けた意欲を高め、自身の目標を伝えることができる。</p>			
	30.	細野白崎	実習	<p>内 容 振り返りと今後の課題 現場職員がコンテストに臨む姿と最先端の支援方法を見学し、自身の学習成果と将来像を考察する。</p> <p>到達目標 本科目の学びを整理し、利用者主体の質の高い介護を提供するための課題を明確にできる。</p>			
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	合計	
	50%		10%	40%		100%	
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑥「生活支援技術Ⅰ」（第3版）編集：介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版最新 介護福祉士養成講座⑦「4						
参考文献	中央法規出版『見て覚える介護福祉士国試ナビ2027』						
その他 （留意点等）	授業の進度により講義内容が変更になる場合がある。 授業の欠席回数が全体の1/5以上になった場合、及び実技試験が不合格になった場合、原則実習に配属しない。						

科目名		【生活支援技術Ⅱ】					
担当者		細野 真代 白崎 剛也					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	後期	演習	3単位	45回	
授業の目的 (ねらい)	本講義では、単なる技術の習得に留まらず、「生活を支える視点」と「生命と尊厳を守る視点」を統合した実践力を養う。利用者の「やりたい」という意向と、心身の「安全・安楽」のバランスを多角的にアセスメントし、根拠に基づいた適切な生活支援技術を自ら実施できる能力を育成する。						
到達目標	根拠（エビデンス）の理解：移動・食事・排泄等の各動作において、生理学的根拠と生活習慣・尊厳（の両面から説明できる）。ボディメカニクスを活用し、利用者の身体状況と自身の身体特性に合った無理のない介助方法を選択できる。実際の介護現場（実習先）を想定した事例に対し、主体的に優先順位を判断し、一連の支援を完結できる。						
実務経験と 授業内容への 活用	現場での実務経験を活かし、教科書通りの手順を教えるだけでなく、現場の風景が見えるリアルな指導を行い、根拠と共に学びを深められようような授業を展開する。実体験に基づいた危険な場面を反面教師として提示し、安全管理に対する意識を高め、質の高い介護に繋げる。教員の経験を活かし、学生が最も間違いやすい、理解に時間がかかる部分をポイントに焦点を当てた段階的な指導を行う。教員の職種の違いを生かし、専門性の理解、他職種連携の方法など知識を統合化できる授業を行う。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	細野 白崎□	講義	<p>内 容 生活支援技術の基本原則と尊厳 オリエンテーション（前期授業の振り返り） 前期内容を振り返りながら、生活支援のあり方について再確認する。また、これまでに体験した実習と生活支援技術をリンクさせる。さらに、今後の本科目の流れについて理解する。</p> <p>到達目標 利用者の自立を促す生活支援の考え方を説明できる。</p>			
	2.	細野 白崎□	講義	<p>内 容 車椅子介護の基本 車いすの役割と身体機能と目的により適切な車椅子を選択するための知識を理解する。車いすの操作方法及び介護方法の基本と注意点について理解する。</p> <p>到達目標 各車椅子の役割を説明できる。身体機能と目的により適切な車椅子を選定することができる。</p>			
	3.	細野 白崎□	演習	<p>内 容 ボディメカニクスの原理の活用した車いす介助の基本 車いすの操作方法及び介護方法の基本と注意点について理解する。車椅子の構造・点検</p> <p>到達目標 車椅子の各部名称を覚え、安全に操作できる。安全に車椅子の開閉ができる。車椅子の点検箇所を説明できる。</p>			
	4.	細野 白崎□	演習	<p>内 容 車椅子の操作と移動支援（屋内）ボディメカニクスの原理を活用した車いすの基本操作 車いすの操作方法及び介護方法の基本と注意点について実践を通して身につける 平地での基本操作演習</p> <p>到達目標 自立支援を意識した安全な車椅子の移動支援ができる（屋内）</p>			
	5.	細野 白崎□	演習	<p>内 容 車椅子での外出支援（段差・スロープ） 車椅子による段差昇降・スロープ・砂利道の移動介護</p> <p>到達目標 路面状況に応じた適切な車椅子介護ができる。</p>			
	6.	細野 白崎□	演習	<p>内 容 車いす介助（学校周辺の散策） 車椅子での外出場面での危険リスクについて考える。車椅子での外出の際に必要な事前準備について考える。利用者、介護者それぞれの視点で考えてみる。</p> <p>到達目標 車椅子での外出場面でのリスクについて説明できる。車椅子での外出の際の事前準備を適切に行うことができる</p>			
	7.	細野 白崎□	演習	<p>内 容 安全な立ち上がりと移乗の手順を正確に実施できる。 ベッドから車椅子への移乗介護の基本的な注意点と方法について理解する。 ※基本動作のモンストレーション（ランスファーボードの使用法のデモも含む）</p> <p>到達目標 利用者の機能を活かし、自立支援を意識した移乗介助について説明できる。</p>			
	8.	細野 白崎□	演習	<p>内 容 安全な立ち上がりと移乗の手順を正確に実施できる。 ベッド上で端座位になっている利用者を車いすへ移乗介護する基本的な方法を実施できる。 ※左麻痺の利用者のベッド上端座位→車いすへの移乗介助</p> <p>到達目標 安全な立ち上がりと移乗の手順を正確に実施できる。</p>			

9.	細野 白崎□	演習	内 容 車椅子での移動支援のまとめと事例演習 移動介護が必要な事例に対し最適な支援方法を検討する。 到達目標 移動介護な事例に対し最適な支援方法を実施できる。	
10.	細野 白崎□	演習	内 容 車椅子での移動支援のまとめと事例演習 移動介護が必要な事例に対し最適な支援方法を検討する。 到達目標 移動介護な事例に対し最適な支援方法を実施できる。実施する技術の根拠を説明できる。	
11.	細野 白崎□	演習	内 容 車椅子での移動支援のまとめと事例演習 移動介護が必要な事例に対し最適な支援方法を検討する。 到達目標 移動介護な事例に対し最適な支援方法を実施できる。実施する技術の根拠を説明できる。	
12.	細野 白崎□	演習	内 容 車椅子での移動支援のまとめと事例演習 移動介護が必要な事例に対し最適な支援方法を検討する。 到達目標 移動介護な事例に対し最適な支援方法を実施できる。実施する技術の根拠を説明できる。	
13.	細野 白崎□	試験	内 容 実技試験（ベッドから車いすへの移乗介護） 実技試験を通して、移乗介護の基本技術の習熟度を把握し、今後の研鑽に活用する。 ※左麻痺の利用者 到達目標 利用者のペースに合わせた安全な移動支援が実施できる。	
14.	細野 白崎□	試験	内 容 実技試験（ベッドから車いすへの移乗介護） 実技試験を通して、移乗介護の基本技術の習熟度を把握し、今後の研鑽に活用する。 ※左麻痺の利用者 到達目標 利用者のペースに合わせた安全な移動支援が実施できる。	
15.	細野 白崎□	試験	内 容 実技試験（ベッドから車いすへの移乗介護） 実技試験を通して、移乗介護の基本技術の習熟度を把握し、今後の研鑽に活用する。 ※左麻痺の利用者 到達目標 利用者のペースに合わせた安全な移動支援が実施できる。	
16.	細野 白崎□	講義	内 容 整容介護の意義目的 衣服着脱の介護（脱健着患の原則） 整容（洗面・整髪・爪切り・髭剃り） 衣服着脱の介護（脱健着患の原則）について意義目的を理解する 到達目標 その人らしさを保つ身だしなみの整え方を実践できる。	
17.	細野 白崎□	演習	内 容 着脱介護の基本 要な利用者の衣服の着脱介護の意義と目的、基本的な注意点を理解する。 ※右片麻痺の利用者 到達目標 麻痺に配慮したスムーズな着脱支援ができる。	介助が必
18.	細野 白崎□	演習	内 容 着脱介護（座位状態での前開き） （端座位）でいる片麻痺の利用者の前開きの衣服の着脱介護が安全かつ快適にできる。 ※右片麻痺の利用者 到達目標 自立支援を意識し、快適な着脱支援ができる。	座位

授業計画

19.	細野 白崎□	演習	<p>内 容 着脱介護（座位状態での前開き）</p> <p>（端座位）でいる片麻痺の利用者の前開きの衣服の着脱介護が安全かつ快適にできる。 ※右片麻痺の利用者</p> <p>到達目標 自立支援を意識し、快適な着脱支援ができる。</p>	座位
20.	細野 白崎□	演習	<p>内 容 着脱介護（端座位状態でのかぶり）</p> <p>位でいる片麻痺の利用者のかぶり（まる首）の衣服の着脱介護が安全かつ快適にできる。 ※左片麻痺の利用者</p> <p>到達目標 自立支援を意識し、快適な着脱支援ができる。</p>	ベッド上で端座位
21.	細野 白崎□	演習	<p>内 容 着脱介護（端座位状態でのかぶり）</p> <p>位でいる片麻痺の利用者のかぶり（まる首）の衣服の着脱介護が安全かつ快適にできる。 ※左片麻痺の利用者</p> <p>到達目標 自立支援を意識し、快適な着脱支援ができる。</p>	ベッド上で端座位
22.	細野 白崎□	演習	<p>内 容 着脱介護のまとめと着脱支援が必要な事例演習</p> <p>着脱介護が必要な事例に対し最適な支援方法を検討する。衣服の着脱介助～車いす介助</p> <p>到達目標 自立支援を意識し麻痺に配慮したスムーズな着脱支援ができる。</p>	
23.	細野 白崎□	演習	<p>内 容 着脱介護のまとめと着脱支援が必要な事例演習</p> <p>着脱介護が必要な事例に対し最適な支援方法を検討する。衣服の着脱介助～車いす介助</p> <p>到達目標 自立支援を意識し麻痺に配慮したスムーズな着脱支援ができる。</p>	
24.	細野 白崎□	試験	<p>内 容 実技試験（衣服の着脱介助）</p> <p>して、衣服の着脱介護の基本技術の習熟度を把握し、自己の研鑽に活用する。</p> <p>到達目標 安全な立ち上がり自立支援を意識し麻痺に配慮したスムーズな着脱支援ができる。</p>	実技試験を通して
25.	細野 白崎□	試験	<p>内 容 実技試験（衣服の着脱介助）</p> <p>して、衣服の着脱介護の基本技術の習熟度を把握し、自己の研鑽に活用する。</p> <p>到達目標 安全な立ち上がり自立支援を意識し麻痺に配慮したスムーズな着脱支援ができる。</p>	実技試験を通して
26.	細野 白崎□	試験	<p>内 容 実技試験（衣服の着脱介助）</p> <p>して、衣服の着脱介護の基本技術の習熟度を把握し、自己の研鑽に活用する。</p> <p>到達目標 安全な立ち上がり自立支援を意識し麻痺に配慮したスムーズな着脱支援ができる。</p>	実技試験を通して
27.	細野 白崎□	演習	<p>内 容 実技試験（衣服の着脱介助）</p> <p>実技試験を通して、衣服の着脱介護の基本技術の習熟度を把握し、自己の研鑽に活用する。</p> <p>到達目標 安全な立ち上がり自立支援を意識し麻痺に配慮したスムーズな着脱支援ができる。</p>	
28.	細野 白崎□	講義	<p>内 容 食事の意義と摂食・嚥下の仕組み</p> <p>食事の意義と摂食・嚥下の仕組みについて理解する。嚥下障害のリスクと食べる仕組みについて理解する。</p> <p>到達目標 安全な立ち上がり自立支援を意識し麻痺に配慮したスムーズな着脱支援ができる。</p>	

	29.	細野白崎□	演習	<p>内 容 食事環境の整備と食事介護の姿勢 誤嚥を防ぎ、食欲を高める環境作りについて理解する。食事環境の整備と姿勢について理解する。 ※道具、福祉用具の説明含む</p> <p>到達目標 食事の意義と摂食・嚥下の仕組みについて説明できる。の意義嚥下障害のリスクと食べる仕組みについて説明できる。</p>
	30.	細野白崎□	演習	<p>内 容 食事介助の実践（誤嚥防止の工夫） 食事介助（座位で全介助） 到達目標 （ベッド上または椅子上で）座位の利用者の食事介助の基本的な介助方法を身につける。</p> <p>到達目標 誤嚥を防ぎ、食欲を高める環境作りを実践できる</p>
	31.	細野白崎□	演習	<p>内 容 口腔ケアの意義と基本技術 口腔ケアの意義と目的、援助の視点について理解する。誤嚥性肺炎予防のための口腔清掃技術を習得する。 清潔保持と口腔内の観察ポイントを理解する。</p> <p>到達目標 利用者のペースに合わせた安全な食事提供ができる。</p>
	32.	細野白崎□	演習	<p>内 容 口腔ケアの基本技術の実践 ベッド上または椅子上で）座位または臥位の利用者の口腔ケア介助の基本的な介助方法を身につける。 ※道具、福祉用具の説明含む</p> <p>到達目標 口腔内の清潔保持の意義と口腔内の観察ポイントを説明できる。</p>
	33.	細野白崎□	演習	<p>内 容 口腔ケアの基本技術（ブラッシング・粘膜清掃・保湿）まとめ 口腔ケアの基本技術（ブラッシング・粘膜清掃・保湿）の重要性についてのまとめ</p> <p>到達目標 ベッド上または椅子上で）座位または臥位の利用者の口腔ケア介助の基本的な介助方法を実践できる。</p>
	34.	細野白崎□	演習	<p>内 容 排泄の意義と心理的配慮 排泄の生理と心理（自尊心への配慮と羞恥心対策）</p> <p>到達目標 口腔ケアの基本技術（ブラッシング・粘膜清掃・保湿）を適切に行うことができる</p>
	35.	細野白崎□	試験	<p>内 容 おむつ・パッドの選択と活用と理論 経済性・機能性に配慮したおむつの選び方を学ぶ。</p> <p>到達目標 排泄のプライバシー保護と羞恥心への配慮ができる。</p>
	36.	細野白崎□	試験	<p>内 容 トイレ・ポータブルトイレの介助 トイレ・ポータブルトイレの介助 基本的なポータブルトイレ介助の方法を身につける。 ※右片麻痺</p> <p>到達目標 経済性・機能性に配慮したおむつを選択できる。</p>
	37.	細野白崎□	試験	<p>内 容 実技試験（ポータブルトイレ誘導） 実技試験を通して、排泄介助の基本技術の習熟度を把握し、今後の研鑽に活用する。 ※右麻痺設定 試験に向けての練習時間</p> <p>到達目標 自立を妨げないトイレ誘導と動作支援ができる。</p>
授業計画	38.	細野白崎□	講義	<p>内 容 実技試験（ポータブルトイレ誘導） 実技試験を通して、排泄介助の基本技術の習熟度を把握し、今後の研鑽に活用する。 ※右麻痺設定 試験に向けての練習時間</p> <p>到達目標 自立を妨げない適切なトイレ誘導と動作支援ができる。</p>

39.	細野 白崎□	演習	<p>内 容 実技試験（ポータブルトイレ誘導） 実技試験を通して、排泄介助の基本技術の習熟度を把握し、今後の研鑽に活用する。 ※右麻痺設定 試験に向けての練習時間</p> <p>到達目標 自立を妨げない適切なトイレ誘導と動作支援ができる。</p>
40.	細野 白崎□	演習	<p>内 容 排泄介助（車いすから障害者用トイレ） 基本的な車いすから障害者用トイレへの介助方法を身につける。 ※左片麻痺</p> <p>到達目標 基本的な車いすから障害者用トイレへの介助方法を実践できる。 ※左片麻痺</p>
41.	細野 白崎□	演習	<p>内 容 総合演習（援助方法の検討）事例に基づく生活支援の展開 複合的なニーズを持つ利用者の事例に対し、適切な技術を組み合わせ提供できる。</p> <p>到達目標 複合的なニーズを持つ利用者の事例に対し、適切な技術を組み合わせることができる。</p>
42.	細野 白崎□	演習	<p>内 容 総合演習（援助方法の検討）事例に基づく生活支援の展開 複合的なニーズを持つ利用者の事例に対し、適切な技術を組み合わせ提供できる。</p> <p>到達目標 複数の技術を組み合わせ、一連の動作を支援できる。</p>
43.	細野 白崎□	演習	<p>内 容 総合演習（援助方法の検討）事例に基づく生活支援の展開 複合的なニーズを持つ利用者の事例に対し、適切な技術を組み合わせ提供できる。</p> <p>到達目標 利用者の心身状況に合わせた柔軟な介助を実践できる</p>
44.	細野 白崎□	演習	<p>内 容 活支援技術の総合演習 IIの振り返りと 自己課題の明確化 自身の技術の正確性と安全性を客観的に評価できる</p> <p>到達目標 自身の技術を振り返り、正確性と安全性を客観的に評価できる</p>
45.	細野 白崎□	試験	<p>内 容 全体の総括と振り返り 1年間の学びを整理し、専門職としての姿勢を固める。</p> <p>到達目標 1年間の学びを整理し、専門職として必要な知識と技術を根拠を元に説明できる。</p>

成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	合計
	50%		10%	40%		100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑥「生活支援技術Ⅰ」（第3版）編集：介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版最新 介護福祉士養成講座⑦「4					
参考文献	中央法規出版『見て覚える介護福祉士国試ナビ2027』					
その他 （留意点等）	授業の進度により講義内容が変更になる場合がある。 授業の欠席回数が全体の1/5以上になった場合、及び実技試験が不合格になった場合、原則実習に配属しない。					

科目名		【介護過程Ⅰ】					
担当者		野澤 美和					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	前期	演習	1単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする						
到達目標	①介護過程を実践できる基礎を理解できる ②地域で暮らす高齢者・障害者の心身を理解できる ③高齢者・障害者が地域で生活するための障壁と工夫を理解できる ④学生がテーマに沿って課題に取り組み、発表できる ⑤グループワークを通しチームワークを習得できる						
実務経験と 授業内容への 活用	老健での勤務が長く、介護計画書の立案と在宅復帰の関係性については老健を対象に研究をし立証している。介護過程の展開は、介護福祉職として利用者の生活やその方自身の人生を豊かにしていくことの楽しさについて伝えていきたい						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	野澤	講義	内 容 オリエンテーション 介護過程と実習との関係性について説明 介護過程の意義 自分の人生グラフをつくる 到達目標 本人の望む生活の実現に向けて適切な支援をしていくための介護過程の展開の意義について理解できる			
	2.	野澤	講義	内 容 介護過程のプロセス 介護過程の目的、介護過程を展開する基本視点、PDCAサイクル、観察と洞察の違い 情報収集方法とは 相手を知る①観察（相手を観察） 到達目標 利用者の生活を支援していく中で、必要となる基本視点について考えることができる			
	3.	野澤	講義	内 容 アセスメント グループワークにて身近なところの情報①を集める。 相手を知る②本人とコミュニケーション 到達目標 情報収集の方法、チームでの役割分担を通してアセスメントを理解できる			
	4.	野澤	講義	内 容 アセスメント グループワークにて身近なところの情報②を集める。 相手を知る③人に聞く 到達目標 情報収集の方法、チームでの役割分担を通してアセスメントを理解できる			
	5.	野澤	講義	内 容 アセスメント グループワークにて身近なところの情報③の発表 到達目標 他のチームの発表を聞いて自分のチームの反省を考えることができる。			
	6.	野澤	講義	内 容 アセスメント 参考資料提示 事例①の利用者の疾患名や障害を調べ、イラストを見て介護職との会話や介護場面を通して考察する 到達目標 病名や障害を知ることによって介護福祉職はどんな対応が必要か、また介護場面を通して考察することができる			
	7.	野澤	講義	内 容 アセスメント 参考資料提示 事例②の利用者の疾患名や障害を調べ、イラストを見て介護職との会話や介護場面を通して考察する 到達目標 病名や障害を知ることによって介護福祉職はどんな対応が必要か、また介護場面を通して考察することができる			
	8.	野澤	講義	内 容 アセスメント 参考資料提示 事例③の利用者の疾患名や障害を調べ、イラストを見て介護職との会話や介護場面を通して考察する 到達目標 病名や障害を知ることによって介護福祉職はどんな対応が必要か、また介護場面を通して考察することができる			

9.	野澤	講義	<p>内 容 アセスメント ICFに基づく視点 ICFを通じて利用者の全体像を把握することの重要性を理解する ICODHを学びICFとの違いを理解する</p> <p>到達目標 利用者の情報をICFの視点で分類することができる</p>				
10.	野澤	講義	<p>内 容 アセスメント 事例を通じて介護過程に必要な情報について考え調べる</p> <p>到達目標 介護過程で必要となる情報について、自分の力で考え導き出し、発表することができる</p>				
11.	野澤	講義	<p>内 容 アセスメント 事例を通じて介護過程に必要な情報について調べたものと、実際の情報との違いを比較し気づきを得る。意図的な情報収集の必要性について理解できる</p> <p>到達目標 アセスメントにおいて幅広く、多角的な視点が必要となることを理解し、それらについて説明することができる</p>				
12.	野澤	講義	<p>内 容 時代背景をまなぶ 高齢者が活躍されてきた時代の出来事、流行、食事状況、金銭などを調べる①</p> <p>到達目標 高齢者の方の活躍されてきた時代を学び、理解できる。</p>				
13.	野澤	講義	<p>内 容 時代背景をまなぶ 高齢者が活躍されてきた時代の出来事、流行、食事状況、金銭などを調べて発表②</p> <p>到達目標 他のチームの発表を聞いて自分のチームの反省を考えることができる。様々な時代を知ることができる。</p>				
14.	野澤	講義	<p>内 容 振り返り 前期授業の振り返り</p> <p>到達目標 学んだ内容を振り返り、復習する</p>				
15.	野澤	講義	<p>内 容 振り返り 通年通しての振り返り</p> <p>到達目標 授業全体を通しての振り返り</p>				
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	60%	10%	10%		10%	10%	100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑨「介護過程」（第2版）編集：介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献	中央法規 会話で学ぼう！介護の日本語						
その他 （留意点等）							

科目名		【介護過程Ⅱ】					
担当者		野澤 美和					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	後期	演習	1単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の意義と基礎的知識を理解する ・事例を通して利用者がどのような生活を望んでいるのかを分析し、生活課題を導き出す過程を体験する ・根拠を言語化することによって、統一したケアの実践が実現できることを理解する 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護過程を構成する各プロセスの意義と目的について説明することができる ・ICFの視点に基づいた情報収集と利用者理解の重要性について説明できる ・事例を通して利用者の思いや願いを汲み取り言語化することができる ・事例を通して介護過程の展開を体験し理解する 						
実務経験と 授業内容への 活用	老健での勤務が長く、介護計画書の立案と在宅復帰の関係性については自ら老健を対象に研究し立証している。介護過程の展開は、介護福祉職として利用者の生活やその方自身の人生を豊かにしていくこの楽しさについて伝えていきたい						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	野澤	講義	内 容 前期の復習 前期で学んだ内容が理解できているか、復習を通して再確認を行う 到達目標 前期に学んだ内容について再度確認することができる			
	2.	野澤	講義	内 容 アセスメント 施設で生活している高齢者の事例① 情報をICFシートに落とし込む 進捗確認 到達目標 ICFの構成要素にしっかりと情報を入れ込むことができる			
	3.	野澤	講義	内 容 アセスメント 施設で生活している高齢者の事例② 情報の解釈とマイナス・プラスイメージの分類 進捗確認 到達目標 情報の解釈を自らでき、マイナス・プラスの付け方を理解できる			
	4.	野澤	講義	内 容 アセスメント 施設で生活している高齢者の事例③ 関連付けの方法を学ぶ 進捗確認 到達目標 情報の関連付けについて理解できる			
	5.	野澤	講義	内 容 アセスメント 施設で生活している高齢者の事例④ 統合化の方法を学び、生活課題をだす、 優先順位の出し方 進捗確認 到達目標 情報の統合化を学び、生活課題を自分でまとめることができる			
	6.	野澤	講義	内 容 アセスメント 施設で生活している高齢者の事例⑤ 自分が考えた生活課題をグループワークにて共有し、クラスメイトと共に考える生活課題を発表する 到達目標 自分だけの意見だけではなく、他者の意見を聞いて取り入れ更に良い課題を導くことができる			
	7.	野澤	講義	内 容 アセスメント 障害を持っている方の事例① ICFシートへ情報を入れる プラスとマイナスイメージの振り分け 到達目標 自分でどの構成要素に情報を入れるかできる プラスとマイナスのイメージを振り分けられる			
	8.	野澤	講義	内 容 アセスメント 障害を持っている方の事例② グループにて関連付けをし、統合化 到達目標 他の人の意見を聞き、自分の意見を主張しながら関連付けと統合化をすることができる			

9.	野澤	講義	<p>内 容 アセスメント 障害を持っている方の事例③ 生活課題の抽出と課題の優先順位を考える</p> <p>到達目標 生活課題を抽出でき、どれが優先順位が高いかを理解できる</p>				
10.	野澤	講義	<p>内 容 アセスメント グループで発表</p> <p>到達目標 自分のグループの発表と他グループの発表を聞いて比較できる。</p>				
11.	野澤	講義	<p>内 容 アセスメント 在宅で生活している高齢者の事例①</p> <p>到達目標 事例の方についてICFに基づく視点で情報の解釈・関連付け・統合化を行う</p>				
12.	野澤	講義	<p>内 容 アセスメント 在宅で生活している高齢者の事例②</p> <p>到達目標 事例の方についてICFに基づく視点で情報の解釈・関連付け・統合化を行う</p>				
13.	野澤	講義	<p>内 容 アセスメント 在宅で生活している高齢者の事例③</p> <p>到達目標 事例の方についてICFに基づく視点で情報の解釈・関連付け・統合化を行う</p>				
14.	野澤	講義	<p>内 容 振り返り 後期授業の振り返り</p> <p>到達目標 学んだ内容を振り返り、復習する</p>				
15.	野澤	講義	<p>内 容 振り返り 通年通しての振り返り</p> <p>到達目標 授業全体を通しての振り返り</p>				
成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	60%	10%	10%		10%	10%	100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑨「介護過程」(第2版) 編集:介護福祉養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献							
その他 (留意点等)							

科目名		【介護総合演習Ⅰ】					
担当者		野田 朋法					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	前期	演習	1単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	支援を必要とする人々に対して介護実践を行う上で、必要な知識と留意点について学び、知識と技術の統合を行うと共に、それぞれの介護観を形成し専門職としての姿勢や態度を養う						
到達目標	①支援を必要とする人々に対して理解をし、必要な基本的コミュニケーションの方法やマナーについて理解をすることができる ②居宅・通所・入所等それぞれの施設等の概要、そこで活動する介護福祉士の職務・役割を理解する ③実習Ⅰ・Ⅱのイメージを膨らませ、実習の意義・プロセスについて理解することができ、自身の目標や学習課題を言語化・明確化できる						
実務経験と 授業内容への 活用	介護福祉士及び福祉領域関連資格、看護師資格を有する教員が、福祉施設や病院における介護が必要とされる方への実務経験を活かして介護福祉士の資格を取得する為の実習の目的や意義について教授をする						
		担当	授業方法	内容・到達目標			
授業計画	1.	野田	演習	内 容 オリエンテーション 介護総合演習の位置付け、介護総合演習の目的・介護実習の意義と目的について 到達目標 授業概要・介護実習の意義と目的について理解を深め、口答できるようになる			
	2.	野田	演習	内 容 介護実習要項の説明 介護実習の意義と目的について 介護実習の種類について 到達目標 実習の種類について理解をすることができ、介護実習で何を学ぶかを知ることが出来る			
	3.	野田	演習	内 容 実習までの計画・事前学習 実習前学習（目標設定）実習先種別と実習先の理解、施設オリエンテーション 到達目標 各自、実習に備えて目標の実習先種別と実習施設、福祉サービスの理解を深める			
	4.	野田	演習	内 容 個人票の記入方法、実習目標の立て方について 個人票、実習目標の記入方法について（練習、下書き） 到達目標 個人票の記入の仕方が理解できる、目標の立て方について理解ができる			
	5.	野田	演習	内 容 実習記録の意義と目的、方法、留意点について 実習記録の記入の方法（5W1H）について 到達目標 実習記録の意義と目的、方法、留意点について理解することができる			
	6.	野田	演習	内 容 情報収集の意義と目的、方法、留意点について 情報収集シートの記載方法について（事例問題） 到達目標 情報収集、アセスメントの意義と目的、方法、留意点委ついて理解することができる			
	7.	野田	演習	内 容 実習Ⅰ振り返りについて 介護実習達成度評価、振り返りシートの記載方法について 到達目標 振り返りの意義、今後の自己の課題を明確にすることができる			
	8.	野田	演習	内 容 実習Ⅰ振り返り会① 各自の実習について発表 到達目標 自身の努力を発表をすることによって達成観や自信を得て自己成長に繋げる			

9.	野田	演習	<p>内 容 実習 I 振り返り会② 各自の実習について発表</p> <p>到達目標 自身の努力を発表をすることによって達成観や自信を得て自己成長に繋げる</p>			
10.	野田	演習	<p>内 容 実習 I 総括 実習 I の総括、お礼状作成、自己評価と客観的評価</p> <p>到達目標 学びの共有と深化により、自己の課題と展望について実習 II の準備に繋げていく</p>			
11.	野田	演習	<p>内 容 実習 I-②の準備 実習の概要、意義、目的について</p> <p>到達目標 実習 I-2の意義、目的、内容について理解することができる</p>			
12.	野田	演習	<p>内 容 実習 I-②の準備 介護実習の目標設定、個人票、実習目標について</p> <p>到達目標 実習 I-2に向けての心構えを養うことができるようになる</p>			
13.	野田	演習	<p>内 容 アクティブ福祉（欠席不可） 実際の介護現場で実施展開されている取り組みや事例、課題について知る</p> <p>到達目標 個々の研鑽を深めると共に将来の備えとして介護観を高めていくことができる</p>			
14.	野田	演習	<p>内 容 アクティブ福祉（欠席不可） 実際の介護現場で実施展開されている取り組みや事例、課題について知る</p> <p>到達目標 個々の研鑽を深めると共に将来の備えとして介護観を高めていくことができる</p>			
15.	野田	演習	<p>内 容 振り返り・総括・定期試験 前期の振り返りと総括を行う。第1段階の実習の振り替り及び個人発表も行う</p> <p>到達目標 定期試験にて科目履修の合格点に到達する様になる</p>			
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	合計
	70%	10%	10%		10%	100%
教科書	（最新第〇版）介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習					
参考文献	令和8年度版 介護実習要項、適時プリントや資料を配布する					
その他 （留意点等）	出席の総時間数の3分の2以上ある者、成績評価判定がC判定以上の者を単位認定とする お礼状等便箋など個人で準備する物品については、前の回の授業でアナウンスをする					

科目名		【介護総合演習Ⅰ】					
担当者		野田 朋法					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	前期	演習	1単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	支援を必要とする人々に対して介護実践を行う上で、必要な知識と留意点について学び、知識と技術の統合を行うと共に、それぞれの介護観を形成し専門職としての姿勢や態度を養う						
到達目標	①支援を必要とする人々に対して理解をし、必要な基本的コミュニケーションの方法やマナーについて理解をすることができる ②居宅・通所・入所等それぞれの施設等の概要、そこで活動する介護福祉士の職務・役割を理解する ③実習Ⅰ・Ⅱのイメージを膨らませ、実習の意義・プロセスについて理解することができ、自身の目標や学習課題を言語化・明確化できる						
実務経験と 授業内容への 活用	介護福祉士及び福祉領域関連資格、看護師資格を有する教員が、福祉施設や病院における介護が必要とされる方への実務経験を活かして介護福祉士の資格を取得する為の実習の目的や意義について教授をする						
		担当	授業方法	内容・到達目標			
授業計画	1.	野田	演習	内 容 オリエンテーション 介護総合演習の位置付け、介護総合演習の目的・介護実習の意義と目的について 到達目標 授業概要・介護実習の意義と目的について理解を深め、口答できるようになる			
	2.	野田	演習	内 容 介護実習要項の説明 介護実習の意義と目的について 介護実習の種類について 到達目標 実習の種類について理解をすることができ、介護実習で何を学ぶかを知ることが出来る			
	3.	野田	演習	内 容 実習までの計画・事前学習 実習前学習（目標設定）実習先種別と実習先の理解、施設オリエンテーション 到達目標 各自、実習に備えて目標の実習先種別と実習施設、福祉サービスの理解を深める			
	4.	野田	演習	内 容 個人票の記入方法、実習目標の立て方について 個人票、実習目標の記入方法について（練習、下書き） 到達目標 個人票の記入の仕方が理解できる、目標の立て方について理解ができる			
	5.	野田	演習	内 容 実習記録の意義と目的、方法、留意点について 実習記録の記入の方法（5W1H）について 到達目標 実習記録の意義と目的、方法、留意点について理解することができる			
	6.	野田	演習	内 容 情報収集の意義と目的、方法、留意点について 情報収集シートの記載方法について（事例問題） 到達目標 情報収集、アセスメントの意義と目的、方法、留意点委ついて理解することができる			
	7.	野田	演習	内 容 実習Ⅰ振り返りについて 介護実習達成度評価、振り返りシートの記載方法について 到達目標 振り返りの意義、今後の自己の課題を明確にすることができる			
	8.	野田	演習	内 容 実習Ⅰ振り返り会① 各自の実習について発表 到達目標 自身の努力を発表をすることによって達成観や自信を得て自己成長に繋げる			

9.	野田	演習	<p>内 容 実習 I 振り返り会② 各自の実習について発表</p> <p>到達目標 自身の努力を発表をすることによって達成観や自信を得て自己成長に繋げる</p>			
10.	野田	演習	<p>内 容 実習 I 総括 実習 I の総括、お礼状作成、自己評価と客観的評価</p> <p>到達目標 学びの共有と深化により、自己の課題と展望について実習 II の準備に繋げていく</p>			
11.	野田	演習	<p>内 容 実習 I-②の準備 実習の概要、意義、目的について</p> <p>到達目標 実習 I-2の意義、目的、内容について理解することができる</p>			
12.	野田	演習	<p>内 容 実習 I-②の準備 介護実習の目標設定、個人票、実習目標について</p> <p>到達目標 実習 I-2に向けての心構えを養うことができるようになる</p>			
13.	野田	演習	<p>内 容 アクティブ福祉（欠席不可） 実際の介護現場で実施展開されている取り組みや事例、課題について知る</p> <p>到達目標 個々の研鑽を深めると共に将来の備えとして介護観を高めていくことができる</p>			
14.	野田	演習	<p>内 容 アクティブ福祉（欠席不可） 実際の介護現場で実施展開されている取り組みや事例、課題について知る</p> <p>到達目標 個々の研鑽を深めると共に将来の備えとして介護観を高めていくことができる</p>			
15.	野田	演習	<p>内 容 振り返り・総括・定期試験 前期の振り返りと総括を行う。第1段階の実習の振り替り及び個人発表も行う</p> <p>到達目標 定期試験にて科目履修の合格点に到達する様になる</p>			
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	合計
	70%	10%	10%		10%	100%
教科書	（最新第〇版）介護福祉士養成講座 第10巻 介護総合演習・介護実習					
参考文献	令和8年度版 介護実習要項、適時プリントや資料を配布する					
その他 （留意点等）	出席の総時間数の3分の2以上ある者、成績評価判定がC判定以上の者を単位認定とする お礼状等便箋など個人で準備する物品については、前の回の授業でアナウンスをする					

科目名	【介護実習Ⅰ】						
担当者	齋藤 美由紀 細野 真代 八子 久美子 白崎 剛也 水本 侑人 野田 朋法 竹内 麻貴 木村 久枝						
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	通年	実習	4単位	104時間 (13)日間	
授業の目的 (ねらい)	様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認多職種協働や多機関連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解をする						
到達目標	①多様な介護サービスの場を理解する ②利用者の生活体系を理解し、ひとりひとりの生活リズムを理解する ③コミュニケーション技術を活用して、利用者や家族、職員と円滑なかかわりができる ④地域社会における施設・事業所の役割を学ぶ ⑤対援助職(者)として、自己を客観する						
実務経験と 授業内容への 活用							
	担当	授業方法	内容・到達目標				
授業計画	1.	実習担当	施設実習	内容 到達目標 実習Ⅰの準備等は、介護総合演習Ⅰの授業内にて行う			
	2.	実習担当	施設実習	内容 到達目標 施設の実習内容、予定に沿って進める。日々の目標を掲げ実践したことを指定用紙に記録として残す			
	3.	実習担当	施設実習	内容 到達目標 多職種と協働の中で介護福祉士の役割を理解する。対象者の生活と地域の関りや地域で支える施設・機関の役割を理解する			
成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	合計	
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑩ 介護総合演習・介護実習 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献							
その他 (留意点等)							

科目名	【介護実習Ⅱ】						
担当者	齋藤 美由紀 細野 真代 佐藤 修 野田 朋法 白崎 剛也 水本 侑人 竹内 麻貴 木村 久枝 岡本 啓介 八子 久美子 野田 朋法						
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	通年	実習	4単位	120回	
授業の目的 (ねらい)	①様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や他機関連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する ②利用者の課題を明確にし、介護過程を展開する為の情報収集が適切にできる						
到達目標	①施設・事業所における利用者の生活の質について考え、介護者の役割を理解する ②利用者の生活リズムを把握し、介護者としての関りを理解する ③生活場面における支援を、その根拠と原則を踏まえて実施できる ④多職種の役割を理解し、連携の在り方を学ぶ ⑤自己の介護福祉士としての課題を発見する ⑥『介護過程の展開』における情報収集を行うことができる						
実務経験と 授業内容への 活用							
	担当	授業方法	内容・到達目標				
授業計画	1.	実習担当	実習	内 容 到達目標 介護実習Ⅱの準備等は、介護総合演習Ⅰ及びⅡの授業内にて行う			
	2.	実習担当	実習	内 容 到達目標 施設の実習内容、予定に沿って進める			
	3.	実習担当	実習	内 容 到達目標 日々の目標を掲げ実践したことを指定用紙に記録として残す			
成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	合計	
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑩介護総合演習・介護実習 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献							
その他 (留意点等)							

科目名	【発達と老化の理解 I】						
担当者	水本 侑人						
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	前期	講義	2単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	人間の成長と発達の過程および老化に伴う心身の変化について基礎的に理解し、介護実践の根拠となる基本的知識を習得する。生涯発達の視点を通して利用者を多角的に捉える基礎を築くことを目的とする。						
到達目標	① 人間の発達段階および老化に伴う身体的・心理的变化を基礎的に説明できる。 ② 高齢期の特性を理解し、生活上起こり得る変化との関連を述べるができる。 ③ 発達および老化の理解が、なぜ介護実践の基盤となるのかを説明できる。 ④ 基本的な専門用語を理解し、適切に使用できる。						
実務経験と 授業内容への 活用	高齢者施設、総合病院、保育園、児童精神科で看護師として計12年勤務。乳児から高齢者を対象とした支援をしていく中で得た知見に基づき、発達と老化の理解を教授する。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	水本	講義	内容 発達の概要 オリエンテーション/成長・発達の考え方・原則・法則 到達目標 ・発達とはなにか、発達の要因を考えることができる ・発達の考え方、順序を理解できる			
	2.	水本	講義	内容 発達の要因 発達に影響する要因 到達目標 ・発達の要因について理解できる			
	3.	水本	講義	内容 発達理論 発達理論、発達段階と発達課題について 到達目標 ・発達理論の特徴を理解できる ・各発達段階の特徴を理解できる			
	4.	水本	講義	内容 各発達段階の特徴 身体的機能の成長と発達 到達目標 ・一般的な身体的、運動機能の発達が理解できる。 ・各発達段階にみられる疾患、障害の特徴を理解できる			
	5.	水本	講義	内容 発達理論の理解 心理機能の発達/言語発達 到達目標 ・ピアジェの認知発達理論の特徴を理解できる ・一般的な言語発達の特徴を理解できる			
	6.	水本	講義	内容 乳幼児の社会性 社会的機能の発達 到達目標 ・乳幼児の社会性の発達について理解できる ・愛着の発達について理解できる ・道徳、向社会的行動について理解できる			
	7.	水本	講義	内容 老年期とは 老化の定義 到達目標 ・老年期に関する各定義について理解できる ・老化の特徴について理解できる			
	8.	水本	講義	内容 老年期の発達課題 老年期の発達課題について 到達目標 ・様々な学説に基づいて老年期の発達課題を考えることができる ・老いの価値について考えることができる ・老年期の喪失体験、セクシュアリティについて考えることができる			

9.	水本	講義	<p>内 容 加齢による変化 老年期をめぐる課題／老化に伴う身体的変化と生活への影響</p> <p>到達目標 ・日本における老年期をめぐる課題の特徴が理解できる ・加齢による生理機能の変化の特徴を理解できる</p>				
10.	水本	講義	<p>内 容 老化による身体機能の変化① 老化に伴う身体的な変化と生活への影響（骨格系・筋系、脳・神経系、感覚器系）</p> <p>到達目標 ・老化による筋骨格系、脳神経系。感覚器系の特徴を理解できる</p>				
11.	水本	講義	<p>内 容 老化による身体機能の変化② 老化に伴う身体的な変化と生活への影響（血液・循環器系、呼吸器系、消化器系、腎・泌尿器系、生殖器系、内分泌・代謝系、免疫系）</p> <p>到達目標 ・老化による血液・循環器系、呼吸器系、消化器系、腎・泌尿器系、生殖器系、内分泌・代謝系、免疫系の特徴を理解できる</p>				
12.	水本	講義	<p>内 容 老化による認知機能の変化 老化に伴う身体的な変化と生活への影響（知覚機能、記憶機能、知的機能）</p> <p>到達目標 ・老化による知覚機能、記憶機能、知的機能の変化の特徴を理解できる</p>				
13.	水本	講義	<p>内 容 老化による社会的変化 老化に伴う社会的な変化と生活への影響</p> <p>到達目標 ・パーソナリティの変化について理解できる ・老化と動機づけ、適応について理解できる</p>				
14.	水本	講義	<p>内 容 振り返り これまでの復習（試験対策問題演習と解答解説）</p> <p>到達目標 ・これまでの復習をして8割以上の正答率となる</p>				
15.	水本	試験	<p>内 容 振り返り これまでの復習（試験対策問題演習と解答解説）</p> <p>到達目標 ・科目全領域の理解をすることができる</p>				
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	60%	10%				30%	100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑫「発達と老化の理解」（第2版）編集：介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献	参考文献：なし						
その他 （留意点等）	授業資料はオリジナルのものを使用する。授業ごとに口頭での質問によって理解度の確認を行う。						

科目名		【発達と老化の理解Ⅱ】					
担当者		水本 侑人					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	後期	講義	2単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	人間の発達および老化に伴う心身の変化を踏まえ、高齢期に多くみられる疾患の特徴を体系的に理解する。正常な老化との違いを整理し、疾患による生活機能への影響を捉えることで、介護実践の根拠となる知識の深化を図ることを目的とする。						
到達目標	① 高齢期に多い主要な疾患の特徴および症状を説明できる。 ② 正常な老化による変化と疾患による症状を区別して説明できる。 ③ 疾患が生活機能に及ぼす影響を理解し、必要な介護上の配慮を述べることができる。 ④ 既習内容（発達・老化の基礎）と関連づけて、支援の根拠を示すことができる。						
実務経験と 授業内容への 活用	高齢者施設、総合病院、保育園、児童精神科で看護師として計12年勤務。乳児から高齢者を対象とした支援をしていく中で得た知見に基づき、発達と老化の理解を教授する。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	水本	講義	内 容 健康と寿命 健康長寿に向けての健康 到達目標 ・健康に関連する用語を理解できる ・日本人の平均寿命、健康寿命、死因の変化を理解できる			
	2.	水本	講義	内 容 高齢者に多い疾患・留意点① 高齢者に多い疾患・生活上の留意点（骨格系・筋系の病気） 到達目標 ・骨粗鬆症、骨折、変形性膝関節症、関節リウマチ、変形性脊椎症、脊柱管狭窄相の特徴を理解できる			
	3.	水本	講義	内 容 高齢者に多い疾患・留意点② 高齢者に多い疾患・生活上の留意点（脳・神経系） 到達目標 ・パーキンソン病、脳血管疾患の特徴を理解できる			
	4.	水本	講義	内 容 高齢者に多い疾患・留意点③ 高齢者に多い疾患・生活上の留意点（皮膚・感覚器系） 到達目標 ・高齢者に多い目、耳、皮膚の疾患の特徴を理解できる			
	5.	水本	講義	内 容 高齢者に多い疾患・留意点④ 高齢者に多い疾患・生活上の留意点（循環器系） 到達目標 ・高血圧症、虚血性心疾患、不整脈、閉塞性動脈硬化症の特徴を理解できる			
	6.	水本	講義	内 容 これまでの復習 (1～5回) 高齢者に多い疾患・留意点①～④の復習 到達目標 ・各疾患、およびそれに関わる臓器の機能が理解できる			
	7.	水本	講義	内 容 高齢者に多い疾患・留意点⑤ 高齢者に多い疾患・生活上の留意点（呼吸器系） 到達目標 慢性閉塞性肺疾患、肺炎、喘息、結核の特徴について理解できる			
	8.	水本	講義	内 容 高齢者に多い疾患・留意点⑥ 高齢者に多い疾患・生活上の留意点（消化器系） 到達目標 ・消化性潰瘍、逆流性食道炎、肝硬変の特徴について理解できる			
	9.	水本	講義	内 容 高齢者に多い疾患・留意点⑦ 高齢者に多い疾患・生活上の留意点（腎・泌尿器系） 到達目標 ・前立腺肥大症、尿路感染症、慢性腎不全の特徴について理解できる			
	10.	水本	講義	内 容 高齢者に多い疾患・留意点⑧ 高齢者に多い疾患・生活上の留意点（内分泌・代謝系、歯・口腔系） 到達目標 ・糖尿病、脂質異常症、痛風の特徴が理解できる ・虫歯、歯周病、ドライマウスの特徴を理解できる			

11.	水本	講義	<p>内 容 高齢者に多い疾患・留意点⑨ 高齢者に多い疾患・生活上の留意点（悪性新生物・感染症）</p> <p>到達目標 ・日本人に多いがんの特徴を理解できる ・高齢者に多い感染症の特徴を理解できる</p>				
12.	水本	講義	<p>内 容 高齢者に多い疾患・留意点⑩ 高齢者に多い疾患・生活上の留意点（精神疾患・その他）</p> <p>到達目標 ・高齢者に多い精神疾患の特徴を理解できる ・熱中症、脱水、貧血の特徴を理解できる</p>				
13.	水本	講義	<p>内 容 これまでの復習 (7~12回) 高齢者に多い疾患・留意点⑤~⑩の復習</p> <p>到達目標 ・各疾患、およびそれに関わる臓器の機能が理解できる</p>				
14.	水本	講義	<p>内 容 振り返り これまでの復習（試験対策問題演習と解答解説）</p> <p>到達目標 ・これまでの復習をして8割以上の正答率となる</p>				
15.	水本	試験	<p>内 容 振り返り これまでの復習（試験対策問題演習と解答解説）</p> <p>到達目標 ・科目全領域の理解をすることができる</p>				
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	60%	10%				30%	100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑫「発達と老化の理解」（第2版）編集：介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献	参考文献：なし						
その他 (留意点等)	授業資料はオリジナルのものを使用する。授業ごとに口頭での質問によって理解度の確認を行う。						

科目名	【認知症の理解 I】						
担当者	近藤 真奈美						
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	前期	講義	2単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	原因疾患による認知症の症状特性を理解し、生活支援やコミュニケーションを実践するための基礎知識を習得する。 そのために、認知症の診断・治療・認知症により引き起こされる中核症状とBPSDと生活障害・多職種連携による支援等を学生が理解可能な言葉で伝えていく。						
到達目標	1 認知症の定義、診断基準、認知症の症状や対応方法がわかる。 2 認知症の治療(薬物療法・非薬物療法)がわかる。 3 認知症者を多職種協働で支援するシステム、具体的な実践内容がわかる。						
実務経験と 授業内容への 活用	現場で対応した認知症者とその家族の実例、自身の親の介護で経験したことを話すことで、より現実感を伝える。						
	担当	授業方法	内容・到達目標				
授業計画	1.	近藤	講義	内 容 オリエンテーション・導入 講義の進め方の説明 認知症高齢者の現状 到達目標 ますます増加する認知症高齢者の現状が理解する。			
	2.	近藤	講義	内 容 認知症とは何か 認知症の定義、診断基準 到達目標 認知症の定義が説明できる			
	3.	近藤	講義	内 容 脳のしくみ 脳の構造と機能 認知症に伴う脳の変化 老化に伴う脳の変化 到達目標 老化と認知症の脳変化の違いがわかる。			
	4.	近藤	講義	内 容 認知症者の心理 認知症の症状がひきおこす心理特徴 (不安・喪失感) 到達目標 認知症の人の気持ちを想像できる。			
	5.	近藤	講義	内 容 認知症の診断プロセス 認知症の診断がされるまでの医療機関での対応(スケール活用した問診・画像診断等) 到達目標 診断名が付くには、医療機関受診と検査が必要であることがわかる。			
	6.	近藤	講義	内 容 アルツハイマー型認知症 脳の構造と機能の変化・症状の特徴・対応の留意点 血管性認知症 到達目標 アルツハイマー病、脳血管障害が原因となる認知症の症状と対応の留意点がわかる。			
	7.	近藤	講義	内 容 レビー小体型認知症前頭側頭型認知症 脳の構造と機能の変化・症状の特徴・対応の留意点 到達目標 レビー小体病、ピック病が原因となる認知症の症状と対応の留意点がわかる。			
	8.	近藤	講義	内 容 若年生認知症 治療可能な認知症 若年性認知症者の現状、支援の現状 慢性硬膜下血種等治療可能な認知症の発症原因、症状の特徴と治療法 到達目標 若年性認知症の現状がわかる。 治療可能な認知症について、発症原因と治療法について説明できる。			

9.	近藤	講義	<p>内 容 中核症状の理解 脳機能の変化と中核症状出現の関連 中核症状の具体例</p> <p>到達目標 中核症状は必ず出現するが、脳の障害部位により症状が異なることを理解する。</p>				
10.	近藤	講義	<p>内 容 生活障害の理解 介護家族への支援 生活障害の具体例 家族をはじめ対人関係、社会生活に与える影響について</p> <p>到達目標 生活障害は認知症初期から出現し、進行に伴い、自立した生活を送ることが困難になることを理解する。</p>				
11.	近藤	講義	<p>内 容 BPSDの理解 BPSD出現のプロセスと出現回避 BPSDの具体例とその対処方法</p> <p>到達目標 BPSDはすべての認知症者に見られるわけではないこと、出現の背景因子やきっかけが存在することを理解する。</p>				
12.	近藤	講義	<p>内 容 認知症の治療 アルツハイマー型認知症への薬物療法、 BPSDへの薬物療法、非薬物療法</p> <p>到達目標 薬物療法の有効性、薬の効果、副作用について説明できる。</p>				
13.	近藤	講義	<p>内 容 認知症の予防 認知症の発症を高める要因、押さえる要因地域での具体的な取り組み</p> <p>到達目標 認知症の発症を遅らせる・発症を緩やかにする方法が説明できる。</p>				
14.	近藤	講義	<p>内 容 総括① 知識の確認 今までの学習内容の定着状態の確認</p> <p>到達目標 理解不十分な箇所を発見し、その補足ができる。</p>				
15.	近藤	講義	<p>内 容 総括② この教科のまとめ 前回確認した内容を踏まえ、学びを実践に繋げる</p> <p>到達目標 認知症者とのコミュニケーション・認知症者への支援について、不安が軽減され、実習に臨むことができる。</p>				
成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	50%	40%				10%	100%
教科書	教科書 介護福祉士養成講座 1 3 認知症の理解						
参考文献							
その他 (留意点等)							

科目名		【障害の理解 I】					
担当者		長谷部 裕美					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	後期	講義	2単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	①障害の概念（定義・種類・関連する専門用語）について理解する。 ②障害福祉における基本理念を学び、その支援を担う専門職としての役割を理解する。 ③障害福祉に関わる公的な支援を理解する。民間・非営利の支援があることを理解する。 ④当事者の有する能力を活用する支援、当事者活動について理解する。						
到達目標	①障害の概念（定義・種類・関連する専門用語）について説明ができる。 ②障害福祉の基本理念に即した、専門職としての価値判断ができる。 ③公的支援の内容や違いを説明できる。（公的制度以外については、関心のあるものについて説明できることが望ましい） ④当事者の有する能力を活用した自立支援を考えることができる。						
実務経験と 授業内容への 活用	介護福祉士として、高齢者の施設生活・障害者の在宅生活の支援、その他社会活動を行ってきた。その経験をいかして、制度や専門用語の暗記ではなく、時代背景や現場での活用イメージまで理解を深められるよう、実例を踏まえながら講義を展開する。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	長谷部	講義	内 容 オリエンテーション/障害者の概数 本科目を学ぶ意義、学習方法、成績評価についての説明を行う。また、障害者の概数について学ぶ。（テキストP.8～9） 到達目標 本科目で何を学ぶ必要があるかを理解する。日本における障害者のおおよその数を知る。			
	2.	長谷部	講義	内 容 障害の定義 各種法律の内容を確認し、障害者の定義を学ぶ。（テキストP.9～13） 到達目標 身体障害者、知的障害者、精神障害者、発達障害者、難病、障害児の定義を説明することができる。			
	3.	長谷部	演習	内 容 日本国外の障害者の状況（グループワーク） グループごとにテーマを決めて、日本国外の国・地域の障害者の状況や障害福祉に関する施策について調べ、用紙にまとめる。 （持ち物：PC・書籍等、調べ学習に使うもの） 到達目標 障害者の状況や障害福祉施策について調べてまとめることができる。			
	4.	長谷部	演習	内 容 日本国外の障害者の状況（グループワーク） グループでまとめた内容について発表する。他グループの発表から学んだことを用紙にまとめる。 （レポート・プレゼンテーションとして評価） 到達目標 障害者の状況や障害福祉施策について発表することができる。他グループの発表に関心を持って聞くことができる。			
	5.	長谷部	講義	内 容 障害のとらえ方 障害のとらえ方の変化、特にICIDHからICFへ至った背景やその考え方について学ぶ。（テキストP.2～7） 到達目標 医学・社会・統合モデルの違いについて説明できる。ICIDHとICFの考え方について説明できる。			
	6.	長谷部	講義	内 容 障害福祉の基本理念 障害福祉の基本理念① ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンについて学ぶ。（テキストP.14～18） 到達目標 ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンの違いや特徴を説明できる。			
	7.	長谷部	講義/演習	内 容 障害福祉の基本理念（グループワーク） 障害福祉の基本理念② ストレングス、エンパワメントについて学ぶ。グループでストレングス・エンパワメントの考え方に基づいてミニ事例を検討する。（テキストP.19～20） 到達目標 ストレングス、エンパワメントの特徴を理解し、グループで事例検討をすることができる。			
	8.	長谷部	講義	内 容 障害福祉の基本理念 障害福祉の基本理念③ アドボカシー、意思決定支援、国際障害者年、障害者権利条約について学ぶ。（テキストP.21～25） 到達目標 アドボカシー、意思決定支援、国際障害者年、障害者権利条約について説明できる。			

9.	長谷部	講義	<p>内 容 障害福祉に関連する制度 障害福祉に関連する制度① 障害者総合支援法と障害者の就労支援について学ぶ。(テキストP.28~33、38~39)</p> <p>到達目標 障害者総合支援法の各サービスについて説明できる。</p>				
10.	長谷部	講義	<p>内 容 障害福祉に関連する制度 障害福祉に関連する制度② 障害者差別解消法、障害者虐待防止法、成年後見制度について学ぶ。(テキストP.33~37、39~40)</p> <p>到達目標 障害者差別解消法、障害者虐待防止法、成年後見制度について説明できる。</p>				
11.	長谷部	講義	<p>内 容 障害福祉制度と介護保険制度 障害福祉制度、介護保険制度の違いを確認しながら、第10回までの内容を整理する。障害福祉サービスと介護保険サービスの併用について学ぶ。(テキストP.41~46)</p> <p>到達目標 障害福祉制度について、介護保険と比較しながら説明できる。制度の併用について知る。</p>				
12.	長谷部	講義/演習	<p>内 容 地域のサポート体制(個人ワーク) 豊島区を題材に、地域のサポート体制や民間・非営利の支援について個人で調べ学習を行い、身の回りの障害福祉の支援について学ぶ。(テキストP.234~267)(持ち物:PC・書籍等、調べ学習に使うもの)</p> <p>到達目標 相談支援事業、協議会、地域生活支援拠点について説明できる。自身の生活の中にある障害福祉の支援について知る。</p>				
13.	長谷部	講義	<p>内 容 家族支援/当事者活動 家族の状況、心理、課題等について学ぶ。当事者が主体となった活動について学ぶ。(テキストP.272~297)</p> <p>到達目標 家族の状況、心理、課題等について考え、説明できる。障害を有する当事者の「要介護者」以外の側面に気が付くことができる。</p>				
14.	長谷部	講義	<p>内 容 講義のまとめ 第13回までの振り返りと確認を行い、習熟度を確認する。</p> <p>到達目標 第13回までに学んだ知識の習熟度を確認し、習得していない内容について理解を深める。</p>				
15.	長谷部	講義/演習	<p>内 容 講義のまとめ/発展的な事例の検討(グループワーク) 第14回講義の解説とグループでの事例検討を行い、本科目で学んだ内容の総復習を行う。</p> <p>到達目標 本科目の総復習をし、理解を深める。学んだ知識を活用して、グループで事例検討ができる。</p>				
成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	60%		20%		10%	10%	100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑭ 障害の理解(第3版) 編集:介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献	①佐藤久夫・小澤温(2016)『障害者福祉の世界 第5版』有斐社、②福島敏之(2024)『障害福祉サービスのしくみと使い方』中央法規 等						
その他(留意点等)	<ul style="list-style-type: none"> ・参考文献は、必要に応じて適宜紹介しますので、各自で購入する必要はありません。 ・テキスト・授業で配布した資料は、毎回の講義で必ず持参してください。 						

科目名	【こころとからだのしくみⅠ】						
担当者	八子 久美子						
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	前期	講義	2単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	本科目は、人間の心理および人体の機能・構造を理解し、加齢変化や心身機能の低下、疾患理解へとつながる基礎的知識を修得することを目的とする。 あわせて、介護実践に必要な観察力・判断力の基盤を養い、生活支援を根拠をもって考えられる力を育成する。						
到達目標	1. 人間の基本的欲求および社会的欲求を理解し、生活支援者の視点から説明できる。 2. 人間のこころのしくみと脳の働きとの関連を理解し、説明できる。 3. 人体各部の名称および主要な器官の構造・機能を理解し、説明できる。 4. 生活行為とこころ・からだの連動性を理解し、具体的な生活場面と関連づけて説明できる。						
実務経験と 授業内容への 活用	看護師として大学病院で3年、訪問看護ステーションで訪問看護師、介護支援専門員として8年の実務経験を生かし、健康であることの心と体の仕組み、実践現場でかかわった様々な疾患の特徴や、生活への影響を伝え、それらの経験を心と体の基礎知識をもとに、生活との関連で理解できるように活用する。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	八子	講義	<p>内 容 オリエンテーション（この科目で何をどのように学んでいくのか） 領域「こころとからだのしくみ」の全体科目における位置づけを確認する。健康の概念</p> <p>到達目標 課題や豆テストの位置づけを理解し、取り組む姿勢ができる。 すべての科目の領域の基本であることがわかる。健康について身体的、心理的、社会的側面から説明できる。</p>			
	2.	八子	講義	<p>内 容 こころのしくみの理解① 事例を用いて心（認知・考え方・価値観・感情）について学習する。</p> <p>到達目標 心は誰もがもっているもの、すべての人が同じ心を持っているわけではないことを認知、考え方、価値観、感情から説明できる。</p>			
	3.	八子	講義	<p>内 容 からだのしくみ①（ボディメカニクスの原理） どのような体の動きが楽なのか実践しながら、ボディメカニクスの基礎知識を学習する。（生活支援技術と連動させるため）</p> <p>到達目標 ボディメカニクス8原則の内容を動きと連動させ説明できる。なぜボディメカニクスを活用することが必要なのか説明できる。</p>			
	4.	八子	講義	<p>内 容 ボディメカニクス8原則の内容を説明できる。なぜボディメカニクスを活用することが必要なのか説明できる。 人が生きるために必要な欲求について自分に当てはめて見る。そのうえでマズローの欲求階層説について学習する。</p> <p>到達目標 マズローの欲求階層説の5段階をそれぞれ理解し説明できる。5段階の欲求に関して利用者に当てはめて考えることができる。</p>			
	5.	八子	講義	<p>内 容 こころのしくみの理解③（自己概念と尊厳） 自分について他者に紹介し、傾聴する実践を通じて、自己概念と尊厳について、感じながら学習する。</p> <p>到達目標 自己概念が人によって違うのはなぜか説明できる。人から大切に思われる行為とは何か、尊厳について自分の考えを説明できる。</p>			
	6.	八子	講義	<p>内 容 こころのしくみの理解④（こころと脳の関係） 脳の機能を理解して、脳とこころ（思考・学習・記憶）の関係を理解する。</p> <p>到達目標 こころ（思考・学習・記憶）のメカニズムを脳との関係で説明できる。</p>			
	7.	八子	講義	<p>内 容 こころのしくみの理解⑤（意欲・動機付け、適応機制）確認試験 1 事例から、目の前に課題や葛藤が生じたときに自分のこころを守るしくみを学習する。1回～6回までの授業の到達度の確認試験を行う。</p> <p>到達目標 自分のことに対して意欲・動機づけについて具体的に説明できる。適応機制とは何か説明でき、なぜ起こるのか考えられるようになる。 確認テストにおいて60%以上を合格点とする。到達していない場合は補講して再試験とする。</p>			
	8.	八子	講義	<p>内 容 からだのしくみの理解②（身体の構造・機能） 人間の体のしくみを理解するうえで必要な身体の構造・機能について学習する。</p> <p>到達目標 身体の各部名称を答えられる。身体の機能について答えられる。</p>			

9.	八子	講義	<p>内 容 からだのしくみの理解③（生命の維持と恒常性） 生命機能維持するために不可欠な体の変化について学習する。グループワーク</p> <p>到達目標 外部環境が変化したときの体の反応が説明できる。なぜそのような変化が起こるのか説明でき、健康についての理解を深められる。</p>				
10.	八子	講義	<p>内 容 からだのしくみの理解④（生命の維持と脳・神経系） 体内に組織や器官があっても、互いに協働しなければ生命活動はできない。その指令となる脳・神経系について学習する。</p> <p>到達目標 脳・神経系の構造を説明できる。司令塔である中枢神経系の役割を説明でき、うまく機能しなくなるとどんな症状が起こるのか考えられるようになる。</p>				
11.	八子	講義	<p>内 容 からだのしくみの理解⑤（生命維持調節と神経系） 生命維持調節に欠かせない末梢神経系（自律神経）の役割について学習する。</p> <p>到達目標 自律神経系の種類と特徴について説明できる。自律神経と身体に及ぼす影響について説明でき、介護現場での観察の視点を持てるようになる。</p>				
12.	八子	講義	<p>内 容 からだのしくみの理解⑥（循環器系・呼吸器系） 体液（血液、リンパ液）を体内でどのように運搬させているのか循環器系（心臓、血管、血液、子）に関する基礎知識を学習する。</p> <p>到達目標 循環器系、呼吸器系の解剖や生理的基礎知識や機能が説明できる。 血液はどのように全身を循環しているのか循環経路を用いて説明できる。</p>				
13.	八子	講義	<p>内 容 からだのしくみの理解⑥（バイタルサイン） 2回目確認試験（8回～12回）のからだのしくみの授業内容到達度確認する。 事例をもとに介護福祉士として必要な身体観察とバイタルサインとは何かを学習する。</p> <p>到達目標 バイタルサインの項目をについて正常値が説明できる。 介護福祉士にとってバイタルサインの情報はなぜ必要なのか説明できる。（報告・連絡・相談） 確認テストにおいて60%以上を合格点とする。到達していない場合は補講して再試験とする。</p>				
14.	八子	試験	<p>内 容 到達度確認試験 人間の心理と身体機能の関連を統合的に理解しているか、生活支援の根拠となる身体構造および機能に関する基礎知識を適切に理解しているかを確認する。</p> <p>到達目標 定期試験60%が合格とする。未達成者には課題を出す。</p>				
15.	八子	振り返り	<p>内 容 振り返り 何ができて何ができなかったのかを振り返り、調べ、その後グループで知識を確認し合う。</p> <p>到達目標 基礎知識として必要な用語の意味やなぜこの知識が必要なのか説明できる。 自分のこの科目における到達目標の課題を見つけることができる。</p>				
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	合計	
	50%	30%	20%			100%	
教科書							
参考文献							
その他 （留意点等）							

科目名	【こころとからだのしくみⅡ】						
担当者	八子 久美子						
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	後期	講義	4単位	30回	
授業の目的 (ねらい)	①生活支援の場面（移動、みじたく、食事、排泄、入浴）に応じたこころとからだのしくみの基礎知識を理解する。 ②心身機能低下からくる生活支援の場面（移動、みじたく、食事、排泄、入浴）への影響について理解できる。 ③安心、安全、その人らしく生活するための生活支援を提供する根拠となる知識を理解する。						
到達目標	①移動・身じたく・食事・排泄・入浴の各生活場面における心身の基本的なしくみを説明できる。 ②心身機能の低下や疾患が、各生活場面にどのような影響を及ぼすかを具体的に関連付けて説明できる。 ③「なぜその生活支援が必要か」という問いに対し、心身のしくみを根拠として説明できる。 ④安心・安全・その人らしい生活を支える視点から、心身機能と生活支援を統合的に考えることができる。						
実務経験と 授業内容への 活用	看護師として大学病院で3年、訪問看護ステーションで訪問看護師、介護支援専門員として8年の実務経験を生かし、健康であることの心と体の仕組み、実践現場でかかわった様々な疾患の特徴や、生活への影響を伝え、それらの経験を心と体の基礎知識をもとに、生活との関連で理解できるように活用する。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	八子	講義	内 容 オリエンテーション（この授業の目的） オリエンテーション（後期授業に向けての確認事項）前期の復習や国家試験問題を個別に行い、グループごとに確認し合う学習とする。 到達目標 授業の進め方、課題、テスト、評価について理解し、後期の取り組みへの心構えができる。自分の理解を再認識し、国家試験問題への意識づけができる。			
	2.	八子	講義	内 容 こころとからだのしくみ基礎知識の確認 前期授業内容の「こころのしくみ、からだのしくみ」の内容で、学生の理解度に応じて内容を計画し理解を深める学習とする。 到達目標 日常生活に関連した心と体のしくみを理解するために、基礎知識が理解できている。特に体のしくみのキーワードについて説明ができる。（脳のしくみ、大循環、小循環、肺胞、外呼吸、内呼吸、呼吸中枢等）。			
	3.	八子	講義	内 容 移動に必要な身体のしくみ（骨） 事例や骨の模型を使用して人が移動するためのからだのしくみについて学習する。 到達目標 臥位、座位、立位、重心、良肢位などの基本的姿勢について説明できる。骨の名前が模型を見て答えられるようになる。関節の動き（屈曲、伸展、外転、内転、外旋、内旋）等の専門用語が理解し必要性を説明できる。			
	4.	八子	講義	内 容 移動に関連したこころとからだのしくみ②（関節） 関節の動きを専門用語で使って説明できる。骨粗鬆症、拘縮の原因や症状を説明でき、予防することの重要性について説明できる。 到達目標 関節の動きを専門用語で使って説明できる。骨粗鬆症、拘縮の原因や症状を説明でき、予防することの重要性について説明できる。			
	5.	八子	講義	内 容 移動に関連したこころとからだのしくみ③（骨格筋） 骨格筋の種類や機能について図や映像教材から学習する。また生活の活動低下による骨格筋への影響を理解する。 到達目標 骨格筋の種類や機能を説明できる。			
	6.	八子	講義	内 容 心身機能低下が移動に及ぼす影響①（廃用症候群） 生活の中で、なぜ廃用症候群が起こるのか、予防するためにはどうすれば良いかを事例をもとにグループで学習する。 到達目標 廃用症候群の原因が説明できる。廃用症候群の予防についてグループで考え対策を考えられる。			
	7.	八子	講義	内 容 心身機能低下が移動に及ぼす影響②（高齢者に多い疾患） 生活の中で、移動に影響が出る高齢者に多い代表的な疾患について、原因、症状、治療について学習する。 到達目標 疾患（骨折、リウマチ、脊柱管狭窄症）の原因や症状、治療について説明できる。			
	8.	八子	講義	内 容 心身機能低下が移動に及ぼす影響③（高齢者に多い疾患） 生活の中で、移動に影響が出る高齢者に多い代表的な疾患について、原因、症状、治療について学習する。事例から介護福祉士としての関りを学習する。 到達目標 疾患（筋委縮性側索硬化症、パーキンソン病、脳血管疾患、脊髄損傷）の原因や症状、治療について説明できる。様々な原因で移動が困難となった対象者に対する対応を考えられるようになる。			

9.	八子	講義	<p>内 容 移動に関するところとからだのしくみの総まとめ（確認テスト1） 骨、関節、筋肉の構造や機能、移動に影響を与える疾患についての確認テストを行う。</p> <p>到達目標 確認テストにおいて60%以上を合格点とする。到達していない場合は補講して再試験とする。</p>
10.	八子	講義	<p>内 容 みじたくに関連したところとからだのしくみ①（口腔内、唾液） みじたくとは何かを理解し、みじたくに関連する体のしくみについて学習する。</p> <p>到達目標 口腔内の構造や役割が説明できる。特に唾液の種類や役割について説明し、高齢者の口腔の構造や特徴について説明できる。</p>
11.	八子	講義	<p>内 容 みじたくに関連したところとからだのしくみ②（爪） 正常な爪の状態や老化に伴う爪の変化や、爪の変化から予測できる疾患について学習する。</p> <p>到達目標 日々観察している爪の状態から老化の特徴や病気の予測ができることを理解できるようになる。日々のケアをどうすればいいのか考えられる。</p>
12.	八子	講義	<p>内 容 食べるに関連したところとからだのしくみ①（食べるメカニズム） 食べるという行為に関連した口腔内構造の理解を踏まえて物を食べることを意識して実践する。1つ1つの行為を分析し記録し、グループで確認し合う。（各自おやつを準備する）</p> <p>到達目標 食べるメカニズムを分析して伝えられる。グループワークを行い、食べるメカニズムの1つ1つの行為を確認できる。</p>
13.	八子	講義	<p>内 容 食べるに関連したところとからだのしくみ②（摂食嚥下の5分類） 食べるメカニズムの摂食嚥下5分類について学習する。</p> <p>到達目標 摂食嚥下の5分類を区別でき、その分類ごとの専門用語について意味が理解でき説明できる。</p>
14.	八子	講義	<p>内 容 食べるに関連したところとからだのしくみ③（食欲中枢、自律神経、血糖値） 人間の基本的欲求である食べる（食欲、五感、空腹、満腹、記憶）しくみとして食欲が起こるしくみや自律神経や血糖値の関係を学習する。</p> <p>到達目標 食べる（食欲、五感、空腹、満腹）のメカニズムを説明できる。食欲中枢、五感、血糖値とは何か説明できる。自律神経が消化器系に及ぼす影響や血糖値の正常な状態を説明できる。食べることによる疾患の関係性があることが考えられるようになる。</p>
15.	八子	講義	<p>内 容 食べるに関連したところとからだのしくみ④（生命維持に必要な栄養素） 自分の食生活を振り返りながら生命を維持するために必要な栄養素について学習する。</p> <p>到達目標 五大栄養素とは何か説明できる。それぞれの栄養素の特徴やなぜ必要なのかを説明することができる。</p>
16.	八子	講義	<p>内 容 心身の機能低下が及ぼす食事への影響（加齢、病気・障害による機能低下） どのような原因で食事摂取がスムーズにいかなくなるのか、加齢への影響や病気や障害による機能低下について学習する。</p> <p>到達目標 加齢に伴う食事摂取への影響について説明できる。食事に影響を及ぼす代表的な疾患や障害について説明できる。老化、疾患や障害のある方への適切な食事について考えられるようになる。</p>
17.	八子	講義	<p>内 容 排泄に関連したところとからだのしくみ①（排便のしくみ） 生命活動で不可欠な排泄について消化器系の構造や機能を確認し、排便のしくみについて学習する。</p> <p>到達目標 消化器系の構造や機能を説明できる。便の生成や便排出のしくみについて理解し説明できる。正常な便の性状や量、回数を答えられる。</p>
18.	八子	講義	<p>内 容 排泄に関連したところとからだのしくみ②（消化機能の低下に伴う排便障害） 高齢者に多い消化機能低下の代表である便秘について、各自テキストを見ながら、わかりやすいようにまとめていく。</p> <p>到達目標 便秘の種類ごと、タイプや原因や対処法についてまとめられる。各自まとめたものをグループで共有する。</p>

授業計画

19.	八子	講義	<p>内 容 排泄に関連したところとからだのしくみ③（排尿のしくみ） 排泄について泌尿器系の構造や機能を確認し、排尿のしくみについて学習する。</p> <p>到達目標 泌尿器系の構造や機能を説明できる。尿の生成や尿排出のしくみについて理解し説明できる。正常な尿の性状（量、色、回数）について答えられる。</p>
20.	八子	講義	<p>内 容 心身機能低下が排泄に及ぼす影響①（排尿障害） 高齢者に多い排尿障害について、各自テキストを見ながら、わかりやすくまとめる。</p> <p>到達目標 尿失禁の種類ごと、タイプや原因や対処法についてまとめられる。 各自まとめたものグループで共有する</p>
21.	八子	講義	<p>内 容 心身機能低下が排泄に及ぼす影響②（グループワーク） 高齢者に多い便秘や尿失禁について、各自まとめたものを集約し、班で話し合い、他者にわかりやすく伝えることを目標に話し合い資料を作成する。</p> <p>到達目標 グループで協力して、テーマについて班ごとまとめられる。全員が参加できている。</p>
22.	八子	講義	<p>内 容 心身機能低下が排泄に及ぼす影響③（便秘・尿失禁プレゼンテーション） グループでまとめた資料をもとに班ごとのプレゼンテーションすることを体験する。</p> <p>到達目標 班でまとめてプレゼンテーションができる。プレゼンテーションに至る過程について振り返り、介護現場に当てはめて考えられるようになる。（自己学習、他者への尊重、チームでケアする意義）</p>
23.	八子	講義	<p>内 容 排泄の自立支援について考える 排泄の支援への尊厳とは何か、自立支援に必要な知識や技術について事例を通して考える</p> <p>到達目標 排泄のしくみに関する医学的知識を排泄の自立（おむつはずし）に活かすための方法を考えられるようになる。排泄ケアの関わりに関して自分の意見が尊厳や自立支援の観点から言えるようになる。</p>
24.	八子	講義	<p>内 容 まとめ（授業10回から23回）知識確認テスト2 みじたくに関連したから排泄に関連したところとからだのしくみについて習得度を確認するテストを行う。</p> <p>到達目標 合格点は60%とする。到達していない学生は補講と再試験とする。</p>
25.	八子	講義	<p>内 容 入浴に関連したところとからだのしくみ① 入浴に関連するからだのしくみ（皮膚、発汗、入浴が与えるからだへの影響）について学習する。</p> <p>到達目標 皮膚の構造や機能について説明できる。発汗の種類、機能について説明できる。皮膚の正常な働きが健康維持するのに、いかに大切か理解できるようになる。入浴が身体に及ぼす影響を理解することで、安全な入浴方法について考えられるようになる。</p>
26.	八子	講義	<p>内 容 入浴に関連したところとからだのしくみ② 事例を用いて心身機能が入浴に及ぼす影響について学習する。（加齢に伴う皮膚の機能変化、安全な入浴方法（ヒートショック、疾患）</p> <p>到達目標 加齢に伴う皮膚の変化やヒートショックと何か、疾患別に入浴方法が異なるのか説明できる。</p>
27.	八子	講義	<p>内 容 介護予防について（合同授業） 介護予防とは何か、どうすれば予防できるのか介護予防の概念を学習する。</p> <p>到達目標 介護予防となにか、なぜ大切なのか、どうすれば予防できるのかを説明できる。。</p>
28.	八子	講義	<p>内 容 まとめ：日常生活に関連したところとからだのしくみや機能低下、疾患のメカニズムを確認 後期内容の学習到達すべき用語の確認 他科目の関連性を確認できるような事例で確認していく。</p> <p>到達目標 学習到達度を自覚できる。自分の課題を明確にできる。</p>

	29.	八子	振り返り	<p>内 容 この科目到達確認試験 講義授業内容を理解しているかの確認を行う</p> <p>到達目標 定期試験（点数）60%が合格とする。未達成者には課題を出す。</p>			
	30.	八子	振り返り	<p>内 容 振り返り 何ができて何ができなかったのか木人で振り返り、調べ、その後グループで知識を確認し合う。</p> <p>到達目標 基礎知識として必要用語の意味やなぜこの知識が必要なのか説明できる。</p>			
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	合計	
	50%	30%	20%			100%	
教科書	最新 介護福祉士養成講座①「こころとからだのしくみ」（第2版）編集：介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献							
その他 （留意点等）							

科目名	【福祉とキャリア】							
担当者	齋藤 美由紀							
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数		
介護福祉学科	昼間部	1年	後期	講義	2単位	15回		
授業の目的 (ねらい)	<div style="border: 2px solid #0056b3; border-radius: 20px; padding: 10px; text-align: center;"> <p>外部講師の方に来ていただき、授業を行います。 担当が決まり次第、別途お知らせします。</p> </div>							
到達目標								
実務経験と 授業内容への 活用								
	担当	授業方法	内容・到達目標					
授業計画	1.							
	2.							
	3.							
	4.							
	5.							
	6.							
	7.							
	8.							
	9.							
	10.							
	11.							
	12.							
	13.							
	14.							
	15.							
成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	合計		
教科書								
参考文献								
その他 (留意点等)								

科目名		【ホスピタリティ】					
担当者		株式会社翼会					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	1年	前期	講義	2単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	本科目の目的を、介護現場において利用者一人ひとりの尊厳を守るホスピタリティを理解し、実践できる基礎力の養成とする。到達目標として、場面に応じた適切な配慮や行動を自ら考え実行できる力の習得を掲げる。授業では自身の経験を踏まえた具体的事例を紹介し、理論と結び付けることで、学びが実習や将来の業務に活用できるよう指導内容を工夫する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティの基本的な考え方を説明できる ・利用者の尊厳を尊重した関わりの重要性を理解している ・場面に応じた適切な言動や配慮を考え、行動として示すことができる ・実習や介護現場において、学んだ内容を意識的に活用しようとする姿勢を持つ 						
実務経験と 授業内容への 活用	担当の経験をもとに、実際に起こり得る事例を取り上げながら授業を展開する。理論だけでなく、言葉や態度が相手に与える影響について具体的に示すことで、学生が現実的なイメージを持てるよう工夫する。また、成功例だけでなく課題や失敗から学ぶ視点も共有し、実習や将来の業務に活かせる実践的な学びにつなげる。						
	担当	授業方法			内容・到達目標		
1.	翼会	講義	<p>内 容 オリエンテーション 立ち居振る舞いの基本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期の授業の進め方について説明を行う ホスピタリティを学ぶ意義を考え、グループワークを通じて信頼される社会人像への理解を深める。 ・立ち居振る舞いの基礎を習得する。 <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半期の授業の進め方、ホスピタリティを身に着ける意義を理解する。 ・立ち方・挨拶・返事について学びを深める。 				
2.	翼会	講義	<p>内 容 相互尊重 コミュニケーションの基本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互尊重の基本について理解し学びを深める。 ・挨拶の必要性を理解し、社会人としての常識と好感の持てる態度と挨拶を身に着ける。 <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相互尊重のマインドを持ち、それを表現することができる。 ・好感の持てる挨拶・態度・数種類の挨拶をスマートに行うことができる。 				
3.	翼会	講義	<p>内 容 言葉遣い・敬語① 言葉遣い・敬語②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敬語の基本を習得する。(尊敬語・謙譲語・丁寧語) ・敬語を声に出して遣えるよう演習を通して習得する。 <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい敬語を理解できる。 ・正しい敬語を理解し、声に出して適切に遣うことができる。 				
4.	翼会	講義	<p>内 容 電話対応の基本① 電話対応の基本②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてスマートな電話を受け方・掛け方を演習を通じて学び、電話対応スキルを習得する。 ・実習先に電話をかける場面を想定したロールプレイを通じビジネス電話に慣れ、声・言葉遣いも含めた好感もてる受け答え、対応力を高める。 <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人として相応しいホスピタリティの高い電話対応ができる。 ・実習先に電話をする際に正しい言葉遣い、印象の良い対応ができる。 				
5.	翼会	講義	<p>内 容 言葉遣い・敬語③ 言葉遣い・敬語④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な言葉選び・言い換え・投げかけ方(音調・テンポ)のバリエーションを習得する。 ・応用編として敬語についての学びを深め、誤った使い方を適切な言葉に修正する。 <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面毎に適切で正しい敬語を遣うことが出来、ホスピタリティの高い声掛けができる。 ・誤った言葉の使い方を修正し、正しい言葉に直すことができる。 				
6.	翼会	講義	<p>内 容 聴き方・話し方 傾聴の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対話の重要性を理解し、活舌・発声の演習によりクリアな発声を習得する。ペアワークで傾聴を体験。好感が持てる聞き方を学び、質問力・コミュニケーション能力の向上を図る。 ・実習に備え、効果的な自己紹介を作成し発表する。 <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホスピタリティのある話し方、適切なヒヤリングを行うことができる。 ・社会人として好感の持てる自己紹介を行うことができる。 				
7.	翼会	講義	<p>内 容 ホスピタリティマインド 顧客意識を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを用いてホスピタリティを考え、自ら今までの経験を顧み、ホスピタリティマインドを高める。 ・相手の立場に立ち顧客意識を考え、どのようにホスピタリティを伝え、表現するか具体的に考える。 <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客の立場に立ち考え、ホスピタリティを理解することができる。 ・顧客の立場に立ち考え、ホスピタリティを具体的に行動で表現できる。 				

授業計画	8.	翼会	講義	<p>内 容 指示を受ける 報告・連絡・相談 ・指示受けの意義、報告・連絡・相談の重要性を学ぶ。 ・ロールプレイ、グループワークを用いて、現場を想定した指示受け、報告・連絡・相談の演習を行う。</p> <p>到達目標 ・指示受けの意義、報告・連絡・相談の重要性を理解する。 ・ホスピタリティマインドを持ち、的確な指示受け、正確な報告・連絡・相談を行うことができる。</p>			
	9.	翼会	講義	<p>内 容 チームワーク① チームワーク② ・組織の基本と、チームワークの重要性について学習する。 ・ロールプレイを用いて、チームのあり方について考え、体験し、共有する。組織の中でどのように立ち振る舞うかについて考えを深める。</p> <p>到達目標 ・組織の基本とチームワークの重要性を理解することができる。 ・組織の基本とチームワークの重要性を理解し、適切な行動を取ることができる。</p>			
	10.	翼会	講義	<p>内 容 豊かな仕事生活① 豊かな仕事生活② プレゼンテーション ・キャリアビルディングとライフプランについて学び、考えを深める。 ・これからの社会人生活の中で『豊かな仕事生活とは』をテーマとしグループ毎にプレゼンテーションを行う。</p> <p>到達目標 ・今後の社会人生活において前向きな思考と具体的な人生計画を持ち、主体的に考え、積極的に行動することができる。 ・自らのライフプランニングが出来るようになる。</p>			
	11.	翼会	講義	<p>内 容 自己PR① 自己PR② ・自らを振り返り、自己PRの必要性和効果的な作成方法を学ぶ。 ・自らを振り返り、自己PRの必要性和作成方法を学び、授業内で作成する。</p> <p>到達目標 ・自己PRの素案となる案を出すことができる。 ・自己PR原稿を作成することができる。(原稿を提出課題とする)</p>			
	12.	翼会	講義	<p>内 容 ビジネス文書 社内文書 メールのマナー ・基本的なビジネス文書の書式やマナーを理解し、書き方を習得する。 ・社内文書の書式やマナーを理解し、書き方を習得する。</p> <p>到達目標 ・ビジネス文書の作成方法を理解し、実際に作成することができる。 ・文書やメールのマナーを理解し、実習先へお礼のハガキを書くことができる。</p>			
	13.	翼会	講義	<p>内 容 仕事に必要な意識① 仕事に必要な意識② ・8つの意識を理解しグループワークを用いて、具体的な活用方法を共有する。 ・入社から退社まで職場での基本的なマナー・仕事に対する姿勢を理解、習得する。</p> <p>到達目標 ・実習先・就職先に於いて8つの意識をもとに効果的かつ効率的なパフォーマンスが行える。 ・職場での基本的なマナーを実践することができる。</p>			
	14.	翼会	講義	<p>内 容 来客応対 訪問・面談のマナー ・物の受け渡し・名刺の受け方等のマナーへの学びを深め、習得する。 ・訪問・面談する際の礼儀、マナーについて学びを深め習得する。</p> <p>到達目標 ・物の授受、名刺交換をスムーズに行うことができる。 ・訪問・面談に於いて礼儀礼節をもった行動が取れる。</p>			
	15.	翼会	ふり返し	<p>内 容 まとめ 基本的なビジネスマナー・ホスピタリティのある応対が習得できているか、自己PR・コミュニケーションが実践できるか振り返りを行う。面談形式での効果測定を行い振り返りとする。</p> <p>到達目標 ・いかなる場面であってもホスピタリティの高い、好感が持てる適切な応対をすることができる。 ・効果的な自己PR・個人プレゼンテーションが出来る。 ・ビジネスマナーの基本を理解し、基本的な礼儀を実践することができる。</p>			
成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	60%		10%			30%	100%
教科書	なし						
参考文献	なし						
その他 (留意点等)	パワーポイント、資料シートを使用。毎授業の積み重ねが重要。ホスピタリティ・コミュニケーションが授業内でも取れるよう積極的にグループワーク、ペアワークに臨んでいただきたい。						

科目名		【生活と福祉】					
担当者		木村 久枝					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	2年	後期	講義	2単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	① 社会生活をおくる人間には、個人だけでなく集団の視点でとらえることが大切です。 ② 生活を社会と福祉の関係性で体系的にとらえ、介護福祉につなげることが大切です。						
到達目標	① 個人、家族、地域、社会のしくみと、地域における生活の構造について理解します。 ② 生活に切り離せない、社会との関りについて、ライフサイクル別に理解します。 ③ 様々な生活をする人々の、尊厳と自立の現状を理解して、課題を導き出します。						
実務経験と 授業内容への 活用	介護福祉士、看護師教育の実務経験30年以上をもとに、地域社会で支援する福祉と医療の知識を活かし、地域社会で過ごされる人々の現状と福祉の関りを、生活の支援者である介護福祉士の専門性をふまえて教授します。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	木村	講義	内 容 オリエンテーション 生活の構成要素と基盤 生活とは何かを改めて理解し、自分の生活様式を書き出し自己覚知する。 到達目標 生活支援の専門職として、人それぞれには生活様式の違いがあることを理解する。			
	2.	木村	講義	内 容 家族の定義 家族の形態と機能、生活習慣を含めた個人生き方を習得する。 前回の学びの復習として小テストを実施する。 到達目標 日本における家族の変遷を知ることができる。			
	3.	木村	講義	内 容 ライフサイクルにおける生活様式や営みと福祉① グループワーク 自分の過去として、乳幼児期の社会のルールや福祉について、グループワークを通して、互いの意見を尊重し、役割をもって意思決定することを学ぶ。 到達目標 日本における乳幼児期の生活と福祉について知ることができる。			
	4.	木村	講義	内 容 発表 前回グループでまとめたものをパワーポイントを使って発表し、質疑応答を組み入れ、他者の意見や思いを受け入れながら、自己の考えも構築させる。 到達目標 互いの意見を尊重し、グループとしての意見や他グループの発表を聞くことができる。			
	5.	木村	講義	内 容 ライフサイクルにおける生活様式や営みと福祉② グループワーク 自分の過去として、学童期・思春期の社会のルールや福祉について、グループワークを通して、互いの意見を尊重し、役割をもってまとめあげることを学ぶ。 到達目標 日本における学童期・思春期の生活と福祉について知ることができる。			
	6.	木村	講義	内 容 発表 前回グループでまとめたものをパワーポイントを使って発表し、質疑応答を通して他者の意見や思いを受け入れながら、自己の考えも深める。 到達目標 互いの意見を尊重し、グループとしての意見や他グループの発表を聞き、まとめることができる。			
	7.	木村	講義	内 容 社会参加に向けたキャリアプランと福祉 現代社会における学童期・思春期の社会問題の構造的背景（貧困格差、社会意識・価値観の変化）などについて学び、自己のキャリアデザインにつなげる。 到達目標 現代社会における学童期・思春期の社会問題の構造的背景（少子高齢化、人口減少社会、格差、貧困、社会意識・価値観の変化）を踏まえ、自己のキャリアデザインにつなぐことができる。			
	8.	木村	講義	内 容 ライフサイクルにおける生活様式や営み方と福祉③ グループワーク 自分の現在として、困難を有する若者を支援する社会と環境づくりについて、グループワークを通して、互いの意見を尊重し、役割をもってまとめあげることができる。 前回の学びの復習として小テストを実施する。 到達目標 日本における若者の支援に関する社会福祉、介護福祉について知ることができる。			

9.	木村	講義	<p>内 容 発表 前回グループワークでまとめたものをパワーポイントを使って発表し、質疑応答を通して他者の意見や思いを受け入れながら、自己の考えも深める。</p> <p>到達目標 互いの意見を尊重し、グループとしての意見や他グループの発表を聞き、まとめることができる。</p>				
10.	木村	講義	<p>内 容 安定した職業生活と充実した生活を送るための福祉 現在社会における若者の社会問題の構造背景（人口の減少、就業意識・価値観の変化）などについて学び、安定した職業生活と充実した生活を送るための福祉について学ぶ。</p> <p>到達目標 現在社会における若者の社会問題の構造的背景（人口の減少、就業意識・価値観の変化）などについて学び、安定した職業生活と充実した生活を送ることにつながることもできる。</p>				
11.	木村	講義	<p>内 容 ライフサイクルにおける生活様式や営みと福祉④-1 個人ワーク 自分の未来としての高齢者の暮らし・就労と地域社会での支え合いについて、個人の力でまとめあげることができる。</p> <p>到達目標 日本における高齢者の生活と福祉について知ることができる。</p>				
12.	木村	講義	<p>内 容 ライフサイクルにおける生活様式や営みと福祉④-2 個人ワーク 自分の未来としての高齢者の暮らし・就労と地域社会での支え合いについて、個人の力でまとめあげることができる。</p> <p>到達目標 日本における高齢者の生活と福祉について知ることができる。</p>				
13.	木村	講義	<p>内 容 発表 前回、前々回で個人でまとめたものをパワーポイントを使って発表し、質疑応答を通して他者の意見や思いを受け入れながら、自己の考えも深める。</p> <p>到達目標 他者の意見を聞きながら、まとめることができる。</p>				
14.	木村	試験	<p>内 容 復習と自己覚知 これまでの学習の復習として、問題を通して理解を深める。</p> <p>到達目標 国家試験合格を目指した学びができる。</p>				
15.	木村	講義	<p>内 容 復習 これまでの学習の復習として、国家試験対策としての「社会の理解」を過去の問題の解答・解説を通して理解を深める。</p> <p>到達目標 国家試験合格を目指した学びができる。</p>				
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	グループワーク参加状況	合計
	60%	10%	10%		10%	10%	100%
教科書	『介護福祉士養成講座 2 「社会の理解」』（介護福祉士養成講座編集委員会）』中央法規、						
参考文献	厚生労働省等資料						
その他 （留意点等）	能動的・主体的に授業に参加し学習に取り組んでほしい。積み重ねが大切な科目であり、前後の講義との関係性はもとより、科目全体を通してさらには他の科目との相互理解を深めていくように学習を進めてほしい。						

科目名		【社会保障制度】					
担当者		森 長秀					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	2年	後期	講義	2単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	留学生および日本人学生それぞれが、日本の社会保障制度の概要、分類、社会保険を中核とする各制度の基本的内容、社会扶助・民間保険など関連制度との関係性、制度の持続可能性に関わる今日的課題（少子高齢化・雇用の変化・財政状況など）について、当事者意識を醸成しつつ、分かりやすく理解できることを目的とする。						
到達目標	上記の目的を達成するとともに、国家試験受験に必要な正確な知識や理解を獲得し、合格レベルの知識を獲得することを目標とする。						
実務経験と授業内容への活用	さまざまな支援活動や行政救済制度に各種委員（オンブズマン、苦情処理制度等）として関与してきた知見を、講義内容に取り入れた授業を展開する。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	森 長秀	講義	<p>内 容 はじめに 授業内容の概要 授業の進め方と進度 期末試験と成績評価について</p> <p>到達目標 全体の授業の流れや成績評価について理解することができる。</p>			
	2.	森 長秀	講義	<p>内 容 社会保障制度の概要 社会保障の概念 日本の社会保障制度の分類と内容</p> <p>到達目標 社会保障の概念および社会保障制度の分類について、理解することができる。</p>			
	3.	森 長秀	講義	<p>内 容 社会保険（1） 社会保険と社会扶助 社会保険と民間保険</p> <p>到達目標 社会保険と社会扶助・民間保険との異同や概要について、理解することができる。</p>			
	4.	森 長秀	講義	<p>内 容 社会保険（2） 年金保険制度</p> <p>到達目標 日本の年金制度について、基礎年金制度・厚生年金制度等の基本的な内容を理解することができる。</p>			
	5.	森 長秀	講義	<p>内 容 社会保険（3） 医療保険制度</p> <p>到達目標 日本の医療制度について、健康保険・国民健康保険・後期高齢者医療制度等の基本的な内容を理解することができる。</p>			
	6.	森 長秀	講義	<p>内 容 社会保険（4） 介護保険制度</p> <p>到達目標 日本の介護保険制度の成り立ちおよび内容について、理解することができる。</p>			
	7.	森 長秀	講義	<p>内 容 社会保険（5） 労災保険制度</p> <p>到達目標 日本の労災保険制度の成り立ちおよび内容について、理解することができる。</p>			
	8.	森 長秀	講義	<p>内 容 社会保険（6） 雇用保険制度</p> <p>到達目標 日本の雇用保険制度の成り立ちおよび内容について、理解することができる。</p>			

9.	森 長秀	講義	内 容 社会扶助（１） 公的扶助（生活保護制度中心）の概要 到達目標 生活保護制度や生活困窮者自立支援制度、福祉資金貸付制度等について、理解することができる。				
10.	森 長秀	講義	内 容 社会扶助（２） 社会手当（児童手当・児童扶養手当を中心として） 社会福祉（高齢者・障害者・児童など） 到達目標 各種の社会手当制度や福祉サービスについて、理解することができる。				
11.	森 長秀	講義	内 容 社会保障の課題（１） 少子高齢社会の現状と課題 到達目標 日本の少子高齢社会の現状と課題、諸外国との比較について、理解することができる。				
12.	森 長秀	講義	内 容 社会保障の課題（２） 日本の雇用の現状と課題 到達目標 正規雇用・非正規雇用をはじめとする日本の雇用の現状課題について、理解することができる。				
13.	森 長秀	講義	内 容 社会保障の課題（３） 社会保障財政 到達目標 日本社会保障財政の現状と課題について、理解することができる。				
14.	森 長秀	講義	内 容 まとめと総復習 これまでの授業内容全体のまとめと復習 到達目標 これまで授業で取り上げた内容について、総復習し理解の定着を図ることができる。				
15.	森 長秀	講義	内 容 総括 国家試験と同内容、同レベルの択一式問題の解答解説 解答解説の実施 到達目標 授業内容全体の理解度を図るとともに、解答解説により欠点の確認や補足をすることができる。				
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	60%					40%	100%
教科書							
参考文献							
その他 （留意点等）							

科目名		【介護の基本Ⅲ】					
担当者		細野 真代					
学科		昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数
介護福祉学科		昼間部	2年	通年	講義	4単位	30回
授業の目的 (ねらい)	①介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。 ②介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解する。 ③介護福祉の専門職として、社会から求められる役割と機能、知識と技能を理解する。 ④介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を養う。						
到達目標	①地域共生社会の実現にむけてその背景と社会が目指す方向性について説明できる ②利用者の尊厳や自立を守り、介護福祉士としての視点に基づいた倫理的判断ができる。 ③介護を必要とする人の「生活のしづらさ」を理解し、環境を整えるための支援方法を説明できる ④高齢者のためのサービスの種類と特徴を説明できる。 ⑤障害者のためのサービスの種類と特徴を説明できる。						
実務経験と 授業内容への 活用	教員自身の介護老人保健施設等での実務経験を活かし、実際の現場を想定した具体的な事例（認知症の方や障害のある方の「生活のしづらさ」など）を多用します。単なる制度や理論の暗記にとどまらず、「人間の尊厳と自立」の視点から、現場で介護福祉士に求められる視点（着眼点）や専門性を実践的に解説します。これにより、「生活支援技術」などの演習科目の根拠となる理論を、現実の支援と結びつけて理解させます。						
		担当	授業方法	内容・到達目標			
授業計画	1.	細野	講義	内 容 私たちの生活の理解 私たちの生活を構成する要素を理解し、生活の多様性と特性について学ぶ 到達目標 自身の生活を構成する要素を理解し、他者との違いや気づきを表現できる			
	2.	細野	講義	内 容 介護福祉を必要とする人たちの暮らし（1） 事例を通じて介護福祉職が関わる人たちの暮らしを理解し、支援の視点を学ぶ 到達目標 支援に必要となる専門的視点から利用者の「生活のしづらさ」を説明できる			
	3.	細野	講義	内 容 介護福祉を必要とする人たちの暮らし（2） 認知症の方の生活のしづらさと尊厳、自立支援のあり方を事例から学ぶ 到達目標 認知症の方の生活ニーズを捉え、自立支援に向けた気づきを表現できる			
	4.	細野	講義	内 容 介護福祉を必要とする人たちの暮らし（3） 障害のある方の生活のしづらさと、家族への支援および自立支援について学ぶ 到達目標 障害のある方の生活ニーズを捉え、自立支援に向けた気づきを表現できる			
	5.	細野	講義	内 容 共生社会の実現を支えるしくみ 地域共生社会の背景と、自助・互助・共助・公助の考え方を学ぶ 到達目標 地域包括ケアシステムにおける自助・互助・共助・公助を説明できる			
	6.	細野	講義	内 容 生活を支えるサービス 介護保険制度におけるフォーマルサービスとインフォーマルサービスの違いを学ぶ 到達目標 高齢者に提供されるフォーマル・インフォーマルサービスの違いを説明できる			
	7.	細野	講義	内 容 介護保険制度における居宅サービス（訪問介護・訪問入浴） 【調べ学習報告】訪問介護、訪問入浴の内容と介護福祉士の役割を学ぶ 到達目標 訪問介護・訪問入浴のサービス内容と介護福祉士の役割を説明できる			
	8.	細野	講義	内 容 介護保険制度における居宅サービス（訪問看護・訪問リハ） 【調べ学習報告】訪問看護、訪問リハの内容と専門職の役割を学ぶ 到達目標 訪問看護・訪問リハのサービス内容と各専門職の役割を説明できる			

9.	細野	講義	<p>内 容 介護保険制度における居宅サービス（居宅療養・通所介護・通所リハ） 【調べ学習報告】居宅療養管理指導、通所介護、通所リハの内容と役割を学ぶ</p> <p>到達目標 通所系サービス等の特徴と介護福祉士および専門職の役割を説明できる</p>
10.	細野	講義	<p>内 容 介護保険制度における居宅サービス（短期入所・特定施設） 【調べ学習報告】短期入所生活介護、短期入所療養介護、特定施設の内容を学ぶ</p> <p>到達目標 短期入所系サービスや特定施設の特徴と介護福祉士の役割を説明できる</p>
11.	細野	講義	<p>内 容 介護保険制度における居宅サービス（福祉用具） 【調べ学習報告】福祉用具貸与、特定福祉用具販売の内容と役割を学ぶ</p> <p>到達目標 福祉用具貸与・販売のサービス内容と生活における役割を説明できる</p>
12.	細野	講義	<p>内 容 介護保険制度における居宅サービス（住宅改修・居宅介護支援） 【調べ学習報告】居宅介護住宅改修費、居宅介護支援の内容と役割を学ぶ</p> <p>到達目標 住宅改修や居宅介護支援の内容とケアマネジメントの役割を説明できる</p>
13.	細野	講義	<p>内 容 前半試験に向けた復習 今まで学んだ内容の国家試験過去問に挑戦し、出題傾向と要点を確認する</p> <p>到達目標 今まで学んだ内容を理解し、国家試験の過去問題を解くことができる</p>
14.	細野	中間試験	<p>内 容 前半試験 第1回から第13回までの学習範囲を対象とした筆記試験を実施する</p> <p>到達目標 1回から13回までの内容を理解し、国家試験の過去問等で正しい解答を選択できる</p>
15.	細野	講義	<p>内 容 前半の振り返りとまとめ 前半試験の解説を行い、正答の根拠を確認することで知識の定着を図る</p> <p>到達目標 自己採点と解説を通じて、自身の理解不足の箇所を特定し再理解できる</p>
16.	細野	講義	<p>内 容 介護保険制度における地域密着型サービス（定期巡回・夜間対応） 【調べ学習報告】定期巡回・随時対応型、夜間対応型訪問介護の内容を学ぶ</p> <p>到達目標 定期巡回・夜間訪問サービスの内容と対象者の特徴を説明できる</p>
17.	細野	講義	<p>内 容 介護保険制度における地域密着型サービス（地域密着通所・認知症通所） 【調べ学習報告】地域密着型通所介護、認知症対応型通所介護の内容を学ぶ</p> <p>到達目標 地域密着型通所介護等の特徴とサービス意義について説明できる</p>
18.	細野	講義	<p>内 容 介護保険制度における地域密着型サービス（小多機・看多機） 【調べ学習報告】小規模多機能型、看護小規模多機能型居宅介護の内容を学ぶ</p> <p>到達目標 小多機・看多機サービスの特徴とそこでの役割について説明できる</p>

授業計画

19.	細野	講義	<p>内 容 介護保険制度における地域密着型サービス（グループホーム・地域特定） 【調べ学習報告】認知症対応型共同生活、地域密着型特定施設の内容を学ぶ</p> <p>到達目標 グループホームや地域密着型特定施設の特徴を説明できる</p>
20.	細野	講義	<p>内 容 介護保険制度における地域密着型サービス（地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護） 【調べ学習報告】地域密着型介護老人福祉施設、地域密着型短期入所者生活介護の内容を学ぶ</p> <p>到達目標 地域密着型介護老人福祉施設、地域密着型短期入所者生活介護の特徴を説明できる</p>
21.	細野	講義	<p>内 容 介護保険制度における施設サービス（介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護医療院） 【調べ学習報告】介護老人福祉施設（特養）、介護老人保健施設、介護医療院の目的と医療・介護連携の実際を学ぶ</p> <p>到達目標 介護老人福祉施設（特養）、介護老人保健施設、介護医療院の特徴を説明できる。</p>
22.	細野	講義	<p>内 容 介護保険制度における施設サービス、地域密着型サービスのまとめ 施設サービス、地域密着型サービスの内容から過去に出題された国家試験の問題を解き出題傾向とを確認する。</p> <p>到達目標 施設サービス、地域密着型サービスの内容から過去に出題された国家試験の問題から適切な解答を選ぶことができる</p>
23.	細野	講義	<p>内 容 他国の高齢者福祉サービスについて調べてみよう 他国の社会状況と高齢者福祉制度とサービスについてグループで調べ、日本と比較した内容を発表する。他国の福祉制度について関心を持つ。</p> <p>到達目標 他国の日本との社会状況の違い、制度の違いを説明できる</p>
24.	細野	講義	<p>内 容 他国の高齢者福祉サービスについて調べてみよう 他国の社会状況と高齢者福祉制度とサービスについてグループで調べ、日本と比較した内容を発表する。他国の福祉制度について関心を持つ。</p> <p>到達目標 他国の日本との社会状況の違い、制度の違いを説明できる</p>
25.	細野	講義	<p>内 容 他国の高齢者福祉サービスについて調べてみよう 他国の社会状況と高齢者福祉制度とサービスについてグループで調べ、日本と比較した内容を発表する。他国の福祉制度について関心を持つ。</p> <p>到達目標 他国の日本との社会状況の違い、制度の違いを説明できる</p>
26.	細野	講義	<p>内 容 生活を支えるネットワーク（インフォーマルサービス ボランティアや近隣の支え合いなど、インフォーマル活用の重要性を学ぶ</p> <p>到達目標 インフォーマルサービスの種類を挙げ、活用の意義を説明できる</p>
27.	細野	講義	<p>内 容 生活を支えるネットワーク（障害福祉サービス等） 介護保険制度以外のフォーマルサービス（障害福祉サービス等）について学ぶ</p> <p>到達目標 障害福祉サービス等の仕組みを介護保険制度と比較して説明できる</p>
28.	細野	講義	<p>内 容 生活を支えるネットワーク（障害福祉サービス等） 介護保険制度以外のフォーマルサービス（障害福祉サービス等）について学ぶ</p> <p>到達目標 障害福祉サービス等の仕組みを介護保険制度と比較して説明できる</p>

	29.	細野	講義	<p>内 容 卒業に向けた復習 卒業に向けた復習を行い自己の知識の定着度を把握する。</p> <p>到達目標 学んだ知識を体系的に整理し、実務や実習への繋がりを説明できる</p>			
	30.	細野	講義	<p>内 容 前期の学習内容を総括し、国家試験頻出ポイントを中心に復習 全30回の学習内容を総括し、国家試験頻出ポイントを中心に復習を行う</p> <p>到達目標 本科目の全ての到達目標を達成していることを確認する</p>			
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	合計	
	50%	50%				100%	
教科書	最新 介護福祉士養成講座④ 「介護の基本Ⅱ」（第3版）編集：介護福祉士養成講座委員会 中央法規出版						
参考文献	「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2026」中央法規出版						
その他 (留意点等)	授業内で要点をお伝えしますので、必ず復習し覚えてください。※外部講師の都合により日程が変更になる場合があります。						

科目名		【介護の基本Ⅳ】					
担当者		細野 真代					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	2年	通年	講義	4単位	30回	
授業の目的 (ねらい)	①介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。 ②介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解する。 ③介護福祉の専門職として、社会から求められる役割と機能、知識と技能を理解する。 ④介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を養う。 ⑤介護実践における安全とリスクマネジメント、多職種連携、介護従事者の安全に関して、介護実践の基礎となる知識を理解する。						
到達目標	①地域連携の意義とかかわる組織・団体の役割について説明できる。 ②介護における安全の確保とリスクマネジメントの必要性について述べるができる。 ③介護実践の場で多職種連携・協働が必要とされる意義について述べるができる。 ④介護従事者の心身の健康管理の必要性とその対策が適正に実施できる。 ⑤働く人の健康や生活を守る法制度について述べることができる。						
実務経験と 授業内容への 活用	教員自身の介護老人保健施設等での実務経験を活かし、実際の現場を想定した具体的な事例（認知症の方や障害のある方の「生活のしづらさ」など）を多用します。単なる制度や理論の暗記にとどまらず、「人間の尊厳と自立」の視点から、現場で介護福祉士に求められる視点（着眼点）や専門性を実践的に解説します。これにより、「生活支援技術」などの演習科目の根拠となる理論を、現実の支援と結びつけて理解させます。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	細野	講義	内 容 地域連携の意義と目的 地域連携の意義と目的について学び、地域で生活する利用者を支えるための連携の必要性を理解する。また、地域連携の形態や地域における介護施設の役割について理解を深める。 到達目標 地域連携の意義と目的を理解し、地域で生活する利用者を支えるための連携の必要性について説明することができる。			
	2.	細野	講義	内 容 地域連携に関わる機関の理解 地域福祉に関わる組織や団体の種類や特徴について学び、それぞれの役割と機能について理解する。また、介護福祉士が地域との関係機関と連携する意義について考える。 到達目標 地域福祉に関わる主な機関や団体について理解し、それぞれの特徴と役割について説明することができる。			
	3.	細野	講義	内 容 地域連携に関わる機関の理解（民生委員） 地域福祉に関わる機関の一つである民生委員の役割について学び、地域における活動内容を理解する。また、地域の支援体制の中で介護福祉士がどのように連携できるかについて考える。 到達目標 民生委員の役割について理解し、地域における支援活動と介護福祉士との連携の可能性について説明することができる。			
	4.	細野	講義	内 容 介護における安全の確保（リスクマネジメント） 介護現場における安全の確保の重要性について学び、セーフティマネジメントの基本的な考え方を理解する。また、身体拘束や行動を制限する行為が利用者にも与える影響について理解する。 到達目標 介護における安全確保の重要性を理解し、リスクマネジメントの必要性や身体拘束が利用者にも与える影響について説明することができる。			
	5.	細野	講義	内 容 介護における安全の確保（事故防止） 介護現場における事故防止の考え方について学び、利用者の尊厳を守りながら安全を確保するための対策について理解する。また、自立支援の視点から事故予防について考える。 到達目標 介護現場で起こりうる事故の要因について理解し、事故防止のための予防対策について説明することができる。			
	6.	細野	演習	内 容 非常災害時の対応 非常災害時における介護現場の対応について学び、災害時に利用者の安全を確保するために必要な行動についてシミュレーションを通して理解する。 到達目標 災害時に利用者の安全を守るために必要な基本的な行動について理解し、適切な対応について実践することができる。			
	7.	細野	演習	内 容 非常災害時の対応 非常災害時における避難行動や安全確保の方法について学び、災害発生時における適切な対応についてシミュレーションを通して理解を深める。 到達目標 災害発生時の避難行動について理解し、利用者の安全を確保するための対応について実践することができる。			
	8.	細野	講義	内 容 高齢者の消費者トラブル 高齢者に多い消費者トラブルの実態について学び、悪徳商法の種類や被害の特徴について理解する。また、トラブルを未然に防ぐための支援や発生時の対応について考える。 到達目標 高齢者に多い消費者トラブルについて理解し、悪徳商法の種類やクーリングオフ制度について説明することができる。			

9.	細野	講義	<p>内 容 事故防止（誤嚥・誤薬） 介護現場における事故の一つである誤嚥や誤薬について学び、事故を防止するための基本的な考え方と予防対策について理解する。</p> <p>到達目標 誤嚥や誤薬のリスクについて理解し、事故防止のための予防対策について説明することができる。</p>
10.	細野	講義	<p>内 容 感染症対策 感染症に関する基礎知識と感染対策の重要性について学び、介護現場で実践される感染予防対策について理解する。</p> <p>到達目標 感染症対策の基本となる三原則と標準予防策について理解し、介護現場での実践方法について説明することができる。</p>
11.	細野	講義	<p>内 容 多職種連携の必要性 多職種協働による介護の必要性について学び、保健・医療・福祉の専門職の役割と機能について理解する。</p> <p>到達目標 感染症対策の基本となる三原則と標準予防策について理解し、介護現場での実践方法について説明することができる。</p>
12.	細野	講義	<p>内 容 多職種連携の必要性 多職種協働による介護を実践するために、それぞれの専門職の視点や役割の違いについて理解し、効果的な連携方法について考える。</p> <p>到達目標 多職種の専門性や視点の違いについて理解し、連携の重要性について説明することができる。</p>
13.	細野	講義	<p>内 容 前半内容のまとめ これまでの授業内容を振り返り、国家試験の過去問題を解きながら理解を深める。また、自身の知識の足りていないところを把握する。</p> <p>到達目標 これまで学習した内容を振り返り、国家試験問題に取り組み自己の知識が不足している箇所を客観視できる。</p>
14.	細野	試験	<p>内 容 前半試験 前半授業の理解度を確認するための試験を実施する。</p> <p>到達目標 前半授業で学んだ内容について理解し、試験問題に適切に解答することができる。</p>
15.	細野	講義	<p>内 容 前半振り返り 試験結果を振り返り、理解が不足している内容について再確認し知識の定着を図る。</p> <p>到達目標 試験結果を振り返り、自身の理解不足の内容を把握し説明することができる。</p>
16.	細野	講義	<p>内 容 保健・医療・福祉職の役割と機能 保健・医療・福祉職の役割と機能について理解を深め、利用者支援における専門職連携の重要性について学ぶ。</p> <p>到達目標 保健・医療・福祉職の役割について理解し、専門職連携の重要性について説明することができる。</p>
17.	細野	講義	<p>内 容 保健・医療・福祉職の役割と機能 他職種の専門性や視点の違いを理解し、効果的なチームアプローチについて考える。</p> <p>到達目標 他職種の専門性や視点の違いについて理解し、チームアプローチの必要性について説明することができる。</p>
18.	細野	講義	<p>内 容 多職種連携の実際 事例を通して多職種連携の実際を学び、チームの中で求められる介護福祉士の役割について理解する。</p> <p>到達目標 多職種連携における介護福祉士の役割について理解し、チームの一員としての役割について説明することができる。</p>

授業計画

19.	細野	講義	<p>内 容 介護従事者の安全（労働法制度） 介護従事者の健康管理の意義について学び、介護職員の安全と健康を守るための基本的な知識を理解する。</p> <p>到達目標 介護従事者の健康管理の重要性について理解し、安全に働くための基本的な考え方について説明することができる。</p>
20.	細野	講義	<p>内 容 介護従事者の安全（労働法制度） 介護従事者の健康や生活を守る法制度について学び、労働に関する基本的な法律について理解する。</p> <p>到達目標 介護従事者を守る法制度について理解し、主な制度の概要について説明することができる。</p> <p>21</p>
21.	細野	講義	<p>内 容 介護従事者の健康管理 介護従事者に生じやすい健康問題について学び、健康を維持するための生活習慣について理解する。</p> <p>到達目標 健康を維持するための生活習慣について理解し、自身の健康管理の方法について説明することができる。</p>
22.	細野	講義	<p>内 容 こころの健康管理 介護従事者のこころの健康管理について学び、ストレスの原因や対処方法について理解する。</p> <p>到達目標 ストレスの原因と対処方法について理解し、こころの健康管理の必要性について説明することができる。</p>
23.	細野	講義	<p>内 容 こころの健康管理 介護現場におけるメンタルヘルス対策について理解し、職場で取り組む健康管理について学ぶ。</p> <p>到達目標 介護現場におけるメンタルヘルス対策について理解し、職場で行われる健康管理の取り組みについて説明することができる。</p>
24.	細野	講義	<p>内 容 からだの健康管理 介護従事者に生じやすい身体的健康問題について理解し、身体の健康を守るための方法について学ぶ。</p> <p>到達目標 介護従事者に生じやすい身体的健康問題について理解し、身体の健康を守るための方法について説明することができる。</p>
25.	細野	講義	<p>内 容 腰痛予防と福祉用具 福祉用具を活用した腰痛予防対策について理解し、安全に介護を行うための方法について学ぶ。</p> <p>到達目標 腰痛予防対策について理解し、安全な介護方法について説明することができる。</p>
26.	細野	講義	<p>内 容 腰痛予防と福祉用具 ノーリフティングケアの考え方について理解し、福祉用具を活用した移乗・移動方法について学ぶ。</p> <p>到達目標 ノーリフティングケアの考え方について理解し、福祉用具を活用した介護方法について説明することができる。</p>
27.	細野	講義	<p>内 容 労働環境の整備 安全に働くための労働環境の整備について学び、介護福祉士の新たな可能性について考える。</p> <p>到達目標 安全に働くための労働環境の整備の重要性について理解し、介護職としての働き方について考えることができる。</p>
28.	細野	講義	<p>内 容 介護の基本総まとめ 2年間で学んだ介護の基本について振り返り、国家試験問題を通して理解を深める。</p> <p>到達目標 介護の基本について振り返り、国家試験問題に取り組むことで自身の理解度を確認することができる。</p>

	29.	細野	講義	<p>内 容 総まとめ 2年間の学習内容の総まとめを実施する。</p> <p>到達目標 介護の基本に関する知識を確認し、試験問題に適切に解答することができる。</p>			
	30.	細野	講義	<p>内 容 2年間の総括、総復習 試験結果を振り返り、理解が不足している内容を確認し卒業に向けた学習課題を明確にする。</p> <p>到達目標 試験結果を振り返り、自身の課題を把握し卒業に向けた不足している学習課題を明できる。</p>			
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	合計	
	50%	50%				100%	
教科書	最新 介護福祉士養成講座④ 「介護の基本Ⅱ」（第3版）編集：介護福祉士養成講座委員会 中央法規出版						
参考文献	「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2026」中央法規出版						
その他 (留意点等)	授業内で要点をお伝えしますので、必ず復習し覚えてください。※外部講師の都合により日程が変更になる場合があります。						

科目名		【コミュニケーション技術Ⅱ】					
担当者		森 伸彦					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	2年	後期	演習	1単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	①コミュニケーション技術Ⅰで学んだ基礎的な技術をベースに、コミュニケーション技術Ⅱでは様々な障害の特性に即したコミュニケーション技術を習得できるようになる。 ②利用者に関わるご家族等のキーパーソン、さらには多職種を含む専門職チームと円滑なコミュニケーションを図るためのポイントと技術を習得し、現場で即戦力として対応できる介護福祉職の育成を目指す。						
到達目標	①様々な障害の特性に即したコミュニケーション技法を習得することができる。 ②利用者を支えるキーパーソンや多職種含めた専門職チームでのコミュニケーションのポイントを理解し、実践することができるようになる。						
実務経験と 授業内容への 活用	介護福祉士として26年以上、介護支援専門員として18年以上にわたり施設・在宅の双方で実務を経験してきた。また、おだい介護サービスにてクオリティマネージャーとして事業全体のサービス品質管理を担当し、現場の実践と組織運営の両面からケアを捉えてきた。これらの経験を授業内容に整理し、学生が現場で実践しやすい形で伝えていく。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	森 伸彦	講義	<p>内 容 コミュニケーション技術Ⅰの振り返り コミュニケーション技術の基本を振り返り、基本技術の重要性を学ぶ。</p> <p>到達目標 コミュニケーションの基本技術や重要性を再認識できる。</p>			
	2.	森 伸彦	講義	<p>内 容 視覚障害がある人への支援 視覚障害がある人とのコミュニケーション方法や支援の基本について学ぶ。具体的なケーススタディを通じて、効果的な支援方法を考える。</p> <p>到達目標 視覚障害の基本的な概念を理解することができる。具体的な事例に対して適切な支援策を考え、実践できるようになる。</p>			
	3.	森 伸彦	講義	<p>内 容 聴覚障害がある人への支援 聴覚障害がある人とのコミュニケーション方法や支援の基本について学ぶ。具体的なケーススタディを通じて、効果的な支援方法を考える。</p> <p>到達目標 聴覚障害の基本的な概念を理解することができる。具体的な事例に対して適切な支援策を考え、実践できるようになる。</p>			
	4.	森 伸彦	講義	<p>内 容 構音障害がある人への支援 構音障害がある人とのコミュニケーション方法や支援の基本について学ぶ。具体的なケーススタディを通じて、効果的な支援方法を考える。</p> <p>到達目標 構音障害の基本的な概念を理解することができる。具体的な事例に対して適切な支援策を考え、実践できるようになる。</p>			
	5.	森 伸彦	講義	<p>内 容 失語症の人への支援 失語症がある人とのコミュニケーション方法や支援の基本について学ぶ。具体的なケーススタディを通じて、効果的な支援方法を考える。</p> <p>到達目標 失語症の基本的な概念を理解することができる。具体的な事例に対して適切な支援策を考え、実践できるようになる。</p>			
	6.	森 伸彦	講義	<p>内 容 認知症の人への支援 認知症がある人とのコミュニケーション方法や支援の基本について学ぶ。具体的なケーススタディを通じて、効果的な支援方法を考える。</p> <p>到達目標 認知症軽度～重度の概念を理解し、その段階に応じた適切な支援策を考え、実践できるようになる。</p>			
	7.	森 伸彦	講義	<p>内 容 うつ病・抑うつ状態、統合失調症の人への支援 うつ病、抑うつ状態、統合失調症の人とのコミュニケーション方法や支援の基本について学ぶ。具体的なケーススタディを通じて、効果的な支援方法を考える。</p> <p>到達目標 うつ病や抑うつ状態、統合失調症の基本的な概念を理解することができる。具体的な事例に対して適切な支援策を考え、実践できるようになる。</p>			
	8.	森 伸彦	講義	<p>内 容 高次脳機能障害のある人への支援 高次脳機能障害がある人とのコミュニケーション方法や支援の基本について学ぶ。具体的なケーススタディを通じて、効果的な支援方法を考える。</p> <p>到達目標 高次脳機能障害の基本的な概念を理解することができる。具体的な事例に対して適切な支援策を考え、実践できるようになる。</p>			

9.	森 伸彦	講義	<p>内 容 知的障害・発達障害・重症心身障害がある人への支援 知的障害、発達障害、重症心身障害のある人の特性とコミュニケーション方法、支援の基本について学ぶ。具体的なケーススタディを通じて、効果的な支援方法を考える。</p> <p>到達目標 知的障害、発達障害、重症心身障害の基本的な概念を理解し、具体的な事例に対して適切な支援策を考え、実践できるようになる。</p>				
10.	森 伸彦	講義	<p>内 容 家族とのコミュニケーション 家族とのコミュニケーションの重要性と基本的な方法について学ぶ。具体的なケーススタディを通じて、様々な状況での効果的なコミュニケーションの方法を考える。</p> <p>到達目標 家族とのコミュニケーションの重要性を理解することができる。具体的な事例に対して適切なコミュニケーション方法を考え、実践できるようになる。</p>				
11.	森 伸彦	講義	<p>内 容 報告・連絡・相談のコミュニケーション技術 報告・連絡・相談の基本と役割を理解し、状況を正確かつ簡潔に伝えるためのポイントを学ぶ。事例を通して連携に必要な情報整理と伝達方法を考える。</p> <p>到達目標 報告・連絡・相談の意義を理解し、利用者の状況を適切に整理して必要な情報を簡潔に伝えられるようになる。</p>				
12.	森 伸彦	講義	<p>内 容 記録の意義と技術 記録の意義と目的を理解し、利用者の状態や支援内容を正確に残すための基本的な書き方を学ぶ。必要な情報整理の方法や、現場で求められる記録のポイントを考える。</p> <p>到達目標 記録の意義と目的を理解し、利用者の状況を適切に整理して、必要な情報を正確かつ簡潔に記述できるようになる。事例に応じて、現場で求められる記録の方法を実践できるようになる。</p>				
13.	森 伸彦	講義	<p>内 容 会議の意義と目的 会議の目的や意義、種類と基本的なルールを理解し、効果的に参加するためのポイントを学ぶ。グループワークを通して、意見整理や合意形成の方法を体験的に身につける。</p> <p>到達目標 会議の目的と基本ルールを理解し、状況に応じて適切に意見を伝え、協働的に議論へ参加できるようになる。グループワークを通して、情報整理や合意形成の方法を実践できるようになる。</p>				
14.	森 伸彦	学習内容の総括	<p>内 容 コミュニケーション技術Ⅱに関する総まとめ コミュニケーション技術Ⅱに関する総まとめと確認を行う。</p> <p>到達目標 コミュニケーション技術Ⅱに関する基本的な理論や概念を理解することができている。</p>				
15.	森 伸彦	講義	<p>内 容 振り返り 事例検討・ICTについて 事例検討の目的と基本的な進め方を理解し、利用者の状況を整理して課題を明確にする方法を学ぶ。多職種で支援方針を検討するプロセスを体験する。</p> <p>到達目標 事例検討の意義と流れを理解し適切な支援方法を考えられるようになる。多職種で協働して支援方針を導く視点を身につける。</p>				
成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	60%		25%			15%	100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑤ 「コミュニケーション技術」 編集:介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献							
その他 (留意点等)	講義の進度により講義内容が変更になる場合がある。						

科目名		【生活支援技術Ⅲ】					
担当者		宮里 裕子 近藤 真奈美 長谷部 裕美 徳山 慈久					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	2年	前期	演習	3単位	45回	
授業の目的 (ねらい)	本授業では、1年次に習得した介護技術をベースにし、授業を展開する。基礎技術の習得にとどまらず、介護実践現場での実践力を身に付ける。実践力とは応用技術であり、基礎技術を徹底して身に付けることで、応用技術へと転換できる力を養う。利用者一人ひとりの生活状況と心身の状況を適切に把握し、多様なニーズに合わせた生活支援を多職種と協働して実践する力を身に付ける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりの状態を適切にアセスメントし、根拠に基づく介護実践を行うことができる。 ・多様なニーズと様々な生活状況に応じた生活支援の方法を計画することができる。 ・利用者の状態に応じた着脱、食事、排泄、入浴等の介助を実践できる。 ・介護ロボットや福祉用具を活用する目的を理解し、適切に選択できる。 ・ICFの視点を生活支援に活かした、利用者主体の多職種協働を実践できる。 						
実務経験と授業内容への活用	担当教員は、介護福祉士、看護師、介護支援専門員等として、長年、介護現場に従事してきた教員が実技演習を担当する。さまざまな経験や実際の介護実践事例を示しながら、学生が学ぶ知識や技術を介護実践においてどのように活かしていくのか、その方法と実践力を身に付ける授業を展開する。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	齊藤 中島 宮里 徳山	講義	<p>内 容 オリエンテーション 自己紹介/シラバス・授業ルール説明/1年次の習得技術内容の確認/服装確認/学習に向かう心構え</p> <p>到達目標 1年次に学んだ技術の習熟度について、習得できている技術、不十分な技術を把握する。2年次に習得すべき学習内容と授業ルールを理解し、本授業を学ぶ意義・目的を説明できる。</p>			
	2.	齊藤 中島 宮里 徳山	講義	<p>内 容 介護におけるレクリエーションの目的と方法 介護実践の場におけるレクリエーションの意義・目的、実践方法・留意点、計画作成の方法について学ぶ。</p> <p>到達目標 介護実践現場におけるレクリエーションの目的、留意点、計画作成のポイントについて説明できる。</p>			
	3.	齊藤 中島 宮里 徳山	演習	<p>内 容 レクリエーション計画作成 高齢者介護実践の場における事例に即し、その事例の目的に合ったレクリエーション計画をグループで作成する。</p> <p>到達目標 グループの仲間と協同し、目的に合ったレクリエーションを計画を立案することができる。</p>			
	4.	齊藤 中島 宮里 徳山	講義	<p>内 容 臥位での着脱介助 ベッド上における上下着脱介助の基本原則、留意点、介助方法に関する知識を学ぶ。プライバシーへの配慮やコミュニケーションの取り方についてもディスカッションする。</p> <p>到達目標 ベッド上における着脱介助の基本原則と留意点、介助方法を説明できる。</p>			
	5.	齊藤 中島 宮里 徳山	演習	<p>内 容 臥位での着脱介助 半身麻痺利用者のベッド上での上衣の着脱介助の技術を学ぶ。</p> <p>到達目標 半身麻痺利用者のベッド上における上衣の着脱介助を自立支援の原則に基づき、実践できる。</p>			
	6.	齊藤 中島 宮里 徳山	演習	<p>内 容 臥位での着脱介助 半身麻痺利用者のベッド上での下衣の着脱介助の技術を学ぶ。</p> <p>到達目標 半身麻痺利用者のベッド上における下衣の着脱介助を、自立支援の原則に基づき実践できる。</p>			
	7.	齊藤 中島 宮里 徳山	演習	<p>内 容 臥位での着脱介助 1年次に学んだ体位変換や尊厳の保持、自立支援の原則に基づき、半身麻痺利用者のベッド上での上下着脱介助の一連の技術を学ぶ。</p> <p>到達目標 半身麻痺利用者のベッド上における上下の着脱介助を、自立支援の原則に基づき実践できる。</p>			
	8.	齊藤 中島 宮里 徳山	演習	<p>内 容 臥位での着脱介助 1年次に学んだ体位変換や尊厳の保持、自立支援の原則に基づき、半身麻痺利用者のベッド上での上下着脱介助の一連の技術を学ぶ。</p> <p>到達目標 半身麻痺利用者のベッド上における上下の着脱介助を、自立支援の原則に基づき実践できる。</p>			

9.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 臥位での着脱介助 1年次に学んだ体位変換や尊厳の保持、自立支援の原則に基づき、半身麻痺利用者のベッド上での上下着脱介助の一連の介護技術を学ぶ。</p> <p>到達目標 半身麻痺利用者のベッド上における上下の着脱介助を、自立支援の原則に基づき実践できる。</p>
10.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 実技試験（臥位での着脱介助） 事例の利用者に対する、ベッド上での上下着脱介助の一連の介護技術の実技試験を行う。別紙にて配布する評価表に基づき、採点する。</p> <p>到達目標 安全確保、プライバシー保護、自立支援、尊厳の保持の原則に基づき、ボディメカニクスを活用した着脱介助の実践ができる。</p>
11.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 実技試験（臥位での着脱介助） 事例の利用者に対する、ベッド上での上下着脱介助の一連の介護技術の実技試験を行う。別紙にて配布する評価表に基づき、採点する。</p> <p>到達目標 安全確保、プライバシー保護、自立支援、尊厳の保持の原則に基づき、ボディメカニクスを活用した着脱介助の実践ができる。</p>
12.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 実技試験（臥位での着脱介助） 事例の利用者に対する、ベッド上での上下着脱介助の一連の介護技術の実技試験を行う。別紙にて配布する評価表に基づき、採点する。</p> <p>到達目標 安全確保、プライバシー保護、自立支援、尊厳の保持の原則に基づき、ボディメカニクスを活用した着脱介助の実践ができる。</p>
13.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 レクリエーション発表（グループ発表） グループで作成したレクリエーション計画の発表（プレゼンテーションとして成績評価に加点する）。</p> <p>到達目標 介護実践の場におけるレクリエーションの目的を理解し、その達成に向けたレクリエーションをグループメンバーと協同して行うことができる。</p>
14.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 レクリエーション発表（グループ発表） グループで作成したレクリエーション計画の発表（プレゼンテーションとして成績評価に加点する）。</p> <p>到達目標 介護実践の場におけるレクリエーションの目的を理解し、その達成に向けたレクリエーションをグループメンバーと協同して行うことができる。</p>
15.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 レクリエーション発表（グループ発表） グループで作成したレクリエーション計画の発表（プレゼンテーションとして成績評価に加点する）。</p> <p>到達目標 介護実践の場におけるレクリエーションの目的を理解し、その達成に向けたレクリエーションをグループメンバーと協同して行うことができる。</p>
16.	齊藤中島宮里徳山	講義	<p>内 容 臥位での排泄介助 ベッド上における排泄介助の基本原則、留意点、介助方法について学ぶ。また、尊厳の保持やプライバシーへの配慮、利用者心理についての理解も深める。</p> <p>到達目標 ベッド上における排泄介助の基本原則、留意点、介助方法を説明できる。</p>
17.	齊藤中島宮里徳山	講義・演習	<p>内 容 臥位での排泄介助（排泄に関する福祉用具） 排泄に関する福祉用具、差し込み便器、尿器等含むベッド上の排泄に関する福祉用具の種類と使用方法について学ぶ。</p> <p>到達目標 福祉用具を活用する目的を理解し、利用者の状態に応じて適切な福祉用具を選択することができる。</p>
18.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 臥位での排泄介助（差し込み便器、尿器での介助） ベッド上での差し込み便器、尿器を使用した排泄介助の方法を学ぶ。臥位で排泄する際のベッドの角度や腹圧等の理論を含めて学習する。</p> <p>到達目標 尊厳の保持やプライバシーの保護の原則に基づき、ベッド上での差し込み便器、尿器を使用した排泄介助を実践できる。</p>

授業計画

19.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 臥位での排泄介助（おむつ交換） おむつ交換の基本原則、留意点、介助方法、おむつの種類、おむつを着用する利用者の心理、異性介助の留意点等について学ぶ。</p> <p>到達目標 おむつ交換の基本原則、留意点を説明できる。利用者の状態や目的に応じたおむつを選択できる。</p>
20.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 臥位での排泄介助（おむつ交換） 男性利用者に対する陰部洗浄、おむつ交換の方法を学ぶ。また、好ましくない言葉を含め、実際の介助における声かけの内容についても学習する。</p> <p>到達目標 利用者心理を理解した上で、男性利用者への陰部洗浄、おむつ交換を基本原則に基づいて実践できる。</p>
21.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 臥位での排泄介助（おむつ交換） 女性利用者に対する陰部洗浄、おむつ交換の方法を学ぶ。また、好ましくない言葉を含め、実際の介助における声かけの内容についても学習する。</p> <p>到達目標 利用者心理を理解した上で、女性利用者への陰部洗浄、おむつ交換を基本原則に基づいて実践できる。</p>
22.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 おむつ交換 虚弱利用者へのベッド上におけるおむつ交換の方法を学ぶ。体位変換、着脱、陰部洗浄、おむつ交換の一連の介護技術を学ぶ。</p> <p>到達目標 虚弱利用者へのベッド上でのおむつ交換について、体位変換、着脱、陰部洗浄、おむつ交換という一連の介護が実践できる。</p>
23.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 おむつ交換 虚弱利用者へのベッド上におけるおむつ交換の方法を学ぶ。体位変換、着脱、陰部洗浄、おむつ交換の一連の介護技術を学ぶ。</p> <p>到達目標 虚弱利用者へのベッド上でのおむつ交換について、体位変換、着脱、陰部洗浄、おむつ交換という一連の介護が実践できる。</p>
24.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 おむつ交換 虚弱利用者へのベッド上におけるおむつ交換の方法を学ぶ。体位変換、着脱、陰部洗浄、おむつ交換の一連の介護技術を学ぶ。</p> <p>到達目標 虚弱利用者へのベッド上でのおむつ交換について、体位変換、着脱、陰部洗浄、おむつ交換という一連の介護が実践できる。</p>
25.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 実技試験（おむつ交換） 事例の利用者に対する、ベッド上でのおむつ交換の一連の介護技術の実技試験を行う。別紙にて配布する評価表に基づき、採点する。</p> <p>到達目標 安全確保、プライバシー保護、自立支援、尊厳の保持の原則に基づき、ボディメカニクスを活用した排泄介助の実践ができる。</p>
26.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 実技試験（おむつ交換） 事例の利用者に対する、ベッド上でのおむつ交換の一連の介護技術の実技試験を行う。別紙にて配布する評価表に基づき、採点する。</p> <p>到達目標 安全確保、プライバシー保護、自立支援、尊厳の保持の原則に基づき、ボディメカニクスを活用した排泄介助の実践ができる。</p>
27.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 実技試験（おむつ交換） 事例の利用者に対する、ベッド上でのおむつ交換の一連の介護技術の実技試験を行う。別紙にて配布する評価表に基づき、採点する。</p> <p>到達目標 安全確保、プライバシー保護、自立支援、尊厳の保持の原則に基づき、ボディメカニクスを活用した排泄介助の実践ができる。</p>
28.	齊藤中島宮里徳山	講義	<p>内 容 臥位での食事介助 ベッド上での食事介助の基本原則、留意点、介助方法について学ぶ。食事に関する福祉用具の知識も含めて学習する。</p> <p>到達目標 ベッド上における食事介助の基本原則、留意点、介助方法を説明できる。利用者の状態・目的に応じて、福祉用具を選択することができる。</p>

	29.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 臥位での食事介助 ベッド上での食事介助（主食、副菜、水分、おやつ）の方法を学ぶ。介護者の位置や目線、配膳、献立説明、声かけの方法についても学習する。</p> <p>到達目標 ベッド上で安全且つ美味しいと感じて頂ける食事介助を実践できる。</p>
	30.	齊藤中島宮里徳山	講義・演習	<p>内 容 臥位での口腔ケア ベッド上での口腔ケアの基本原則、留意点、介助方法（ブラッシング、スポンジブラシ、口腔ケア用品等）について学ぶ。義歯の取り扱い、保管方法、洗浄方法についても学習する。</p> <p>到達目標 ベッド上での口腔ケアの基本原則、留意点、介助方法を説明でき、且つ、安全な口腔ケアを実践できる。義歯の保管、洗浄を適切に行うことができる。</p>
	31.	齊藤中島宮里徳山	講義・演習	<p>内 容 入浴/洗髪介助 Aチーム：入浴介助の基本原則、留意点、入浴方法の種類について学ぶ。 Bチーム：ベッド上での洗髪介助の基本原則、留意点、ケリーパットの作り方について学ぶ。</p> <p>到達目標 Aチーム：入浴介助の基本原則、留意点、入浴方法の種類について説明できる。 Bチーム： ベッド上での洗髪介助の基本原則、留意点を説明でき、且つケリーパットを作ることができる。</p>
	32.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 入浴/洗髪介助 Aチーム：シャワー浴、個浴、機械浴、それぞれの介助方法を学ぶ。 Bチーム：入浴できない利用者に対するベッド上での洗髪介助の方法を学ぶ。</p> <p>到達目標 Aチーム：シャワー浴、個浴、機械浴、それぞれの介助が安全に実践できる。 B チーム：ベッド上で安全・安楽な洗髪介助を実践できる。</p>
	33.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 足浴/清拭介助 Aチーム：入浴できない利用者に対する足浴介助の方法を学ぶ。 Bチーム：入浴できない利用者に対するベッド上での清拭介助の方法を学ぶ。</p> <p>到達目標 Aチーム：端坐位での足浴介助を実践できる。 Bチーム：ベッド上での清拭介助を実践できる。</p>
	34.	齊藤中島宮里徳山	講義	<p>内 容 入浴/洗髪介助 Aチーム：ベッド上での洗髪介助の基本原則、留意点、ケリーパットの作り方について学ぶ。 Bチーム：入浴介助の基本原則、留意点、入浴方法の種類について学ぶ。</p> <p>到達目標 Aチーム：ベッド上での洗髪介助の基本原則、留意点を説明でき、且つケリーパットを作ることが できる。 Bチーム：入浴介助の基本原則、留意点、入浴方法の種類につ いて説明できる。</p>
	35.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 入浴/洗髪介助 Aチーム：ベッド上での洗髪介助の方法を学ぶ。 Bチーム：シャワー浴、個浴、機械浴、それぞれの介助方法を学ぶ。</p> <p>到達目標 Aチーム： ベッド上で安全・安楽な洗髪介助を実践できる。 B チーム：シャワー浴、個浴、機械浴、それぞれの介助が安全に実践できる。</p>
	36.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 足浴/清拭介助 Aチーム：入浴できない利用者に対する足浴介助の目的と方法を学ぶ。 Bチーム：入浴できない利用者に対するベッド上での清拭介助の目的と方法を学ぶ。</p> <p>到達目標 Aチーム：端坐位または椅座位での足浴介助を実践できる。 Bチーム：ベッド上での清拭介助を実践できる。</p>
	37.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 総合実技試験 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで習得した介護技術の習熟度確認を目的とし、総合実技試験を行う。別紙に て配布する評価表に基づき、採点する。</p> <p>到達目標 生活支援技術ⅠⅡⅢで習得した基本原則と介護技術に基づき、個々の利用者の状態に応じた安全な 介助実践ができる。</p>
授業計画	38.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 総合実技試験 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで習得した介護技術の習熟度確認を目的とし、総合実技試験を行う。別紙に て配布する評価表に基づき、採点する。</p> <p>到達目標 生活支援技術ⅠⅡⅢで習得した基本原則と介護技術に基づき、個々の利用者の状態に応じた安全な 介助実践ができる。</p>

39.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 総合実技試験 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで習得した介護技術の習熟度確認を目的とし、総合実技試験を行う。別紙にて配布する評価表に基づき、採点する。</p> <p>到達目標 生活支援技術ⅠⅡⅢで習得した基本原則と介護技術に基づき、個々の利用者の状態に応じた安全な介助実践ができる。</p>
40.	齊藤中島宮里徳山	講義	<p>内 容 知識のふりかえり 本科目における介護知識のふりかえりを行う。</p> <p>到達目標 生活支援技術Ⅲにおいて学んだ知識の習熟度を振り返り、できていること、できていないことを把握し、未習熟の知識をしっかりと身に付けることができる。</p>
41.	齊藤中島宮里徳山	講義	<p>内 容 知識のふりかえり 本科目における介護知識の習熟度を確認する。ピアラーニングを通し、主体的に学び合い、介護実践の場における多職種協働の実践力も養う。</p> <p>到達目標 生活支援技術Ⅲにおいて学んだ知識の習熟度を振り返り、できていること、できていないことを把握し、未習熟の知識をしっかりと身に付けることができる。</p>
42.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 総合実技試験のふりかえり 総合実技試験の模範介護技術に基づく反復演習を行い、介護の基礎技術を習得する。</p> <p>到達目標 生活支援技術ⅠⅡⅢで習得した基本原則と介護技術の定着化を図り、介護実践の場における実践力を身に付けることができる。</p>
43.	齊藤中島宮里徳山	講義	<p>内 容 終末期の介護／グリーフケア 終末期における利用者心理、終末期の介護、グリーフケアについて学ぶ。学生の母国の死にゆく人の送り方や、日本における死にゆく人への寄り添い方、声かけについても学習する。</p> <p>到達目標 終末期の利用者の心理や身体変化を理解し、一人ひとりに寄り添った終末期ケアを実践できる。グリーフケアの意味を理解し、家族への適切な声かけ、支援ができる。</p>
44.	齊藤中島宮里徳山	講義・演習	<p>内 容 災害時における介護 災害時における介護福祉士の役割、被災地における利用者の心理と支援方法、被災地での介護の実践について学ぶ。</p> <p>到達目標 災害時における介護福祉士の役割を説明できる。被災された利用者の心理に寄り添い、被災地の状況に応じた適切且つ安全な介護を実践できる。</p>
45.	齊藤中島宮里徳山	演習	<p>内 容 介護技術の応用 介護実践の場において、基礎技術をどのように応用技術へと転換するのか、その実際と方法について現場指導者から学ぶ。</p> <p>到達目標 生活支援技術ⅠⅡⅢで習得した基礎的技術を介護実践の場における応用技術へと転換することができる。</p>

成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	合計
	50%			40%	10%	100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑥⑦⑧ 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(第3版・第2版) 編集:介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版					
参考文献	「見て覚える国試ナビ2027」中央法規					
その他(留意点等)	演習の進度により、演習日程や順番が変更になる場合がある。 欠席回数が全体の1/5以上となった場合および実技試験が不合格の場合は、原則、実習を履修できない。					

科目名	【生活支援技術Ⅳ（形態別介護技術）】						
担当者	宮里 裕子						
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	2年	通年	演習	2単位	15/30回	
授業の目的 (ねらい)	障がいや疾病のある方々の医学的・心理的側面を理解し、生活の困りごとを考える。 障がいや疾病のある方々への生活支援において、介護福祉士が果たすべき役割を理解し、生活支援技術の提供を考えて行く。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 障がいや疾病の概要を学び、障がいや疾病が生活に影響する困りごとを知る。 生活の困りごとに対する、生活支援技術の具体的な支援内容を考える力をつける。 						
実務経験と 授業内容への 活用	重度障がい者の方々の入所施設での支援、在宅生活での支援を長年実施している経験から、身体・知的障がいの方々の非言語的コミュニケーション方、医療的ケアを踏まえた内容で授業を実践していく。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	宮里	講義	内 容 授業の進め方 ・オリエンテーション ・生活支援技術Ⅳの説明 ・障がいを考える 到達目標 生活支援技術Ⅳの必要性を理解する			
	2.	宮里	講義	内 容 障がいに応じた介護 肢体不自由の理解 ・疾病の理解 ・障がいによる特性・特徴を知る 到達目標 疾病による基本的な障がいを知る			
	3.	宮里	講義	内 容 障がいに応じた介護 肢体不自由の理解 ・生活の困りごとを考える ・提供できる支援方法を考える 到達目標 障がいがあることでの、生活の困りごとを理解し、適切な支援を考えることができる			
	4.	宮里	講義	内 容 障がいに応じた介護 視覚障がいの理解 ・疾病の理解 ・障がいによる特性・特徴を知る 到達目標 疾病による基本的な障がいを知る			
	5.	宮里	講義	内 容 障がいに応じた介護 視覚障がい理解 ・生活の困りごとを考える ・提供できる支援方法を考える 到達目標 障がいがあることでの、生活の困りごとを理解し、適切な支援を考えることができる			
	6.	宮里	講義	内 容 障がいに応じた介護 聴覚障がいの理解 ・疾病の理解 ・障がいによる特性・特徴を知る 到達目標 疾病による基本的な障がいを知る			
	7.	宮里	講義	内 容 障がいに応じた介護 聴覚障がいの理解 ・生活の困りごとを考える ・提供できる支援方法を考える 到達目標 障がいがあることでの、生活の困りごとを理解し、適切な支援を考えることができる			
	8.	宮里	講義	内 容 障がいに応じた介護 難病の理解 ・疾病の理解 ・障がいによる特性・特徴を知る 到達目標 疾病による基本的な障がいを知る			

9.	宮里	講義	<p>内 容 障がいに応じた介護 難病の理解 ・生活の困りごとをを考える ・提供できる支援方法を考える</p> <p>到達目標 障がいがあることでの、生活の困りごとを理解し、適切な支援を考えることができる</p>				
10.	宮里	講義	<p>内 容 障がいに応じた介護 知的障がいの理解 ・疾病の理解 ・障がいによる特性・特徴を知る</p> <p>到達目標 疾病による基本的な障がいを知る</p>				
11.	宮里	講義	<p>内 容 障がいに応じた介護 知的障がい理解 ・生活の困りごとをを考える ・提供できる支援方法を考える</p> <p>到達目標 障がいがあることで、生活の困りごとを理解し、適切な支援を考えることができる</p>				
12.	宮里	講義	<p>内 容 障がいに応じた介護 発達障がいの理解 ・疾病の理解 ・障がいによる特性・特徴を知る</p> <p>到達目標 疾病による基本的な障がいを知る</p>				
13.	宮里	講義	<p>内 容 障がいに応じた介護 発達障がい理解 ・生活の困りごとをを考える ・提供できる支援方法を考える</p> <p>到達目標 障がいがあることでの、生活の困りごとを理解し、適切な支援を考えることができる</p>				
14.	宮里	講義	<p>内 容 障がいに応じた介護 特殊なコミュニケーションの理解 非言語的コミュニケーション方法を学ぶ</p> <p>到達目標 それぞれの特徴に合わせたコミュニケーション方法を実践する</p>				
15.	宮里	試験	<p>内 容 確認テスト 授業の理解の確認</p> <p>到達目標 全員60点以上を目指す</p>				
成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	10%	10%		40%	30%	10%	100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑦⑧「生活支援技術Ⅲ・Ⅳ」(第3版・第2版) 編集:介護福祉養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献							
その他 (留意点等)							

科目名		【生活支援技術Ⅳ（調理）】					
担当者		藤原 記代子					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	2年	通年	演習	2単位	15/30回	
授業の目的 (ねらい)	(藤原)生活を支える視点で、食支援が出来る専門職を目指す。高齢者・障害者にとっての「食」のあり方を、科目「発達と老化の理解」「こころとからだのしくみ」「障害の理解」等と関連付け、様々な対象者に応じた食支援についての基礎知識・技術を身につける。自らバランスを考慮した献立を考え、調理できる能力を習得できる。						
到達目標	(藤原)①食生活を通して、高齢者・障害者の特性を理解する事が出来る ②様々な疾患や障害に配慮した栄養・調理の知識を身につけ、実践する事が出来る ③グループで実習する事で、チームの一員として取り組む姿勢を養う事が出来る						
実務経験と 授業内容への 活用	(藤原)管理栄養士として、病院や社会福祉施設、栄養士養成施設で従事した経験を活かし、「健康に生きること」を「食」を通して一緒に考え実践に繋げていく。職業人として、対象者のみならず、受講者自身のQOL向上が図れるような視点をも養って頂きたい。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1	藤原	講義	<p>内 容 当教科の目的、食生活について、栄養素について 実習に先立ち、栄養・食品・調理学についての基礎知識を、図表も用いながら解説する。</p> <p>到達目標 次回からの実習が不安なくスムーズに導入できるよう、基礎知識や技術習得に向けた準備をする事が出来る。</p>			
	2	藤原	講義	<p>内 容 食品について、食の安全性、調理と設備、次回からの実習について 実習に先立ち、栄養・食品・調理学についての基礎知識を、図表も用いながら解説する。</p> <p>到達目標 次回からの実習が不安なくスムーズに導入できるよう、基礎知識や技術習得に向けた準備をする事が出来る。</p>			
	3	藤原	講義・実技	<p>内 容 実習1(調理の基礎・日本食)についての説明 対象者の健康維持を目的に、日本食の基礎調理を学ぶ。配布プリントに沿って進める。具体的には、調理器具説明・食品の取り扱い・作り方説明などである。</p> <p>到達目標 今回のテーマの主旨を理解し、安全を意識しながら実習に臨む準備が出来る。</p>			
	4	藤原	講義・実技	<p>内 容 実習1(調理の基礎・日本食) 実習のための準備から、材料の洗浄・材料の切碎・調味料の計量・調理加熱・盛付けを行う。グループで試食し、実習内容をワークシートにまとめる。</p> <p>到達目標 実習の一連の流れを理解し、安全にグループで協力し実習する事が出来る。まとめワークシートについては、食事バランスを理解しグループで相談・記入する事が出来る。</p>			
	5.	藤原	講義・実技	<p>内 容 実習2(調理の基礎・洋食)についての説明 日本食以外の食文化を理解する事を目的に、洋食の基礎調理を学ぶ。配布プリントに沿って進める。具体的には、日本食との違い・食品の取り扱い・作り方説明などである。</p> <p>到達目標 今回のテーマを理解し、特に前回実習(日本食)との違いを見つけて実習に臨む事が出来る。</p>			
	6.	藤原	講義・実技	<p>内 容 実習2(調理の基礎・洋食) 実習のための準備から、材料の洗浄・材料の切碎・調味料の計量・調理加熱・盛付けを行う。グループで試食し、実習内容をワークシートにまとめる</p> <p>到達目標 実習の内容を理解し、グループで協力し実習する事が出来る。まとめワークシートについては、食事バランスを理解して前回実習(日本食)との違いも考察する事が出来る。</p>			
	7.	藤原	講義・実技	<p>内 容 実習3(摂食嚥下機能低下)についての説明</p> <p>摂食嚥下機能低下について講義で復習し、具体的な咀嚼・嚥下に配慮する方法について学ぶ。配布プリントに沿って進める。</p> <p>到達目標 今回のテーマについて、対象者に配慮した食事(嚥下調整食)作りや介助の方法を、理論として習得出来る。</p>			
	8.	藤原	講義・実技	<p>内 容 実習3(摂食嚥下機能低下)</p> <p>準備・材料の洗浄・材料の切碎・調味料の計量・調理加熱・盛付けを行う。実際に、普通食と嚥下調整食を作り、食べ比べてみる。その内容をワークシートにまとめる。</p> <p>到達目標 今回のテーマを理解し、実習する事が出来る。試食を通して、摂食嚥下機能低下について習得し、また対象者に寄り添った支援に繋げる事が出来る。</p>			

9.	藤原	講義・実技	<p>内 容 実習4(生活習慣病予防の食事その1)についての説明</p> <p>特定栄養素の過剰が原因で発症する生活習慣病について、実習4ではエネルギーコントロール・塩分コントロール食を取り上げる。配布プリントに沿って進める。</p> <p>到達目標 生活習慣病予防について理解し、バランスよく食事摂取する事の重要性が習得できる。</p>				
10.	藤原	講義・実技	<p>内 容 実習4(生活習慣病予防の食事その1)</p> <p>実習のための準備から、材料の洗浄・材料の切碎・調味料の計量・調理加熱・盛付けを行う。グループで試食し、実習内容をワークシートにまとめる。</p> <p>到達目標 エネルギーコントロールや塩分コントロールが必要な生活習慣病について、その予防策を理解できる。まとめワークシートを通し、疾病予防の食品選定について理解できる。</p>				
11.	藤原	講義・実技	<p>内 容 実習5(生活習慣病予防の食事その2)についての説明</p> <p>特定栄養素の不足が原因で発症する生活習慣病について、実習5ではカルシウムアップ・鉄分アップ食を取り上げる。配布プリントに沿って進める。</p> <p>到達目標 生活習慣病予防について理解し、不足なくしっかり食事摂取する事の重要性を習得できる。</p>				
12.	藤原	講義・実技	<p>内 容 実習5(生活習慣病予防の食事その2)</p> <p>実習のための準備から、材料の洗浄・材料の切碎・調味料の計量・調理加熱・盛付けを行う。グループで試食し、実習内容をワークシートにまとめる。</p> <p>到達目標 カルシウムや鉄分の不足が引き起こす生活習慣病について、その予防策を理解できる。まとめワークシートを通し、疾病予防の食品選定について理解できる。</p>				
13.	藤原	講義・実技	<p>内 容 実習6(応用実習)</p> <p>実習4～5の授業内で準備を進め、各グループで検討したテーマ・そのテーマに沿って立案した献立と食品選定について、実際に各グループで実習する。</p> <p>到達目標 グループで事前に検討した内容を共通認識し、グループでその目標に向かって協力できる。</p>				
14.	藤原	講義・実技	<p>内 容 実習6(応用実習)</p> <p>各グループで実習した内容について、テーマ・献立・留意した事などを、発表する。試食する。</p> <p>到達目標 当授業で得られた知識や技術を総動員し、まとめた内容を他者へ発表出来る。他のグループの発表を聴く事で、知識を共有できる。</p>				
15	藤原	振り返り	<p>内 容</p> <p>到達目標</p>				
成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	合計	
	60%		30%		10%	100%	
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑥⑦⑧ 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(第2版・第3版) 編集:介護福祉士養成編集委員会 中央法規出版						
参考文献	参考文献 (藤原)「食と健康の科学」(建帛社)・「生活支援のための調理実習」(建帛社)						
その他 (留意点等)	(藤原)・加熱器具や包丁を使用し危険が伴う為、緊張感をもって実習に臨むこと ・動きやすく衛生を考慮した服装を準備する						

科目名		【介護過程Ⅲ】					
担当者		佐藤 修					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	2年	前期	演習	2単位	30回	
授業の目的 (ねらい)	介護過程の展開方法を理解し、利用者の生活状況を整理しながら課題を明確にし、根拠に基づいた支援を考える基礎的な思考力を養う。事例を用いた演習を通して、アセスメントから計画、実施、評価までの一連の流れを理解し、実習での介護実践につなげることを目的とする。						
到達目標	1 利用者の生活状況を整理し、生活行為に着目して課題を説明することができる。 2 アセスメントに基づき、介護の関わりや支援方法を考えることができる。 3 介護過程（アセスメント・計画・実施・評価）の基本的な流れを説明することができる。						
実務経験と 授業内容への 活用	介護現場での実務経験および介護職員研修の講師経験を踏まえ、実際の生活場面を想定した事例を用いて授業を行う。現場での実践例を交えながら、利用者の生活状況を整理し課題を考える視点を示し、介護過程の思考プロセスを理解できるよう指導する。また、事例演習やワークシートを活用し、実習での経験と結びつけながら、生活場面から課題を整理し支援を考える力を養う。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	佐藤修	講義グループワーク	内 容 実習で作成した介護過程の振り返り 実習で作成した介護過程シートを確認し、利用者の生活状況や支援内容について振り返る。学生同士で事例を共有しながら、介護過程の展開の流れを整理し、現在の理解状況や課題を把握する。 到達目標 実習で作成した介護過程の内容を説明し、自身の課題を整理できる。			
	2.	佐藤修	講義グループワーク	内 容 実習で作成した介護過程の振り返り 実習で作成した介護過程シートを確認し、利用者の生活状況や支援内容について振り返る。学生同士で事例を共有しながら、介護過程の展開の流れを整理し、現在の理解状況や課題を把握する。 到達目標 実習で作成した介護過程の内容を説明し、自身の課題を整理できる。			
	3.	佐藤修	講義グループワーク	内 容 事例理解（利用者の生活の把握） 授業で扱う事例について、利用者の生活歴や現在の生活状況を整理し、生活行為の視点から利用者理解を深める。利用者の生活の全体像を把握することで、介護過程を展開する基礎を形成する。 到達目標 利用者の生活状況を理解し、生活行為の視点から説明できる。			
	4.	佐藤修	講義グループワーク	内 容 事例理解（利用者の生活の把握） 授業で扱う事例について、利用者の生活歴や現在の生活状況を整理し、生活行為の視点から利用者理解を深める。利用者の生活の全体像を把握することで、介護過程を展開する基礎を形成する。 到達目標 利用者の生活状況を理解し、生活行為の視点から説明できる。			
	5.	佐藤修	講義グループワーク	内 容 情報整理（ICFの視点） ICFの基本概念を理解し、事例の情報を心身機能・活動・参加・環境因子の視点から整理する。利用者の生活を多面的に捉えることで、介護過程に必要な情報整理の方法を学ぶ。 到達目標 ICFの視点を用いて利用者の情報を整理できる。			
	6.	佐藤修	講義グループワーク	内 容 情報整理（ICFの視点） ICFの基本概念を理解し、事例の情報を心身機能・活動・参加・環境因子の視点から整理する。利用者の生活を多面的に捉えることで、介護過程に必要な情報整理の方法を学ぶ。 到達目標 ICFの視点を用いて利用者の情報を整理できる。			
	7.	佐藤修	講義グループワーク	内 容 生活行為への焦点化 整理した情報をもとに生活行為に焦点を当て、支援の対象となる生活行為を検討する。生活の中でどの行為に支援が必要かを考えることで、介護過程の焦点を明確にする。 到達目標 利用者の生活行為を整理し、支援の対象となる生活行為を選択できる。			
	8.	佐藤修	講義グループワーク	内 容 生活行為への焦点化 整理した情報をもとに生活行為に焦点を当て、支援の対象となる生活行為を検討する。生活の中でどの行為に支援が必要かを考えることで、介護過程の焦点を明確にする。 到達目標 利用者の生活行為を整理し、支援の対象となる生活行為を選択できる。			

9.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 アセスメント①（現在の生活状況） 利用者の現在の生活状況を整理し、身体状況・生活行為・環境条件の関係を考えながら現状を把握する。生活の視点から利用者の状態を理解し、アセスメントの基礎を学ぶ。</p> <p>到達目標 利用者の現在の生活状況を説明できる。</p>
10.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 アセスメント①（現在の生活状況） 利用者の現在の生活状況を整理し、身体状況・生活行為・環境条件の関係を考えながら現状を把握する。生活の視点から利用者の状態を理解し、アセスメントの基礎を学ぶ。</p> <p>到達目標 利用者の現在の生活状況を説明できる。</p>
11.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 アセスメント②（生活の停止点） 生活行為の中で生じている問題点を検討し、生活が停滞している状況を明らかにする。生活の流れの中でどこで生活が止まり始めているのかを考え、生活の停止点という視点からアセスメントを行う。</p> <p>到達目標 生活行為の問題点を説明できる。</p>
12.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 アセスメント②（生活の停止点） 生活行為の中で生じている問題点を検討し、生活が停滞している状況を明らかにする。生活の流れの中でどこで生活が止まり始めているのかを考え、生活の停止点という視点からアセスメントを行う。</p> <p>到達目標 生活行為の問題点を説明できる。</p>
13.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 アセスメント③（未来予測） 現在の生活状況を踏まえ、このまま生活が続いた場合に起こり得る生活の変化や危険を予測する。生活の継続という視点から将来の生活への影響を考える。</p> <p>到達目標 生活の変化を予測できる。</p>
14.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 アセスメント③（未来予測） 現在の生活状況を踏まえ、このまま生活が続いた場合に起こり得る生活の変化や危険を予測する。生活の継続という視点から将来の生活への影響を考える。</p> <p>到達目標 生活の変化を予測できる。</p>
15.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 生活課題の設定 アセスメントの結果をもとに、利用者が生活を継続するために必要な生活課題を設定する。生活課題を明確にすることで介護の方向性を整理する。</p> <p>到達目標 生活課題を設定できる。</p>
16.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 生活課題の設定 アセスメントの結果をもとに、利用者が生活を継続するために必要な生活課題を設定する。生活課題を明確にすることで介護の方向性を整理する。</p> <p>到達目標 生活課題を設定できる。</p>
17.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 生活課題の検討 設定した生活課題を共有し、その妥当性について検討する。複数の視点から課題を見直すことで、課題の明確化と修正を行う。</p> <p>到達目標 生活課題を修正できる。</p>
18.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 生活課題の検討 設定した生活課題を共有し、その妥当性について検討する。複数の視点から課題を見直すことで、課題の明確化と修正を行う。</p> <p>到達目標 生活課題を修正できる。</p>

授業計画

19.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 介護計画①（支援方法の検討） 生活課題を解決するための支援方法を検討する。利用者の生活を継続するために必要な支援内容を具体的に考える。</p> <p>到達目標 支援方法を説明できる。</p>
20.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 介護計画①（支援方法の検討） 生活課題を解決するための支援方法を検討する。利用者の生活を継続するために必要な支援内容を具体的に考える。</p> <p>到達目標 支援方法を説明できる。</p>
21.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 介護計画②（計画作成） 生活課題と支援方法の関係を整理しながら介護計画を作成する。介護過程の流れを意識しながら計画を具体化する。</p> <p>到達目標 介護計画を作成できる。</p>
22.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 介護計画②（計画作成） 生活課題と支援方法の関係を整理しながら介護計画を作成する。介護過程の流れを意識しながら計画を具体化する。</p> <p>到達目標 介護計画を作成できる。</p>
23.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 介護実施 作成した介護計画をもとに、実際の介護場面における支援方法を検討する。計画を実践につなげる視点を学ぶ。</p> <p>到達目標 介護実施方法を説明できる。</p>
24.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 介護実施 作成した介護計画をもとに、実際の介護場面における支援方法を検討する。計画を実践につなげる視点を学ぶ。</p> <p>到達目標 介護実施方法を説明できる。</p>
25.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 評価 介護の結果をどのように評価するかを理解する。介護過程における評価の役割と支援の見直しの視点を学ぶ。</p> <p>到達目標 評価の視点を説明できる。</p>
26.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 評価 介護の結果をどのように評価するかを理解する。介護過程における評価の役割と支援の見直しの視点を学ぶ。</p> <p>到達目標 評価の視点を説明できる。</p>
27.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 介護過程のまとめ 事例の介護過程を振り返り、情報整理から評価までの流れを整理する。</p> <p>到達目標 介護過程の流れを説明できる。</p>
28.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 介護過程のまとめ 事例の介護過程を振り返り、情報整理から評価までの流れを整理する。</p> <p>到達目標 介護過程の流れを説明できる。</p>

	29.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 理解確認・振り返り ワークシート提出と振り返りを行い、学習内容を整理する。</p> <p>到達目標 学習内容を整理できる。</p>			
	30.	佐藤修	講義グループワーク	<p>内 容 理解確認・振り返り ワークシート提出と振り返りを行い、学習内容を整理する。</p> <p>到達目標 学習内容を整理できる。</p>			
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	50%		40%			10%	100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑨「介護過程」（第2版）編集：介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献	適宜プリント資料配布（予定）						
その他 （留意点等）							

科目名		【介護過程Ⅳ】											
担当者		佐藤 修											
学科		昼夜		学年		学期		形式		単位		授業回数	
介護福祉学科		昼間部		2年		後期		演習		1単位		15回	
授業の目的 (ねらい)		実習において経験した介護過程を基盤として、対象者の生活を多面的に捉え、生活の継続を阻害する要因を分析し、妥当な支援の方向性を導き出す力を養う。単なる手順理解に留まらず、自らの判断を再構成し、他者に説明可能な形で表現することを目的とする。また、事例発表を通じて他者の視点に触れ、自身の判断を相対化しながら専門職としての思考の精度を高める。											
到達目標		対象者の生活状況を踏まえて課題を明確化し、支援の方向性を論理的に説明できるとともに、他者事例に対しても自らの判断を適用し再構成できる。さらに、グループでの検討を通じて得られた知見を統合し、根拠をもって発表できる。											
実務経験と授業内容への活用		実務における具体的な支援場面を例示しながら、抽象的な概念を現実の状況に結び付けて理解できるようにする。また、実践で生じる判断の揺らぎや葛藤を共有し、学生が自身の判断過程を言語化する手がかりとする。											
		担当		授業方法				内容・到達目標					
授業計画		1.	佐藤修	講義・個人ワーク				<p>内 容 導入と実習リフレクション 実習経験を基に自己評価を行い、実践内容と判断過程を整理する。生活状況と支援内容を振り返り、違和感や課題意識を抽出し、今後の学習に向けた視点を明確化する。</p> <p>到達目標 自らの実習経験を整理し、課題意識を言語化できる。</p>					
		2.	佐藤修	個人・ペア				<p>内 容 生活の捉え直し 対象者の生活背景や生活歴を再整理し、生活の流れの中での位置付けを確認する。現状の生活とこれまでの経過をつなげて理解する。</p> <p>到達目標 生活の全体像を把握し、現状との関係を説明できる。</p>					
		3.	佐藤修	個人・グループ				<p>内 容 停止点の抽出 生活の継続を妨げる要因に着目し、どの場面で生活が停滞・中断するかを検討する。複数の視点から停止点候補を挙げる。</p> <p>到達目標 生活の中の停止点を複数の視点で捉えられる。</p>					
		4.	佐藤修	グループ				<p>内 容 危険の具体化 停止点に関連する危険を具体的に検討し、生活の低下につながる要因を整理する。現実的なリスクとして捉える。</p> <p>到達目標 停止点と危険の関係を具体的に説明できる。</p>					
		5.	佐藤修	個人・グループ				<p>内 容 意向の把握 対象者の意向や希望を整理し、現在の状況とのズレを明確化する。本人視点を踏まえた理解を深める。</p> <p>到達目標 意向と現状の関係を説明できる。</p>					
		6.	佐藤修	グループ				<p>内 容 ニーズの導出 停止点と危険、意向を踏まえ、生活を継続するために必要な条件を具体化する。複数の選択肢を比較検討する。</p> <p>到達目標 必要条件を論理的に導出できる。</p>					
		7.	佐藤修	生活課題の設定				<p>内 容 生活課題の設定 ニーズを統合し、現実的な支援の方向性として生活課題を設定する。妥当性を検討する。</p> <p>到達目標 生活課題を根拠をもって設定できる。</p>					
		8.	佐藤修	グループ				<p>内 容 支援内容の構築 生活課題に基づき具体的な支援内容を検討し、実施可能性を考慮して整理する。</p> <p>到達目標 支援内容を具体的に説明できる。</p>					

9.	佐藤修	グループ	<p>内 容 構成整理① 発表に向けて内容構成を整理し、ポスターおよびスライドの骨子を作成する。</p> <p>到達目標 発表構成を整理できる。</p>				
10.	佐藤修	グループ	<p>内 容 構成整理② 各項目の内容を精緻化し、論理の流れを整える。</p> <p>到達目標 内容の一貫性を高められる。</p>				
11.	佐藤修	グループ	<p>内 容 資料作成① ポスターおよびスライドの具体的作成を進める。</p> <p>到達目標 資料作成を進められる。</p>				
12.	佐藤修	グループ	<p>内 容 資料作成② 資料の完成度を高め、発表準備を整える。</p> <p>到達目標 発表準備を整えられる。</p>				
13.	佐藤修	グループ	<p>内 容 最終調整 発表内容の確認と調整を行い、完成度を高める。</p> <p>到達目標 発表内容を整理できる。</p>				
14.	佐藤修	発表	<p>内 容 ポスター発表 作成した内容をもとに発表を行い、他者の意見を受けて理解を深める。</p> <p>到達目標 内容をわかりやすく説明できる。</p>				
15.	佐藤修	発表・振り返り	<p>内 容 最終発表と総括 発表を通して得られた視点を整理し、自身の学びを再構成する。</p> <p>到達目標 学習内容を統合し説明できる。</p>				
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	50%		20%		20%	10%	100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑨「介護過程」（第2版）編集：介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献	適宜プリント資料配布（予定）						
その他 （留意点等）							

科目名		【介護総合演習Ⅲ】											
担当者		佐藤 修											
学科		昼夜		学年		学期		形式		単位		授業回数	
介護福祉学科		昼間部		2年		前期		演習		1単位		15回	
授業の目的 (ねらい)		介護実習Ⅲに向けて、利用者理解の視点や実習記録の書き方を整理し、実習での学びを深める基礎を整える。実習Ⅱの経験を振り返りながら観察・情報収集・記録・振り返りの方法を学び、実習を通して主体的に学習できる姿勢を養う。											
到達目標		<input type="checkbox"/> 介護実習Ⅲの目的と実習の流れを理解し、実習に向けた準備を行うことができる。 <input type="checkbox"/> 実習記録の構造を理解し、観察・事実・考察を整理して記録する視点を身につける。 <input type="checkbox"/> 実習Ⅱの経験を振り返り、利用者理解や介護実践について言語化することができる。 <input type="checkbox"/> 実習目標を設定し、実習を通して主体的に学習する姿勢を身につける。											
実務経験と授業内容への活用		介護現場および介護教育の実務経験をもとに、実習記録の書き方や利用者理解の視点を具体例を用いて解説する。現場経験を共有し、実習において活用できる実践的理解を促す。											
		担当		授業方法		内容・到達目標							
授業計画		1.	佐藤修	講義		<p>内 容 実習Ⅲオリエンテーション 実習Ⅲの目的と流れを理解する。実習要項を確認し、実習に向けた準備事項や学習内容を整理する。</p> <p>到達目標 実習Ⅲの目的と流れを説明できる。</p>							
		2.	佐藤修	講義・演習		<p>内 容 実習記録の書き方 実習日誌の構造を確認し、観察・事実・考察の違いを整理する。実習記録を書く際の基本的視点を理解する。</p> <p>到達目標 実習日誌の基本構造を理解できる。</p>							
		3.	佐藤修	講義・演習		<p>内 容 利用者観察の視点 利用者理解のための観察視点を整理し、生活行為を手がかりとした観察の方法を理解する。</p> <p>到達目標 利用者観察の基本視点を理解できる。</p>							
		4.	佐藤修	演習・グループワーク		<p>内 容 実習Ⅱ日誌リフレクション① 実習Ⅱの日誌をもとに振り返りを行い、印象に残った実習場面を共有する。</p> <p>到達目標 実習経験を振り返り言語化できる。</p>							
		5.	佐藤修	演習・グループワーク		<p>内 容 実習Ⅱ日誌リフレクション② 実習Ⅱの経験を共有し、利用者理解の視点や介護実践の意味を整理する。</p> <p>到達目標 実習経験を整理できる。</p>							
		6.	佐藤修	講義		<p>内 容 アセスメントシート構造理解 アセスメントシートの構造を確認し、情報収集からアセスメントまでの流れを理解する。</p> <p>到達目標 アセスメントシートの基本構造を理解できる。</p>							
		7.	佐藤修	講義・演習		<p>内 容 実習目標設定① 実習Ⅲに向けた実習目標の考え方を整理する。</p> <p>到達目標 実習目標の考え方を理解できる。</p>							
		8.	佐藤修	演習		<p>内 容 実習目標設定② 実習目標をワークシートに整理し、実習目標を文章化する。</p> <p>到達目標 実習目標を具体的に設定できる。</p>							

9.	佐藤修	講義	<p>内 容 実習準備最終確認 実習前の準備事項や提出書類を確認し、実習に向けた最終確認を行う。</p> <p>到達目標 実習準備を整え実習に臨むことができる。</p>				
10.	佐藤修	帰校日	<p>内 容 実習振り返り① 実習状況を共有し、課題整理と学びの言語化を行う。</p> <p>到達目標 実習経験を振り返り、実習状況を整理することができる。</p>				
11.	佐藤修	帰校日	<p>内 容 実習振り返り② 実習状況を共有し、課題整理と学びの言語化を行う。</p> <p>到達目標 実習経験を振り返り、実習状況を整理することができる。</p>				
12.	佐藤修	帰校日	<p>内 容 実習振り返り③ 実習状況を共有し、課題整理と学びの言語化を行う。</p> <p>到達目標 実習経験を振り返り、実習状況を整理することができる。</p>				
13.	佐藤修	帰校日	<p>内 容 実習振り返り④ 実習状況を共有し、課題整理と学びの言語化を行う。</p> <p>到達目標 実習経験を振り返り、実習状況を整理することができる。</p>				
14.	佐藤修	講義・振り返り	<p>内 容 実習総括① 実習全体を振り返り、実習で得た学びを整理する。</p> <p>到達目標 実習経験を振り返り、学習内容を整理することができる。</p>				
15.	佐藤修	講義・まとめ	<p>内 容 実習総括② 実習経験を総合的に振り返り、今後の学習課題を整理する。</p> <p>到達目標 実習経験を今後の学習に活かすことができる。</p>				
成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
			60%			40%	100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑩「介護総合演習・介護実習」編集:介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献	適時プリント資料配布(予定)						
その他 (留意点等)							

科目名		【介護総合演習Ⅳ】					
担当者		佐藤 修					
学科		昼夜		学年		学期	
介護福祉学科		昼間部		2年		後期	
		形式		単位		授業回数	
		演習		1単位		15回	
授業の目的 (ねらい)	実習および介護過程で構築した判断内容を、他者との相互作用を通じて検証し、再構成する力を養うことを目的とする。単に内容を理解するのではなく、自らの判断を相対化し、より妥当な形へと更新する過程を経験することで、実践における判断力の精度向上を図る。また、発表に向けた説明力および応答力を高めることも目的とする。						
到達目標	自らの介護過程の内容について根拠をもって説明できるとともに、他者からの指摘を踏まえて判断を修正し再構成できる。また、発表場面において簡潔に説明し、質疑に対応できる。						
実務経験と 授業内容への 活用	実務における多様な判断事例を提示し、単一の正解ではなく状況に応じた判断の必要性を理解させる。また、現場で実際に起こる視点の違いや判断の揺らぎを共有し、学生が自らの思考を見直す契機とする。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	佐藤修	個人・共有	<p>内 容 実習リフレクションの再整理 実習経験を振り返り、自己評価と判断過程を再整理する。気づきや違和感を抽出し、他者と共有することで視点を広げる。</p> <p>到達目標 実習経験を整理し、判断過程を言語化できる。</p>			
	2.	佐藤修	ペア・共有	<p>内 容 生活の捉え直し 対象者の生活背景や生活歴を共有し、異なる視点から再検討する。生活の捉え方の違いを明確化する。</p> <p>到達目標 生活理解を多面的に説明できる。</p>			
	3.	佐藤修	グループ	<p>内 容 停止点のクロスレビュー 各自の停止点の捉え方を持ち寄り、他者視点から検証する。異なる判断の理由を比較し整理する。</p> <p>到達目標 停止点を複数の視点から再検討できる。</p>			
	4.	佐藤修	グループ	<p>内 容 危険の再評価 危険の捉え方について他者からの指摘を受け、生活への影響との関係を再評価する。</p> <p>到達目標 危険の妥当性を説明できる。</p>			
	5.	佐藤修	グループ	<p>内 容 意向の再解釈 対象者の意向について多様な解釈を共有し、現状との関係を再検討する。</p> <p>到達目標 意向を踏まえた判断を説明できる。</p>			
	6.	佐藤修	グループ	<p>内 容 ニーズの再構成 必要条件の捉え方を比較し、複数の選択肢から妥当なものを検討する。</p> <p>到達目標 ニーズを再構成できる。</p>			
	7.	佐藤修	生活課題の再検討	#REF!			
	8.	佐藤修	グループ	<p>内 容 支援内容の検証 支援内容の具体性と実現可能性について検証し、改善点を整理する。</p> <p>到達目標 支援内容を改善できる。</p>			

9.	佐藤修	グループ	<p>内 容 構成のクロスチェック① 発表構成を他グループと共有し、論理の流れや不足点を指摘し合う。</p> <p>到達目標 構成の改善点を見出せる。</p>
10.	佐藤修	グループ	<p>内 容 構成のクロスチェック② 指摘を踏まえ構成を修正し、内容の一貫性を高める。</p> <p>到達目標 構成を再構成できる。</p>
11.	佐藤修	グループ	<p>内 容 発表訓練① 短時間での説明練習を行い、伝え方と論点の明確化を図る。</p> <p>到達目標 簡潔に説明できる。</p>
12.	佐藤修	グループ	<p>内 容 発表訓練② 質疑応答の練習を行い、他者の問いに対する応答力を高める。</p> <p>到達目標 質問に対応できる。</p>
13.	佐藤修	グループ	<p>内 容 最終クロスレビュー 発表直前の最終確認として他グループからの指摘を受け、最終調整を行う。</p> <p>到達目標 発表内容を完成させる。</p>
14.	佐藤修	発表	<p>内 容 ポスター発表 ポスター発表を行い、他者からの意見を受ける。</p> <p>到達目標 発表し応答できる。</p>
15.	佐藤修	発表・振り返り	<p>内 容 総括と再構成 発表を通じた学びを整理し、自身の判断の変化を再構成する。</p> <p>到達目標 学習内容を統合し説明できる。</p>

成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
			30%		40%	30%	100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑩「介護総合演習・介護実習」(第2版) 編集:介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献	適時プリント資料配布(予定)						
その他 (留意点等)							

科目名	【介護実習Ⅲ】						
担当者	齋藤 美由紀 細野 真代 佐藤 修 八子 久美子 野田 朋法 白崎 剛也 水本 侑人 竹内 麻貴 木村 久枝						
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	2年	通年	実習	7単位	210回	
授業の目的 (ねらい)	①個々の利用者の生活リズムや個性を理解し、理解者・家族とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割を知る ②利用者の課題を明確にする為、介護計画の作成・実施後の評価、これを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習をした知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる個別ケアの実践力を修得する						
到達目標	①利用者が求めるニーズを理解し、適切な介護を展開する能力を養う ②個々の利用者を理解し、適切な介護サービスが展開できる ③利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程の展開ができる ④多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する ⑤他科目で学習した知識や技術を総合具体的な介護サービスの基本となる実践力を修得する ⑥介護福祉士としての自己を明確にする ⑦介護福祉に関する研究的態度を養う						
実務経験と 授業内容への 活用							
	担当	授業方法	内容・到達目標				
授業計画	1.	実習担当	実習	内 容 到達目標 介護実習Ⅲの準備等は、介護総合演習Ⅲで行う			
	2.	実習担当	実習	内 容 到達目標 施設の実習内容、予定に沿って進める			
	3.	実習担当	実習	内 容 到達目標 日々の目標を掲げ、実践したことを指定用紙に記録として残す			
	4.	実習担当	実習	内 容 到達目標 介護過程を展開する為の情報収集・アセスメント・計画・実施・評価を実践するにあたり、その利用者の選定について指導者の助言を受ける			
	5.	実習担当	実習	内 容 到達目標 介護過程の展開進捗状況を適宜、指導者に報告をする			
	6.	実習担当	実習	内 容 到達目標 担当教員の巡回時に指導を受ける			
成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	合計	
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑩ 介護総合演習・介護実習 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献							
その他 (留意点等)							

科目名		【認知症の理解Ⅱ】					
担当者		水本 侑人					
学科		昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数
介護福祉学科		昼間部	2年	前期	講義	2単位	15回
授業の目的 (ねらい)	1年次で学習した認知症の基礎知識を踏まえ、各種アセスメントツールを活用しながら、症状と生活機能の関連を分析する力を養う。認知症の理解を生活支援へと具体化し、本人主体の視点に立った根拠あるケアを構築できる力の育成を目的とする。						
到達目標	① 認知症の主要な原因疾患および症状を、生活機能との関連を踏まえて説明できる。 ② 代表的なアセスメントツールの目的と活用方法を理解し、事例に適用できる。 ③ アセスメント結果を基に、行動・心理症状（BPSD）の背景要因を分析し、具体的な支援方法を提案できる。 ④ 支援の根拠を言語化し、本人の尊厳を踏まえたケアの在り方を説明できる。						
実務経験と 授業内容への 活用	高齢者施設、精神科病棟、総合病院で看護師として計12年勤務。認知症や精神疾患のあうる高齢者を対象とした支援をしていく中で得た知見に基づき、認知症の理解を教授する。						
		担当	授業方法	内容・到達目標			
授業計画	1.	水本	講義	内 容 基礎知識の確認 オリエンテーション / 認知症の理解Ⅰの基礎知識の確認 到達目標 ・認知症に対しての基礎知識を確認し、不足している点があれば補完する。			
	2.	水本	講義	内 容 理解とケアの実践 認知症による体験の理解 / 認知症ケアの理念と視点について学ぶ 到達目標 ・認知症の方が体験している世界を理解し、認知症ケアの理念に基づくケアを実践できる。			
	3.	水本	講義	内 容 ケアの考察と実践 認知症の方の思いとケアを理解する 到達目標 ・認知症の方の思いを理解し、その思いに寄り添ったケアを考えて実践できる。			
	4.	水本	講義	内 容 パーソン・センタード・ケア パーソン・センタード・ケアの理解と実践 到達目標 ・パーソンセンタードケアの内容や方法を理解して実践できる。			
	5.	水本	講義	内 容 アセスメントの視点 認知症の人の言動の背景に隠れている事柄（要因）と、アセスメントの視点について学ぶ。 到達目標 ・認知症の方の言動の背景には、どのような要因があるかを理解できる。 ・様々な視点から個別の要因分析を行うことができる。			
	6.	水本	講義	内 容 アセスメントツール アセスメントツールの種類や内容、活用方法について学ぶ。 到達目標 ・アセスメントツールを用いて、認知症の方のアセスメントを行うことができる。			
	7.	水本	講義	内 容 認知症の方へのケア① 認知機能障害による生活への影響を理解し、認知症の人の状態・状況に応じた様々なケア方法について検討する。 到達目標 ・認知機能障害によるIADLへの影響を理解する。 ・認知症の方の状態、状況に応じた適切なケアを実践することができる。			
	8.	水本	講義	内 容 認知症の方へのケア② 認知機能障害による生活への影響を理解し、認知症の人の状態・状況に応じた様々なケア方法について検討する。 到達目標 ・認知機能障害によるADLへの影響を理解する。 ・認知症の方の状態、状況に応じた適切なケアを実践することができる。			

9.	水本	講義	<p>内 容 認知症の方へのケア③ 認知機能障害による生活への影響を理解し、認知症の人の状態・状況に応じた様々なケア方法について検討する。</p> <p>到達目標 ・認知機能障害による休息、QOL、BPSDへの影響を理解する。 ・認知症の方の状態、状況に応じた適切なケアを実践することができる。</p>				
10.	水本	講義	<p>内 容 認知症の方への様々なアプローチ ユマニチュード、バリデーション、その他のアプローチ法について学ぶ。</p> <p>到達目標 ・様々なアプローチ方法について理解し、認知症の方の能力を引き出す。 ・より良い関係性作りを目指したアプローチができる。</p>				
11.	水本	講義	<p>内 容 終末期の介護、家族介護者への支援 終末期における認知症の人の特徴を学ぶ。 また、認知症の人を支える家族介護者の現状と課題を知る。</p> <p>到達目標 ・認知症の方の終末期の特徴を理解した終末期介護を実践することができる。 ・家族介護者の心の葛藤や心理過程を理解して、家族の状況に応じた家族支援を行うことができる。</p>				
12.	水本	講義	<p>内 容 地域包括ケアシステムにおける認知症ケア 国の認知症施策の成立経緯や内容等について学ぶ。</p> <p>到達目標 ・地域包括ケアシステムにおける認知症施策について理解し、それらの施策に基づいた支援を実践することができる。</p>				
13.	水本	講義	<p>内 容 多職種協働 多職種との協働について理解し、適切な連携の取り方を学ぶ。</p> <p>到達目標 ・他の職種の役割を理解する。 ・多職種との協働をする際に、介護福祉士としてどのような立場であるべきか、いかに連携を強めていくかを理解できる。</p>				
14.	水本	講義	<p>内 容 振り返り これまでの復習（試験対策問題演習と解答解説）</p> <p>到達目標 ・これまでの復習をして8割以上の正答率となる</p>				
15.	水本	試験	<p>内 容 試験 これまでの復習（試験対策問題演習と解答解説）</p> <p>到達目標 ・科目全領域の理解をすることができる</p>				
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	60%	10%				30%	100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座 ⑬ 「認知症の理解」（第2版）編集：介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献	参考文献：なし						
その他 （留意点等）	授業資料はオリジナルのものを使用する。授業ごとに口頭での質問によって理解度の確認を行う。						

科目名	【障害の理解Ⅱ】						
担当者	大石 恵子						
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	2年	前期	講義	2単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	①障害のある人の心理について学ぶ。 ②障害別の基礎的理解と、特性に応じた支援について学ぶ。						
到達目標	①障害受容の過程とその特徴を説明できる。 ②障害受容の段階に応じた心理的支援の方法を、具体例を挙げて説明できる。 ③障害にはどのような種類があるかを説明できる。 ④各障害の特性を整理して説明できる。 ⑤障害の特性に応じた支援の方法を、事例をもとに説明できる。						
実務経験と 授業内容への 活用	看護師として30年以上、急性期病棟・療養型病棟・緩和ケア病棟・訪問看護・介護施設など多様な現場で、さまざまな障害のある人と関わってきた経験をもとに、実際の事例や現場での気づきを交えながら、障害の理解と支援のあり方を具体的に伝える。						
	担当	授業方法			内容・到達目標		
	1.	大石	講義	<p>内 容 オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この科目でどんなことを学ぶのかを確認する。 ・「障害」という言葉を聞いたとき、自分の中にどんなイメージや気持ちが生まれるかを考える。 ・小グループで話し合い、いろいろな考え方があることを知る。 ・自分の感じ方に気づき、これからの学びのスタートにする。 <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の自分が「障害」についてどんなイメージや気持ちを持っているかを言葉にして、理解できる。 ・他の人の考えを聞き、自分とのちがいや共通点に気づくことができる。 			
	2.	大石	講義	<p>内 容 障害のある人の心理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が大切なものを失ったとき、どのように気持ちを落ち着かせようとするのかを学ぶ。 ・障害を負ったときに起こりやすい気持ちの変化（ショック・否認・怒り・受容など）を知る。 ・自分がどんな希望を持って生きているかを考え、その希望がもし急になくなったら、どんな気持ちになるかを想像するワークを行う。 ・障害のある人の気持ちに寄りそって考える力を育てることを目指す。 <p>到達目標</p> <p>障害を負った人がどんな気持ちの変化を経験するかを理解し、関わるときに大切にしたい配慮について考えることができる。</p>			
	3.	大石	講義	<p>内 容 肢体不自由（運動機能障害）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が「動く」ことができる、基本的なしくみを学ぶ。 ・「動く」ことがむずかしくなる原因となる、おもな病気やけがについて知る。 ・肢体不自由のある人が生活しやすくなるために、どんな支援ができるかを学ぶ。 <p>到達目標</p> <p>肢体不自由（運動機能障害）を引き起こす、おもな病気やけがの名前を理解し、説明できる。</p>			
	4.	大石	講義	<p>内 容 視覚障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が「見る」ことができる、基本的なしくみを学ぶ。 ・「見る」ことがむずかしくなる原因となる、おもな病気やけがについて知る。 ・視覚障害のある人が生活しやすくなるために、どんな支援や工夫ができるかを学ぶ。 <p>到達目標</p> <p>視覚障害を引き起こす、おもな病気やけがの名前を理解し、説明できる。</p>			
	5.	大石	講義	<p>内 容 聴覚・言語障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が「聞く」「話す」ことができる、基本的なしくみを学ぶ。 ・「聞く」「話す」ことがむずかしくなる原因となる、おもな病気やけがについて知る。 ・聴覚や言語に障害がある人が生活しやすくなるために、どんな支援や工夫ができるかを学ぶ。 <p>到達目標</p> <p>聴覚・言語の障害を引き起こす、おもな病気やけがの名前を理解し、説明できる。</p>			
	6.	大石	講義	<p>内 容 重複障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つ以上の障害をあわせもつ人がいることを学ぶ。 ・盲ろう者（視覚と聴覚の両方に障害がある人）のコミュニケーション方法を学ぶ。 ・理解を深めるために、関連する動画を視聴する。 <p>到達目標</p> <p>障害の種類や程度に合わせて、適切なコミュニケーション方法を工夫することが重要であることを理解する。</p>			
	7.	大石	講義	<p>内 容 内部障害①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心臓や呼吸器に障害があると、どのような症状が出るかを学ぶ。 ・これらの障害をもつ人が、日常生活でどのような点に注意する必要があるかを学ぶ。 <p>到達目標</p> <p>息苦しさが起こりにくい介護の方法を説明できるようになる。</p>			

授業計画

8.	大石	講義	<p>内 容 内部障害②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消化器、泌尿器、免疫に障害があると、どのような症状が出るかを学ぶ。 ・ これらの障害をもつ人が、日常生活でどのような点に注意する必要があるかを学ぶ。 <p>到達目標</p> <p>透析やストーマなどの医療処置を受けながら生活する利用者への介護について説明できるようになる。</p>			
9.	大石	講義	<p>内 容 知的障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知的機能に障害があると、日常生活にどのような影響が出るかを学ぶ。 ・ 知的障害をもつ人のライフステージに合わせた支援の方法を学ぶ。 <p>到達目標</p> <p>知的障害をもつ人への支援で大切な点を説明できるようになる。</p>			
10.	大石	講義	<p>内 容 精神障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神障害にはどのような種類があり、それぞれにどのような特性があるかを学ぶ。 ・ 障害の特性に合わせた支援の方法を学ぶ。 <p>到達目標</p> <p>精神障害をもつ人への支援で大切な点を説明できるようになる。</p>			
11.	大石	講義	<p>内 容 高次脳機能障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高次脳機能障害の原因と主な症状を学ぶ。 ・ 障害の特性に合わせた支援の方法を学ぶ。 <p>到達目標</p> <p>高次脳機能障害をもつ人への支援で大切な点を説明できるようになる。</p>			
12.	大石	講義	<p>内 容 発達障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害にはどのような種類があり、それぞれにどのような特性があるかを学ぶ。 ・ 障害の特性に合わせた支援の方法を学ぶ。 <p>到達目標</p> <p>発達障害をもつ人への支援で大切な点を説明できるようになる。</p>			
13.	大石	講義	<p>内 容 重症心身障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重い肢体不自由（運動機能障害）と重い知的障害をあわせもつ重症心身障害の特性を学ぶ。 ・ 重症心身障害のある人への介護について理解を深めるため、関連する動画を視聴する。 <p>到達目標</p> <p>重症心身障害をもつ人への支援で大切な点を説明できるようになる。</p>			
14.	大石	講義	<p>内 容 難病</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 難病の定義を学ぶ。 ・ 主な難病の種類と、それぞれの症状、特性に合わせた支援の方法を学ぶ。 <p>到達目標</p> <p>難病とはどのようなものかを説明できるようになる。</p>			
15.	大石	講義	<p>内 容 ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで学んだ内容をふりかえり、理解を整理する。 ・ 重要なポイントを確認する。 <p>到達目標</p> <p>この科目で学んだ内容をふまえ、将来の仕事や生活にどのように活かすかを考えることができる。</p>			
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	合計
	80%		20%			100%
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑭ 「障害の理解」（第3版）編集：介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版					
参考文献	必要に応じて授業内で紹介します					
その他 （留意点等）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業では、意見や感想を積極的に話してください。 ・ 内容や順番は、状況により変更することがあります。 					

科目名	【こころとからだのしくみⅢ】						
担当者	木村 久枝						
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	2年	前期	講義	2単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	① 人生の最終段階にある人とその家族やまわりの人達が「その人らしく」「穏やかに」「尊厳をもち」過ごすことが大切です。 ② 身体的、精神的、社会的に包括したケアの実践力を養い、介護福祉士の専門性につなげることが大切です。						
到達目標	① 終末期のとらえ方、看取りでの尊厳の保持の意味を理解します。 ② 「死」に直面したときの心理状況を理解しこころの変化の受け止め方とケアのあり方について理解します。 ③ 終末期から「死」までの身体的機能の特徴とからだの変化やその対応について理解します。 ④ 終末期ケアにおける医療職と介護福祉職の役割と、適切なケアと連携のあり方について理解します。						
実務経験と 授業内容への 活用	介護福祉士、看護師教育の実務経験30年以上をもとに、「こころとからだのしくみ」「発達と老化の理解」「障害の理解」などを包括し、生活の支援者である介護福祉士の専門性をふまえて教授します。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	木村	講義	内 容 オリエンテーション 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方 死のとらえ方として最期を迎えたい場所などを学生よりアンケートをとり、それをもとに「こころ」について学ぶ。 到達目標 最期をその人らしく過ごすためには死に方を最大限尊重し、QOLを高める支援の必要性が理解できる。			
	2.	木村	講義	内 容 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方 看取りにかかわる人の価値観について、それぞれの考え方があることを理解し、介護福祉士の専門性を踏まえ理解する。理解度を高めるために国家試験の過去問をもとに小テストで学ぶ。 到達目標 看取りにかかわる人の価値観が理解できる。			
	3.	木村	講義	内 容 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方 終末期（ターミナル期）について、身体的苦痛だけではなく精神的苦痛に対して寄り添い、QOLの向上に向けたアセスメントなどの関わりなどを学ぶ。 到達目標 終末期（ターミナル期）について理解できる。			
	4.	木村	講義	内 容 「死」に対するこころの理解 「死」に対するこころの変化を1回目の授業の内容を振り返りながら「死生観」を学ぶ。理解度を高めるために国家試験の過去問をもとに小テストを学ぶ。 到達目標 人にはそれぞれの「死生観」があることを理解できる。			
	5.	木村	講義	内 容 「死」に対するこころの理解 「死」を受容する段階として、キューブラーロスなどの考えをもとに、自分のものとして考えられ、利用者がどのような状態であってもあるがままに受け入れられるように学ぶ。 到達目標 「死」を受容する段階が理解できる。			
	6.	木村	講義	内 容 「死」に対するこころの理解 家族が「死」を受容し負担を軽減するための支援やグリーフケアについて学ぶ。理解度を高めるために国家試験の過去問をもとに小テストで学ぶ。 到達目標 大切な人との死別から立ち直る段階と支援の方法が理解できる。			
	7.	木村	講義	内 容 終末期から危篤状態の理解 終末期の変化の特徴として、身体的機能の変化を、呼吸器、循環器、泌尿器、消化器系からアプローチし、バイタルサインとして学ぶ。 到達目標 終末期から臨終期における身体機能の変化が理解できる。			
	8.	木村	講義	内 容 臨終期の対応 死を迎える直前の危篤状態の方の苦痛や不安などについて、生活支援の専門職である介護福祉士の視点で学ぶ。理解度を高めるために国家試験の過去問をもとに小テストを学ぶ。 到達目標 臨終期の対応が理解できる。			

9.	木村	講義	<p>内 容 死後のからだの変化 死後のからだの変化について体温や皮膚、身体の変化をもとに、人間のからだについて学ぶ。</p> <p>到達目標 死後のからだの変化が理解できる。</p>				
10.	木村	講義	<p>内 容 死後の連絡 「死亡」の確認は医師が行うこと、医師が立ち会えない時の対応などについて、日本の法律などをもとに学ぶ。理解度を高めるために国家試験の過去問をもとに小テストで学ぶ。</p> <p>到達目標 死後の連絡方法や法律などが理解できる。</p>				
11.	木村	講義	<p>内 容 終末期における医療職との連携 酸素療法や輸液など医療職との連携を学ぶ。</p> <p>到達目標 終末期における医療職との連携で医療的ケアが理解できる。</p>				
12.	木村	講義	<p>内 容 終末期における医療職との連携 疼痛緩和時の医療職との連携を学ぶ。理解度を高めるために国家試験の過去問をもとに小テストで学ぶ。</p> <p>到達目標 終末期における医療職との連携で医療的ケア理解できる。</p>				
13.	木村	講義	<p>内 容 終末期における多職種連携 終末期には医師や看護職だけでなく、様々な職種や人々が関わり合うので、相互の協力が必要不可欠であることを、デスカンファレンスを通して学ぶ。</p> <p>到達目標 終末期における多職種の役割が理解できる。</p>				
14.	木村	試験	<p>内 容 個人ワーク これまでの学習の復習として、問題を通して理解を深める。</p> <p>到達目標 国家試験合格を目指した学びができる。</p>				
15.	木村	講義	<p>内 容 個人ワーク これまでの学習の復習として、国家試験対策や過去の問題の解答・解説を通して理解を深める。</p> <p>到達目標 国家試験合格を目指した学びができる。</p>				
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	グループワーク参加状況	合計
	60%	10%	10%		10%	10%	100%
教科書	『介護福祉士養成講座11「こころとからだのしくみ」（介護福祉士養成講座編集委員会）』中央法規、						
参考文献							
その他 （留意点等）	能動的・主体的に授業に参加し学習に取り組んでほしい。積み重ねが大切な科目であり、前後の講義との関係性はもとより、科目全体を通してさらには他の科目との相互理解を深めていくように学習を進めてほしい。						

科目名		【医療的ケア I】					
担当者		中嶋 たまみ 近藤 真奈美					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	2年	後期	講義	3単位	30回	
授業の目的 (ねらい)	チーム医療の一員として、喀痰吸引等を安全・適切に実施できるように、手技・手順を習得する。更に実施の根拠となる知識・技術を習得する。 安全な医療的ケアを実施することは、「その人らしく生活する」を支援することであると理解する。						
到達目標	喀痰吸引等を安全・適切な手技・手順を習得する。 実施の根拠となる知識・技術を習得する。 安全な医療的ケアの実施に際し、利用者への尊厳を持った支援ができる。						
実務経験と 授業内容への 活用	看護の基礎知識・専門知識を学生の知識の習得に活かす 臨床や在宅支援での経験や知識を手技・手順の活用に活かす。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
	1.	中嶋	講義	<p>内 容 医療的ケアとは 医療の倫理 医療的ケア、医行為、医業などの用語について説明する。 具体例、事例を提示し、理解できるようにする。 医療の倫理は、サービス提供の根拠にあるものなどを提示し、考える機会をつくる。</p> <p>到達目標 ・医療的ケアの研修内容を理解する ・医行為とは何かを理解する ・医療の倫理について理解できる</p>			
	2.	中嶋	講義	<p>内 容 制度・しくみについて 法改正の変遷など、年表形式にした資料を提示する。 医療的ケア、喀痰吸引等研修に関して、表にまとめ提示する。</p> <p>到達目標 ・医療的ケアまでの法改正の変遷を理解できる ・医療的ケアと喀痰吸引等研修の内容を理解する</p>			
	3.	中嶋	講義	<p>内 容 安全な療養生活：安全に医療的ケアを提供する重要性、リスクマネジメント・ヒヤリハット 安全に喀痰吸引等を提供することの重要性を学ぶ。ヒヤリハット事例を提示し、グループで意見交換することで具体的なイメージができるようにする。</p> <p>到達目標 ・安全に医療的ケアを提供する重要性を理解できる ・リスクマネジメントとヒヤリハット・アクシデントについて理解できる</p>			
	4.	中嶋	講義	<p>内 容 安全な療養生活(救急蘇生法について)</p> <p>「救急蘇生法がなぜ必要なのか」をカーラーの救命曲線などを用いて理解を促す。 「JRC蘇生ガイドライン2020」を基に救急蘇生法の学ぶ。</p> <p>到達目標 ・カーラーの救命曲線、チェーンオブサバイバルを理解できる ・心肺蘇生法を実践できるよう覚えることができる ・異物除去法、JCSを理解できる</p>			
	5.	中嶋	講義	<p>内 容 清潔保持と感染予防：感染予防について、介護福祉職の感染予防 感染の要因と予防の基礎知識を学ぶ。 スタンダードプリコーションについて説明する。 手洗い方法を説明し、グループで手技を確認する。</p> <p>到達目標 ・感染の要因・予防の基礎を理解できる ・介護福祉職の健康管理・感染予防の重要性を理解できる</p>			
	6.	中嶋	講義	<p>内 容 清潔保持と感染予防：療養環境の清潔・消毒方法 消毒・廃棄物処理などは具体例を提示し理解を促す。 介護現場での事例を提示し、感染対策の重要性を理解を促す。</p> <p>到達目標 ・一般ごみと医療廃棄物の違いを理解できる ・消毒と滅菌の違い、それぞれの方法を理解できる</p>			
	7.	中嶋	講義	<p>内 容 健康状態の把握：健康な状態を知る項目、バイタルサイン 「健康の定義」について話し合う。 バイタルサインとは、各々の特徴、測定方法を説明する。 グループで測定をする。</p> <p>到達目標 ・健康について・観察項目のポイントを理解できる ・各バイタルサインの意味・測定方法を理解できる</p>			

授業計画	8.	中島	講義	<p>内 容 健康状態の把握：バイタルサイン・急変時の対応 バイタルサインとは、各々の特徴、測定方法などを説明する。 グループで測定をする。 「急変状態」について説明する。「危険な状態の徴候(サイン)を知る。 具体例を提示し、考えてもらう。発表し共有する。</p> <p>到達目標 ・落ち着いてバイタル測定ができる ・急変時の対応のポイントを理解できる</p>
	9.	中島	講義・演習	<p>内 容 課題レポート作成・心肺蘇生法演習 バイタルサインなどに関する課題を提示する。復習を中心に自己学習をすすめ、知識を定着させる。 蘇生人形、AEDを使用して「心肺蘇生法」を実践する。実技試験として「実践手順を示し、その通りにできるまで」行う。</p> <p>到達目標 ・バイタルサインや症状で異常を予測することができる ・心肺蘇生法を実践することができる</p>
	10.	中島	講義・演習	<p>内 容 課題レポート作成・心肺蘇生法演習 バイタルサインなどに関する課題を提示する。復習を中心に自己学習をすすめ、知識を定着させる。 蘇生人形、AEDを使用して「心肺蘇生法」を実践する。実技試験として「実践手順を示し、その通りにできるまで」行う。</p> <p>到達目標 ・バイタルサインや症状で異常を予測することができる ・心肺蘇生法を実践することができる</p>
	11.	中島	講義	<p>内 容 課題レポート解答解説・練習問題実施と解答解説 課題の意図、模範解答などを共有する。 問題の解説を重点に理解できるように進める。</p> <p>到達目標 課題レポート解答解説・練習問題実施と解答解説 内容を理解できる</p>
	12.	中島	講義	<p>内 容 課題レポート解答解説・練習問題実施と解答解説 課題の意図、模範解答などを共有する。 問題の解説を重点に理解できるように進める。</p> <p>到達目標 ・総論練習問題15問中14問以上正解することができる</p>
	13.	近藤	講義	<p>内 容 喀痰吸引：呼吸のしくみとはたらき、いつもと違う呼吸状態 呼吸のしくみや呼吸器官の名称を、イラストや画像を活用して理解につなげる。 各部位の名称やはたらきを認識する。「いつもと違う」状態を、具体例を提示して理解につなげる。</p> <p>到達目標 ・呼吸のしくみとはたらきを理解できる ・正常な呼吸と異常な呼吸の違いを理解できる</p>
	14.	近藤	講義	<p>内 容 喀痰吸引：喀痰吸引とは 「痰」が生じて排出するしくみ、貯留することの人体への影響などをイラストなどを活用して説明する。その上で、「喀痰吸引」の目的、法的根拠、注意事項などを説明し理解につなげる。</p> <p>到達目標 ・痰が生じて排出するしくみを理解できる ・痰貯留を示す状態、痰を出しやすくするケア、喀痰吸引の方法を理解できる ・喀痰吸引が必要な状態を理解できる</p>
15.	近藤	講義	<p>内 容 喀痰吸引：人工呼吸器と喀痰吸引1 人工呼吸器が必要な状態、人工呼吸器のしくみ、方法、種類などをイラスト、画像を活用して説明する。</p> <p>到達目標 ・人工呼吸器が必要な状態・しくみと種類を理解できる</p>	
16.	近藤	講義	<p>内 容 喀痰吸引：侵襲的な人工呼吸療法、装着者の生活上の留意点、医療連携 侵襲的な人工呼吸療法(気管カニューレの構造、吸引の留意点など)について説明する。人工呼吸器装着者の生活上の留意点について説明する。呼吸管理に関する医療職との連携のポイントを確認する。 イラストや画像を活用して理解につなげる。</p> <p>到達目標 ・気管切開・気管カニューレを理解できる ・気管カニューレ内部の吸引の留意点を理解できる ・人工呼吸器装着者の生活上の留意点と医療連携について理解できる</p>	
17.	近藤	講義	<p>内 容 喀痰吸引：子供の吸引について、利用者・家族の気持ちについて 吸引を必要とする子供とは、吸引の留意点、その家族の気持ちなどを説明する。 介護職が行う喀痰吸引等においては、利用者および家族の気持ちに寄り添うことも大切であることを伝える。「対応」や「声かけ」など発言を促しながら進める。</p> <p>到達目標 ・子どもの吸引の留意点を理解できる ・利用者・家族の気持ちに沿った対応を理解できる</p>	

授業計画

18.	近藤	講義	<p>内 容 喀痰吸引：呼吸器系感染と予防、吸引により生じる危険、事後の安全確認 呼吸器感染の徴候、予防について説明する。 喀痰吸引により生じる危険の種類や対応について説明する。 喀痰吸引に関連したヒヤリハット事例などを提示し、対応を考える。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器感染と予防方法を理解できる ・喀痰吸引により生じるトラブル対応について理解できる
19.	近藤	講義	<p>内 容 喀痰吸引（これまでの復習講義 確認テスト1実施と解答解説） 「喀痰吸引等」の復習講義を行ったのち、確認テストを実施する。 解答・解説を確認し、適切な知識の習得を促す。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習講義の口頭質問に回答できる ・確認テスト10問中9問以上正解できる
20.	近藤	講義	<p>内 容 喀痰吸引（実施手順解説1：必要物品・清潔保持方法） 喀痰吸引を実施するための、必要物品、吸引器のしくみを説明する。 吸引する部位による必要物品の共通点、相違点などを説明する。 消毒方法（浸漬法、乾燥法、これらの違いなど）を説明する。 イラスト、実物を活用して理解につなげる。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引における必要物品を理解できる ・必要物品の清潔保持方法を理解できる
21.	近藤	講義	<p>内 容 喀痰吸引（実施手順解説2：手順のポイント） 吸引の手順に沿ったポイントを説明する。 「吸引の手順」「吸引に必要な物品」「シュミレーター人形」などを用いてイメージしやすいようにする。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引の手順ポイントを理解できる
22.	近藤	講義	<p>内 容 喀痰吸引（実施手順解説3：喀痰吸引に伴うケア） 痰を出しやすくするケア（体位ドレナージなど）を説明する。 口腔ケアの重要性を説明し、適切な介護技術の必要性の理解につなげる。 医療との連携において報告、記録の必要性を説明し、理解につなげる。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・痰を出しやすくするための要因を理解できる ・口腔ケア、喀痰吸引後の報告のポイントを理解できる
23.	近藤	講義	<p>内 容 喀痰吸引（シュミレーション：口腔内吸引） 「口腔内吸引」の手順を覚える。 手順書、喀痰吸引に必要な物品などを活用し、場面設定をする。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔内吸引の手順を覚える
24.	近藤	講義	<p>内 容 喀痰吸引（シュミレーション：鼻腔内吸引） 「鼻腔内吸引」の手順を覚える。 手順書、喀痰吸引に必要な物品などを活用し、場面設定をする。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鼻腔内吸引の手順を覚える
25.	近藤	講義	<p>内 容 喀痰吸引（シュミレーション：気管カニューレ内部の吸引） 「気管カニューレ内部の吸引」の手順を覚える。 手順書、喀痰吸引に必要な物品などを活用し、場面設定をする。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気管カニューレ内部の吸引の手順を覚える
26.	近藤	講義	<p>内 容 喀痰吸引（これまでの復習講義 確認テスト実施と解答解説） 「喀痰吸引等」の復習講義を行ったのち、確認テストを実施する。 解答・解説を確認し、適切な知識の習得を促す。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習講義における口頭質問に回答できる ・確認テスト90%以上正解できる
27.	中島	講義	<p>内 容 経管栄養（消化器系のしくみとはたらき） 消化のしくみや消化器官の名称を、イラストや画像を活用して理解につなげる。 各部位の名称やはたらき、自律神経の支配などを認識する。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消化管と消化腺を理解できる ・摂食嚥下の5分類を理解できる ・消化器官（口腔～胃まで）の役割を理解できる
28.	中島	講義	<p>内 容 経管栄養（消化器系のしくみとはたらき続き、消化器系のよくある症状） 消化のしくみや消化器官の名称を、各部位の名称やはたらきなどを認識する。 「主な消化器症状」を説明する。イラストや画像を活用して理解につなげる。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消化器官（小腸～大腸）の役割を理解できる ・消化器の症状を理解できる

	29.	中島	講義	<p>内 容 経管栄養（経管栄養とは、栄養剤の知識） 経管栄養のしくみと種類（どのような人が適応するか、種類、方法など）を説明する。 栄養剤の知識（人間に必要な栄養、使用される栄養剤など）を習得する。 イラスト、画像を活用する。また実物を提示するなどして理解につなげる。</p> <p>到達目標 ・経管栄養のしくみと種類を理解できる ・栄養剤に関する知識を理解できる</p>			
	30.	中島	講義	<p>内 容 経管栄養（経管栄養実施上の留意点 「経管栄養」で起こりえる異変（脱水、電解質異常、血糖値異常、誤嚥）について説明する。 スキントラブル（ろう周囲、テープ固定部位）について説明する。 イラストや画像を活用して理解につなげる。</p> <p>到達目標 ・経管栄養で起こりうる異変について理解できる ・スキントラブルについて理解できる</p>			
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	合計	
	80%			20%		100%	
教科書	最新 介護福祉士養成講座⑮ 「医療的ケア」（第2版）編集：介護福祉士養成編集委員会 中央法規出版						
参考文献							
その他 （留意点等）	オリジナルレジュメ使用 各授業項目ごとにミニテスト実施 医療的ケアⅠ30コマ＋医療的ケアⅡ10コマを合計し40コマが基本研修座学とする（この内8コマ以上の授業欠席者、筆記試験90点未満の者は医療的ケアⅡの後半【第15回以降】演習に進むことができない）						

科目名		【医療的ケアⅡ】											
担当者		中島 たまみ 近藤 真奈美 田中 典枝 宮崎 弘美 竹内 麻貴 古田 由美子 加我 愛											
学科		昼夜		学年		学期		形式		単位		授業回数	
介護福祉学科		昼間部		2年		前期		講義		3単位		30回	
授業の目的 (ねらい)		①医療的ニーズのある利用者に対して、喀痰吸引・経管栄養の接続の技術が提供できるよう、必要な知識・技術を習得する。 ②科目：医療的ケアIとII受講により、医療的ケア基本研修を修了する。											
到達目標		①医療的ケア実施に必要な知識を習得できる(定期試験90点以上)。 ②医療的ケア実施に必要な知識・技術を習得できる(口腔内吸引・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部の吸引・胃瘻経管栄養・経鼻経管栄養・心配蘇生法)											
実務経験と 授業内容への 活用		看護の基礎知識・専門知識を学生の知識の習得に活かす 臨床や在宅支援での経験や知識を手技・手順の活用に活かす。											
		担当		授業方法		内容・到達目標							
1.		中島		講義		内 容 経管栄養(子どもの経管栄養、経管栄養に関する感染と予防、利用者家族への対応) 経管栄養を必要とする子供とは、留意点、その家族の気持ちなどを説明する。 介護職が行う経管栄養において、利用者および家族の気持ちに寄り添うことも大切であることを伝え、「対応」や「声かけ」など発言を促しながら進める。 到達目標 ・子どもの経管栄養における留意点を理解できる ・経管栄養に関する感染と予防について理解できる ・利用者・家族への対応ポイントが理解できる							
2.		中島		講義		内 容 経管栄養(危険・安全確認・トラブル対応) 経管栄養による危険の種類、状態を説明する。 具体例を提示しながら、トラブル時の対応の理解につなげる。 到達目標 ・経管栄養による危険の種類を理解できる ・トラブルへの対応方法を理解できる ・医療職との連携ポイントを理解できる							
3.		中島		講義		内 容 経管栄養(経管栄養実施手順解説1:使用物品・清潔保持方法・挿入部の清潔保持) 経管栄養を実施するための、必要物品、物品の清潔保持、感染予防、感染徴候などを説明する。 イラスト、実物を活用して理解につなげる。 到達目標 ・必要物品を理解できる ・物品の清潔保持の方法を理解できる ・挿入部の清潔保持の方法を理解できる							
4.		中島		講義		内 容 経管栄養(経管栄養実施手順解説2:手順のポイント) 経管栄養を実施するための、必要物品、物品の清潔保持、感染予防、感染徴候などを説明する。 イラスト、実物を活用して理解につなげる。 到達目標 ・経管栄養に必要なケアを理解できる ・報告及び記録の方法・ポイントを理解できる							
5.		中島		講義		内 容 経管栄養(経管栄養実施手順解説3:経管栄養に必要なケア、報告及び記録) 経管栄養を実施するための、準備、観察、実施手順の留意点などを説明する。 適切な報告ができるように説明する。 イラスト、実物を活用して理解につなげる。 到達目標 ・経管栄養に必要なケアを理解できる ・報告及び記録の方法・ポイントを理解できる							
6.		中島		講義		内 容 経管栄養(胃ろう経管栄養シュミレーション1) 「胃ろう経管栄養」の手順を覚える。 手順書、経管栄養に必要な物品などを活用し、場面設定をする。 到達目標 ・胃ろう経管栄養の手順を覚える							
7.		中島		講義		内 容 経管栄養(胃ろうシュミレーション2)(経鼻経管栄養シュミレーション1) 「胃ろう経管栄養」「経鼻経管栄養」の手順を覚える。 手順書、経管栄養に必要な物品などを活用し、場面設定をする。 到達目標 ・胃ろうの手技の理解を深めることができる ・経鼻経管栄養の手順を覚える							
8.		中島		講義		内 容 経管栄養(経鼻経管栄養シュミレーション2) 「経鼻経管栄養」の手順を覚える。 手順書、経管栄養に必要な物品などを活用し、場面設定をする。 到達目標 ・経鼻経管栄養の手技の理解を深めることができる							

9.	中島	講義	<p>内 容 総論・喀痰吸引・経管栄養の復習講義 試験対策問題の実施と解答解説 「総論」「喀痰吸引」「経管栄養」の復習講義を行ったのち、確認テストを実施する。 解答・解説を確認し、適切な知識の習得を促す。</p> <p>到達目標 ・試験対策問題30問中27問以上正解することができる</p>
10.	中島	講義	<p>内 容 筆記試験と解答 「総論」「喀痰吸引」「経管栄養」の知識を把握するためにテストを実施する。 解答・解説を確認し、適切な知識の習得を促す。</p> <p>到達目標 ・90%以上（27/30問）正解することができる</p>
11.	中島 他	演習	<p>内 容 Aグループ：喀痰吸引Bグループ：ム（口腔内）の演習① 今回より2グループに分かれ、次の演習を行う。グループ毎に担当講師の指導を受ける。配布された手順書を基に自己学習を進める。 (A)指導を受けながら「喀痰吸引(口腔内)自己評価表」に沿って手技を確認する。 (B)指導を受けながら「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿って手技を確認する。</p> <p>到達目標 (A)「喀痰吸引(口腔内)自己評価表」に沿って実施し、手順を確認する。 (B)「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿って実施し、手順を確認する。</p>
12.	中島 他	演習	<p>内 容 (A)喀痰吸引(口腔内)の演習② (B)経管栄養(胃ろう)の演習②</p> <p>(A)「喀痰吸引(口腔内)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、実施後に間違いなどの指導を受ける。 (B)「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、間違いなどその場で指導を受ける。</p> <p>到達目標 (A)「喀痰吸引(口腔内)自己評価表」に沿って概ねひとりで実施することができる。 (B)「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿って、指導を受けながら、ひとりで実施することができる。</p>
13.	中島 他	演習	<p>内 容 (A)喀痰吸引(口腔内)の演習③ (B)経管栄養(胃ろう)の演習③</p> <p>(A)「喀痰吸引(口腔内)自己評価表」に沿って手技を実施し、完全に習得できるようにする。 (B)「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、実施後に間違いなどの指導を受ける。</p> <p>到達目標 (A)「喀痰吸引(口腔内)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、完璧にできる。 (B)「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿って、概ねひとりで実施することができる。</p>
14.	中島 他	演習	<p>内 容 (A)喀痰吸引(鼻腔内)の演習① (B)経管栄養(胃ろう)の演習④</p> <p>(A)指導を受けながら「喀痰吸引(鼻腔内)自己評価表」に沿って手技を確認する。 (B)「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、実施後に間違いなどの指導を受ける。</p> <p>到達目標 (A)「喀痰吸引(鼻腔内)自己評価表」に沿って実施し、手順を確認する。 (B)「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿って、概ねひとりで実施することができる。</p>
15.	中島 他	演習	<p>内 容 (A)喀痰吸引(鼻腔内)の演習② (B)経管栄養(胃ろう)の演習⑤</p> <p>(A)「喀痰吸引(鼻腔内)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、実施後に間違いなどの指導を受ける。 (B)「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿って手技を実施し、完全に習得できるようにする。</p> <p>到達目標 (A)「喀痰吸引(鼻腔内)自己評価表」に沿って概ねひとりで実施することができる。 (B)「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、完璧にできる。</p>
16.	中島 他	演習	<p>内 容 (A)喀痰吸引(鼻腔内)の演習③ (B)経管栄養(経鼻)の演習①</p> <p>(A)「喀痰吸引(鼻腔内)自己評価表」に沿って手技を実施し、完全に習得できるようにする。 (B)指導を受けながら「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿って手技を確認する。</p> <p>到達目標 (A)「喀痰吸引(鼻腔内)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、完璧にできる。 (B)「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿って実施し、手順を確認する。</p>
17.	中島 他	演習	<p>内 容 (A)喀痰吸引(気管カニューレ内部)の演習① (B)経管栄養(経鼻)の演習②</p> <p>(A)指導を受けながら「喀痰吸引(気管カニューレ内部)自己評価表」に沿って手技を確認する。 (B)「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、間違いなどその場で指導を受ける。</p> <p>到達目標 (A)「喀痰吸引(気管カニューレ内部)自己評価表」に沿って実施し、手順を確認する。 (B)「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿って、指導を受けながら、ひとりで実施することができる。</p>

授業計画

18.	中島 他	演習	<p>内 容 (A)喀痰吸引(気管カニューレ内部)の演習② (B)経管栄養(経鼻)の演習③ (A)「喀痰吸引(気管カニューレ内部)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、実施後に間違いなどの指導を受ける。 (B)「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、実施後に間違いなどの指導を受ける。</p> <p>到達目標 (A)「喀痰吸引(気管カニューレ内部)自己評価表」に沿って概ねひとりで実施することができる。 (B)「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿って、概ねひとりで実施することができる。</p>
19.	中島 他	演習	<p>内 容 (A)喀痰吸引(気管カニューレ内部)の演習③ (B)経管栄養(経鼻)の演習④ (A)「喀痰吸引(気管カニューレ内部)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、実施後に間違いなどの指導を受ける。 (B)「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、実施後に間違いなどの指導を受ける。</p> <p>到達目標 (A)「喀痰吸引(気管カニューレ内部)自己評価表」に沿って概ねひとりで実施することができる。 (B)「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿って、概ねひとりで実施することができる。</p>
20.	中島 他	演習	<p>内 容 (A)喀痰吸引(気管カニューレ内部)の演習④ (B)経管栄養(経鼻)の演習⑤ (A)「喀痰吸引(気管カニューレ内部)自己評価表」に沿って手技を実施し、完全に習得できるようにする。 (B)「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿って手技を実施し、完全に習得できるようにする。</p> <p>到達目標 (A)「喀痰吸引(気管カニューレ内部)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、完璧にできる。 (B)「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、完璧にできる。</p>
21.	中島 他	演習	<p>内 容 Aグループ:経管栄養(胃ろう)の演習① Bグループ:喀痰吸引(口腔内)の演習① (A)指導を受けながら「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿って手技を確認する。 (B)指導を受けながら「喀痰吸引(口腔内)自己評価表」に沿って手技を確認する。</p> <p>到達目標 (A)「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿って実施し、手順を確認する。 (B)「喀痰吸引(口腔内)自己評価表」に沿って実施し、手順を確認する。</p>
22.	中島 他	演習	<p>内 容 (A)経管栄養(胃ろう)の演習② (B)喀痰吸引(口腔内)の演習② (A)「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、間違いなどその場で指導を受ける。 (B)「喀痰吸引(口腔内)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、実施後に間違いなどの指導を受ける。</p> <p>到達目標 (A)「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿って、指導を受けながら、ひとりで実施することができる。 (B)「喀痰吸引(口腔内)自己評価表」に沿って概ねひとりで実施することができる。</p>
23.	中島 他	演習	<p>内 容 (A)経管栄養(胃ろう)の演習③ (B)喀痰吸引(口腔内)の演習③ (A)「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、実施後に間違いなどの指導を受ける。 (B)「喀痰吸引(口腔内)自己評価表」に沿って手技を実施し、完全に習得できるようにする。</p> <p>到達目標 (A)「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿って、概ねひとりで実施することができる。 (B)「喀痰吸引(口腔内)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、完璧にできる。</p>
24.	中島 他	演習	<p>内 容 (A)経管栄養(胃ろう)の演習④ (B)喀痰吸引(鼻腔内)の演習① (A)「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、実施後に間違いなどの指導を受ける。 (B)指導を受けながら「喀痰吸引(鼻腔内)自己評価表」に沿って手技を確認する。</p> <p>到達目標 (A)「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿って、概ねひとりで実施することができる。 (B)「喀痰吸引(鼻腔内)自己評価表」に沿って実施し、手順を確認する。</p>
25.	中島 他	演習	<p>内 容 (A)経管栄養(胃ろう)の演習⑤ (B)喀痰吸引(鼻腔内)の演習② (A)「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿って手技を実施し、完全に習得できるようにする。 (B)「喀痰吸引(鼻腔内)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、実施後に間違いなどの指導を受ける。</p> <p>到達目標 (A)「経管栄養(胃ろう)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、完璧にできる。 (B)「喀痰吸引(鼻腔内)自己評価表」に沿って概ねひとりで実施することができる。</p>
26.	中島 他	演習	<p>内 容 (A)経管栄養(経鼻)の演習① (B)喀痰吸引(鼻腔内)の演習③ (A)指導を受けながら「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿って手技を確認する。 (B)「喀痰吸引(鼻腔内)自己評価表」に沿って手技を実施し、完全に習得できるようにする。</p> <p>到達目標 (A)「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿って実施し、手順を確認する。 (B)「喀痰吸引(鼻腔内)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、完璧にできる。</p>

27.	中島 他	演習	<p>内 容 (A)経管栄養(経鼻)の演習② (B)喀痰吸引(気管カニューレ内部)の演習① (A)「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、間違いなどその場で指導を受ける。 (B)指導を受けながら「喀痰吸引(気管カニューレ内部)自己評価表」に沿って手技を確認する。</p> <p>到達目標 (A)「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿って、指導を受けながら、ひとりで実施することができる。 (B)「喀痰吸引(気管カニューレ内部)自己評価表」に沿って実施し、手順を確認する。</p>				
28.	中島 他	演習	<p>内 容 (A)経管栄養(経鼻)の演習③ (B)喀痰吸引(気管カニューレ内部)の演習② (A)「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、実施後に間違いなどの指導を受ける。 (B)「喀痰吸引(気管カニューレ内部)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、実施後に間違いなどの指導を受ける。</p> <p>到達目標 (A)「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿って、概ねひとりで実施することができる。 (B)「喀痰吸引(気管カニューレ内部)自己評価表」に沿って概ねひとりで実施することができる。</p>				
29.	中島 他	演習	<p>内 容 (A)経管栄養(経鼻)の演習④ (B)喀痰吸引(気管カニューレ内部)の演習③ (A)「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、実施後に間違いなどの指導を受ける。 (B)「喀痰吸引(気管カニューレ内部)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、実施後に間違いなどの指導を受ける。</p> <p>到達目標 (A)「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿って、概ねひとりで実施することができる。 (B)「喀痰吸引(気管カニューレ内部)自己評価表」に沿って概ねひとりで実施することができる。</p>				
30.	中島 他	演習	<p>内 容 (A)経管栄養(経鼻)の演習⑤ (B)喀痰吸引(気管カニューレ内部)の演習④ (A)「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿って手技を実施し、完全に習得できるようにする。 (B)「喀痰吸引(気管カニューレ内部)自己評価表」に沿って手技を実施し、完全に習得できるようにする。</p> <p>到達目標 (A)「経管栄養(経鼻)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、完璧にできる。 (B)「喀痰吸引(気管カニューレ内部)自己評価表」に沿ってひとりで実施し、完璧にできる。</p>				
成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	合計	
	40%			60%		100%	
教科書	最新介護福祉士養成講座⑮「医療的ケア」(第2版)編集:介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版						
参考文献							
その他 (留意点等)	第14回までは医療的ケアIの30コマと合わせて基本研修の座学部分とする 第14回目に座学の最終筆記試験を実施(90%以上の正解がない者は第15回以降の演習に進むことができない)						

科目名	【高齢者自立支援介護】						
担当者	根岸 広英						
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	2年	後期	講義	2単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	①事例を通じて要介護高齢者の自立性を改善するケアを知る ②自立・重度化予防に必要な基礎知識を学ぶ ③ADLの改善とQOLの向上（その後の生活）を知る						
到達目標	普段の体調を整え、体力・活動力を高める基本ケアの基礎知識を習得する						
実務経験と 授業内容への 活用	特別養護老人ホーム、通所介護、訪問介護、グループホーム、有料老人ホームにて介護職、ケアマネ、生活相談員、施設長、本部管理職（教育・運営指導）として17年以上勤務。自立支援介護を実践し特養で便失禁ゼロ、下剤ゼロ、在宅復帰、経管栄養から常食化、介護度改善などを行ってきた。今までの実務経験を活用し、自立支援介護の事例を紹介しながら講義を行う。						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	根岸	講義	内 容 自立支援介護総論 実際の要介護高齢者の改善事例を動画やデータなどから学ぶ 到達目標 要介護状態となった高齢者でも自立性を改善することは可能であることを認識する。			
	2.	根岸	講義	内 容 自立支援介護総論 ①実際の要介護高齢者の改善事例を動画やデータなどから学ぶ ②グループワーク（当事者と支援者の視点） 到達目標 ①要介護状態となった高齢者でも自立性を改善することは可能であることを認識する。 ②当事者の視点と支援者の視点の違いを学ぶ			
	3.	根岸	講義	内 容 自立支援介護総論 自立支援介護の総論を学ぶ 到達目標 ADLの意味を理解する			
	4.	根岸	講義	内 容 自立支援介護総論 高齢者の心身の特徴を学ぶ 到達目標 高齢者の心身の特徴と基本ケアの各項目を理解する			
	5.	根岸	講義	内 容 実践報告 （ゲストスピーカー） 先進的ケアの取組を学ぶ 到達目標 ①ADLとQOLの関係を知る ②社会福祉法人の役割を知る ～地域活動～			
	6.	根岸	講義	内 容 水分ケア理論 体内での水分の役割や水分欠乏による症状を学ぶ 到達目標 水分の重要性と水分欠乏で生じる症状を理解する			
	7.	根岸	講義	内 容 歩行ケア理論 自立歩行に向けたケア理論を学ぶ 到達目標 歩行の重要性と歩行能力を向上させるためのケアを理解する			
	8.	根岸	講義	内 容 排泄ケア理論① 排尿のメカニズムと尿失禁の原因を学ぶ 到達目標 尿失禁の種類と尿失禁を改善させるためのケアを理解する			
	9.	根岸	講義	内 容 実践報告 （ゲストスピーカー） 先進的ケアの取組を学ぶ 到達目標 自立支援介護の最先端施設の取組を知る			

10.	根岸	講義	<p>内 容 排泄ケア理論② 排便のメカニズムと便失禁の原因を学ぶ</p> <p>到達目標 便失禁の原因と便失禁を改善させるためのケアを理解する</p>				
11.	根岸	講義	<p>内 容 食事ケア理論 食事の意味と常食化に向けたケア理論を学ぶ</p> <p>到達目標 食事の重要性和常食化に向けたケア理論を理解する</p>				
12.	根岸	講義	<p>内 容 基礎理論振り返り 自立支援介護の基礎理論を再学習する</p> <p>到達目標 自立支援介護の基礎理論を習得する</p>				
13.	根岸	講義	<p>内 容 パワーリハビリ（ゲストスピーカー） 老化に対するリハビリを学ぶ</p> <p>到達目標 パワーリハビリテーションを知る</p>				
14.	根岸	講義	<p>内 容 振り返り 振り返り</p> <p>到達目標 自立支援介護とは何かを説明することができる</p>				
15.	根岸	講義	<p>内 容 総括 総括</p> <p>到達目標 基礎理論を習得する</p>				
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	合計	
	90%		10%			100%	
教科書							
参考文献							
その他 （留意点等）							

科目名		【介護福祉総合学Ⅰ（1クラス）】					
担当者		野田 朋法					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	2年	後期	講義	2単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	介護福祉士国家試験の合格に向けて、各パート各科目の知識を身に付ける 自身の得意科目、不得意科目を把握し、各科目の得点力UPを図る						
到達目標	①各科目の重要ポイントを理解し、国家試験頻出問題を正答できる ②国家試験の合格レベルに達することができる ③定期試験は6割の得点を獲得できる						
実務経験と 授業内容への 活用	介護福祉士及び福祉領域関連資格、看護師資格を有する教員が、福祉施設や病院における介護が必要とされる方への実務経験を活かして介護福祉士の資格を取得する為の実習の目的や意義について教授をする						
	担当	授業方法		内容・到達目標			
授業計画	1.	野田	講義	内 容 Aパート 人間の尊厳と自立 人間の尊厳と自立の復習 到達目標 重要ポイント及び出題傾向を理解する			
	2.	野田	講義	内 容 Aパート 介護の基本 介護の基本の復習 到達目標 重要ポイント及び出題傾向を理解する			
	3.	野田	講義	内 容 Aパート 社会の理解 社会の理解の復習 到達目標 重要ポイント及び出題傾向を理解する			
	4.	野田	講義	内 容 Aパート 人間関係とコミュニケーション 人間関係とコミュニケーションの復習 到達目標 重要ポイント及び出題傾向を理解する			
	5.	野田	講義	内 容 Aパート 生活支援技術 生活支援技術の復習 到達目標 重要ポイント及び出題傾向を理解する			
	6.	野田	講義	内 容 Bパート ころとからだのしくみ ころとからだのしくみの復習 到達目標 重要ポイント及び出題傾向を理解する			
	7.	野田	講義	内 容 Bパート 発達と老化の理解 発達と老化の理解の復習 到達目標 重要ポイント及び出題傾向を理解する			
	8.	野田	講義	内 容 Bパート 認知症の理解 認知症の理解の復習 到達目標 重要ポイント及び出題傾向を理解する			

9.	野田	講義	<p>内 容 Bパート 障害の理解 障害の理解の復習</p> <p>到達目標 重要ポイント及び出題傾向を理解する</p>			
10.	野田	講義	<p>内 容 Bパート 医療的ケア 医療的ケアの復習</p> <p>到達目標 重要ポイント及び出題傾向を理解する</p>			
11.	野田	講義	<p>内 容 Cパート 介護過程 介護過程の復習</p> <p>到達目標 重要ポイント及び出題傾向を理解する</p>			
12.	野田	講義	<p>内 容 Cパート 総合問題 総合問題の復習</p> <p>到達目標 重要ポイント及び出題傾向を理解する</p>			
13.	野田	講義	<p>内 容 総復習 A・Bパートの総復習</p> <p>到達目標 重要ポイント及び出題傾向を理解する</p>			
14.	野田	講義	<p>内 容 総復習 Cパートの総復習</p> <p>到達目標 重要ポイント及び出題傾向を理解する</p>			
15.	野田	講義	<p>内 容 振り返り</p> <p>到達目標 各科目の解説</p>			
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	合計
	100%					100%
教科書	目で覚える介護福祉士国試ナビ2027 中央法規出版					
参考文献	適宜プリントを配布する					
その他 （留意点等）						

科目名	【介護福祉総合学Ⅰ（2・3クラス）】						
担当者	細野 真代 野田 朋法						
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	2年	後期	講義	2単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	身体・精神上の障害により日常生活が困難な方々を支える専門職として、介護福祉士に求められる一定の基準を満たした知識と技術の習得を目指します。特に留学生の特性に配慮し、専門用語の深い理解と事例検討を通じた思考プロセスの構築に重点を置き、国家試験合格に向けた総合的な指導を行います。						
到達目標	<p>1. 専門語彙の習得と国家試験読解力の向上（知識・理解） 国家試験に頻出する専門用語を正しく理解し、抽象度の高い表現を現場の具体例や「やさしい日本語」と結びつけて説明できる。漢字の構成や文脈から未知の単語の意味を推論し、設問の意図を正確に読み解くことができる。</p> <p>2. 理論と実践の統合による事例解決能力の育成（思考・判断） これまでの講義で学んだ理論と実習での経験を統合し、事例問題に対して「介護の原則（尊厳の保持・自立支援）」に基づいた適切な解答を導き出すことができる。 多角的な視点から利用者の状況を分析し、根拠（エビデンス）に基づいた専門職としての判断・行動プロセスを言語化できる。</p> <p>3. 自律的な学習管理能力と協働姿勢の確立（態度・マネジメント） 国家試験合格というビジョンを明確に持ち、試験日までの学習スケジュールを自ら設計・管理し、継続的に実行できる。 チーム学習（ピア・ラーニング）を通じて、仲間と知識を共有し、教え合い・学び合うことで、専門職に不可欠な多職種連携の基礎となる協調性を養う。</p>						
実務経験と 授業内容への 活用	介護福祉士の教員として20年間の経験から、身体・精神上の障害により日常生活が困難な方々を支える専門職として、介護福祉士に求められる一定の基準を満たした知識と技術の習得ができるような指導を行う。特に留学生の特性に配慮し、専門用語の深い理解と事例検討を通じた思考プロセスの構築に重点を置き、資格取得に向けた総合的な指導を行います。						
	担当	授業方法	内容・到達目標				
	1.	細野	講義	<p>内 容 オリエンテーションとビジョン形成 卒業までのロードマップ提示、自己管理スケジュールの作成法。</p> <p>到達目標 卒業までの全体像を把握し、自身の学習計画を立てられる。</p>			
	2.	細野	講義	<p>内 容 介護福祉のための専門的の日本語①（基本語彙と漢字 頻出用語の言い換え、漢字の構成からの意味推論。</p> <p>到達目標 専門用語リストを使い、主要語彙を日本語で説明できる。</p>			
	3.	細野	講義	<p>内 容 情報検索と自己解決スキル 不明な語彙・制度の調べ方、信頼できる情報の探し方</p> <p>到達目標 自力で調べるようになり、リサーチしたものを発表し説明できる。</p>			
	4.	細野	講義	<p>内 容 社会の理解（日本の制度に慣れる） 社会保険制度、介護保険法の全体像を視覚的に理解する。</p> <p>到達目標 複雑な制度の仕組みを、わかりやすく他者に説明できる</p>			
	5.	細野	講義	<p>内 容 社会の理解（日本の制度に慣れる） 社会保険制度、介護保険法の全体像を視覚的に理解する。</p> <p>到達目標 複雑な制度の仕組みを、わかりやすく他者に説明できる</p>			
	6.	細野	講義	<p>内 容 社会の理解（日本の制度に慣れる） 社会保険制度、介護保険法の全体像を視覚的に理解する。</p> <p>到達目標 複雑な制度の仕組みを、わかりやすく他者に説明できる</p>			
	7.	細野	講義	<p>内 容 ところとからだのしくみ 解剖生理学、高齢者、障害者に多い疾患と症状について理解する。</p> <p>到達目標 身体の仕組みに基づいた根拠あるケアを言語化できる。疾患名と具体的な症状・留意点を結びつけて説明できる。</p>			

授業計画	8.	細野	講義	<p>内 容 ころとからだのしくみ 解剖生理学、高齢者、障害者に多い疾患と症状について理解する。</p> <p>到達目標 身体の仕組みに基づいた根拠あるケアを言語化できる。疾患名と具体的な症状・留意点を結びつけて説明できる。</p>			
	9.	細野	講義	<p>内 容 ころとからだのしくみ 解剖生理学、高齢者、障害者に多い疾患と症状について理解する。</p> <p>到達目標 身体の仕組みに基づいた根拠あるケアを言語化できる。疾患名と具体的な症状・留意点を結びつけて説明できる。</p>			
	10.	細野	講義	<p>内 容 生活支援技術 ボディメカニクスや移動・食事・排泄介助の理論的根拠。</p> <p>到達目標 介護技術の根拠を説明できる。</p>			
	11.	細野	講義	<p>内 容 生活支援技術 ボディメカニクスや移動・食事・排泄介助の理論的根拠。</p> <p>到達目標 介護技術の根拠を説明できる。</p>			
	12.	細野	講義	<p>内 容 生活支援技術 ボディメカニクスや移動・食事・排泄介助の理論的根拠。</p> <p>到達目標 介護技術の根拠を説明できる。</p>			
	13.	細野	講義	<p>内 容 生活支援技術 ボディメカニクスや移動・食事・排泄介助の理論的根拠。</p> <p>到達目標 介護技術の根拠を説明できる。</p>			
	14.	細野	講義	<p>内 容 実戦！模擬演習と消去法の活用 過去問を用いたタイムトライアル</p> <p>到達目標 設問の意図を素早く把握し、消去法を用いて正解を導き出せる。</p>			
15.	細野	講義	<p>内 容 前期のまとめと夏季学習計画 前期の振り返りと、夏季休暇中の自己管理目標の再設定</p> <p>到達目標 自身の弱点を把握し、後期に向けた具体的な学習計画を更新できる。</p>				
成績評価	定期試験	小テスト(チェック)	レポート(提出物)	実技試験	プレゼンテーション	合計	
	70%	30%				100%	
教科書	見て覚える国試ナビ						
参考文献							
その他 (留意点等)							

科目名		【介護福祉総合学Ⅱ】					
担当者		岸本 恭子 野田 朋法					
学科	昼夜	学年	学期	形式	単位	授業回数	
介護福祉学科	昼間部	2年	後期	講義	2単位	15回	
授業の目的 (ねらい)	介護福祉士養成課程の総まとめとして、基礎力の徹底と横断的思考の育成を柱に据え、過去問題を中心に学習を進めることである。また、留学生を含む多様な学習者に配慮し、事例問題や複合問題については丁寧な解説を行い、理解を深めながら確実に解答できる力を養うことを目指す。						
到達目標	介護福祉士試験に合格するためには、繰り返し出題される重要問題に対して確実に解答できる力を養うことが必要である。また、基礎的な知識を身につけたうえで、段階的に応用力を高め、事例問題にも多角的な視点から取り組める力を育てていく。						
実務経験と 授業内容への 活用	本試験の分析結果や解答解説の蓄積を活かした学習を行い、頻出問題や事例問題に対応できる力を身につけることを目指す。これらの学習を通して、知識の定着だけでなく、状況に応じて適切に判断し解答できる応用力を養う。						
		担当	授業方法	内容・到達目標			
授業計画	1.	岸本	講義	内 容 Bパート オリエンテーション・Bパート（医療的ケア） 到達目標 基礎的な頻出問題を押さえる			
	2.	岸本	講義	内 容 Bパート Bパート（障害の理解） 到達目標 基礎的な頻出問題を押さえる			
	3.	岸本	講義	内 容 Bパート Bパート（認知症の理解） 到達目標 基礎的な頻出問題を押さえる			
	4.	岸本	講義	内 容 Bパート Bパート（発達と老化の理解） 到達目標 基礎的な頻出問題を押さえる			
	5.	岸本	講義	内 容 Bパート Bパート（こころとからだのしくみ） 到達目標 基礎的な頻出問題を押さえる			
	6.	岸本	講義	内 容 Aパート Aパート（人間の尊厳と自立・介護の基本） 到達目標 基礎的な頻出問題を押さえる			
	7.	岸本	講義	内 容 Aパート Aパート（社会の理解） 到達目標 基礎的な頻出問題を押さえる			
	8.	岸本	講義	内 容 Aパート Aパート（人間関係とコミュニケーション・コミュニケーション技術） 到達目標 基礎的な頻出問題を押さえる			

9.	岸本	講義	<p>内 容 Aパート Aパート（生活支援技術）</p> <p>到達目標 基礎的な頻出問題を押さえる</p>				
10.	岸本	講義	<p>内 容 Cパート Cパート（介護過程）</p> <p>到達目標 基礎的な頻出問題を押さえる</p>				
11.	岸本	講義	<p>内 容 Cパート 事例問題</p> <p>到達目標 事例問題の出題意図を読み解く</p>				
12.	岸本	講義	<p>内 容 事例問題 事例問題</p> <p>到達目標 事例問題の出題意図を読み解く</p>				
13.	岸本	講義	<p>内 容 事例問題 事例問題</p> <p>到達目標 事例問題の出題意図を読み解く</p>				
14.	岸本	講義	<p>内 容 事例問題 Cパート（総合問題）</p> <p>到達目標 事例問題の出題意図を読み解く</p>				
15.	岸本	講義	<p>内 容 総合問題 Cパート（総合問題）</p> <p>到達目標 事例問題の出題意図を読み解く</p>				
成績評価	定期試験	小テスト（チェック）	レポート（提出物）	実技試験	プレゼンテーション	授業態度	合計
	100%						100%
教科書							
参考文献							
その他 （留意点等）							